

KN2108/KN2116

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KN2108/KN2116 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2009 年 1 月 19 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

- (1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。
- (2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。
- (3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・ 本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・ 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・ 製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC	11
RoHS	11
SJ/T 11364-2006	11
安全にお使い頂くために	12
一般的な注意	12
ラックへのマウント	14
同梱品	15
本マニュアルについて	16
マニュアル表記について	17
第1章 はじめに	18
製品概要	18
特長	20
必要システム構成	21
リモートコンピュータ側	21
コンピュータ側	21
コンピュータモジュール	22
製品各部名称	23
フロントパネル	23
KN2108	23
KN2116	23
リアパネル	26
KN2108	26
KN2116	26
第2章 ハードウェアセットアップ	28
はじめに	28
セットアップの前に	28
デバイスの卓上設置とラックマウント	29
卓上設置	29
ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)	30
ラックマウント(ラックのフロント側に設置する場合)	32
ラックマウント(ラックのリア側に設置する場合)	34
単体使用	36
接続図(単体使用時)	37
コンピュータモジュール接続図	38
2段階カスケード接続	39
接続図(2段階カスケード接続時)	40
ホットプラグ	41

終了と再起動	41
ポートIDの割り当て	42
ポート選択	42
第3章 管理メニュー	43
概要	43
ローカルコンソール	43
Mainタブ	46
クイックビューポート	46
リスト機能	47
ポートネーム	49
ポート操作	51
Configurationタブ	52
Logタブ	52
Administrationタブ	53
Generalメニュー	53
User Managementメニュー	54
Service Configurationメニュー	57
Access Port	57
Log Server	58
Networkメニュー	59
IP Address	59
DNS Server	60
ANMSメニュー	61
RADIUS 設定	61
RADIUSサーバーアクセス権一覧	62
RADIUSサーバーアクセス権の例	63
CC管理設定	63
Securityメニュー	64
IPアドレスおよびMACアドレスによるフィルタリング	64
Default Web Page Name	65
Cusomizationメニュー	66
Login Failures	66
Working Mode	66
I/O Modules	67
Upgrade	67
Attributes	68
シェアモード属性表	69
属性の変更	69
その他の機能	70
Date/Timeメニュー	71

ファームウェアアップグレード	72
第 4 章 ブラウザ操作	73
概要	73
ログイン	73
Webページレイアウト	75
Generalメニュー	75
Webページアイコン	76
Webページボタン	77
第 5 章 Windowsクライアント	79
OSDの起動	79
Mainタブ	81
ポート操作	82
OSDツールバー	82
OSD画面の再呼び出し	82
OSDホットキー早見表	83
ツールバーアイコン	84
ホットキー操作	85
オートスキャン	85
スキャンインターバルの設定	85
オートスキャンの呼び出し	85
オートスキャンの一時停止	86
オートスキャンの終了	86
スキップモード	86
パネルアレイモード	87
マルチユーザーによる操作	89
Windowsクライアントコントロールパネル	90
ホットキー	91
ホットキー操作	92
ホットキーの設定	93
マウスの同期	93
VGAユーティリティ	94
一般的な設定	94
ガンマ値調節	96
メッセージボード	97
ボタンバー	98
メッセージ表示パネル	98
メッセージ入力パネル	98
ユーザーリストパネル	99
Configurationタブ	100
第 6 章 Javaクライアント	103

OSDの起動	103
Javaクライアント コントロールパネル	105
ビデオアジャスト (歯車ボタン)	106
キーボード (キーボードボタン)	106
マウス (マウスボタン)	107
メッセージボード	107
メッセージボードボタンバー	108
Lockキー LED (中央上段)	109
VGA解像度 (中央下段)	109
クエスチョンマーク	110
終了	110
ポート操作	111
パネルアレイモード	111
ホットキー操作	112
Configurationタブ	112
第7章 ログファイル	113
メイン画面	113
第8章 ログサーバ	114
インストール	114
はじめに	115
メニューバー	116
Configure	116
Events	117
Search	117
Maintenance	119
Options	120
ログサーバ メイン画面	121
概要	121
リストパネル	122
イベントパネル	122
第9章 ユーティリティソフトウェア	123
はじめに	123
Windowsクライアント	123
セットアップ	123
起動方法	124
Fileメニュー	126
Toolsメニュー	126
Keyboard	126
Config	127
接続方法	128

操作方法	129
Javaクライアント	130
セットアップ	130
起動方法	131
操作方法	132
付録.....	133
トラブルシューティング	133
一般的な操作	133
管理操作	134
Windowsクライアント	135
Javaクライアント.....	136
ログサーバ	136
Sunシステム	137
パネルアレイモード	137
信頼された証明書	138
概要	138
証明書のインストール	139
証明書のインストール完了	140
その他のマウス同期方法	141
製品仕様.....	145
OSD工場出荷時設定	146
KN2108/KN2116 とのカスケード接続対応製品.....	147
ログイン情報の消去	148

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KN2108/KN2116 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KN2108/KN2116 Over the NET™ KVM スイッチ ×1
- ◆ 電源ケーブル ×1
- ◆ ラックマウントキット(ブラケットおよび M3 プラスネジ × 8) ×1
- ◆ フットパッドセット(4 個入) ×1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。


本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KN2108/KN2116 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章 はじめに:**KN2108/KN2116 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。
 - 第2章 ハードウェアセットアップ:**KN2108/KN2116 のセットアップ方法、および基本操作手順について説明します。
 - 第3章 管理メニュー:**OSD による KN2108/KN2116 の環境設定の手順、また、KN2108/KN2116 のローカルコンソールからの操作方法について説明します。
 - 第4章 ブラウザ操作:**Web ブラウザ経由での KN2108/KN2116 へのログイン方法および Web ページの各種アイコンとボタンについて説明します。
 - 第5章 Windows クライアント:**Windows クライアントを用いた KN2108/KN2116 へのログイン方法について説明します。また OSD 画面を用いたコンピュータへのアクセスおよびコントロール方法についても説明します。
 - 第6章 Java クライアント:**Java クライアントを用いた KN2108/KN2116 へのログイン方法を説明します。また OSD 画面を用いたコンピュータへのアクセスおよびコントロール方法についても説明します。
 - 第7章 ログファイル:**ログファイルユーティリティを用いて、KN2108/KN2116 で発生したイベントを参照する方法を説明します。
 - 第8章 ログサーバ:**ログサーバの導入および設定方法を説明します。
 - 第9章 ユーティリティソフトウェア:**ユーザーがブラウザを使わずに Windows/Java 各クライアントソフトウェアを用いて KN2108/KN2116 を操作する方法について説明します。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

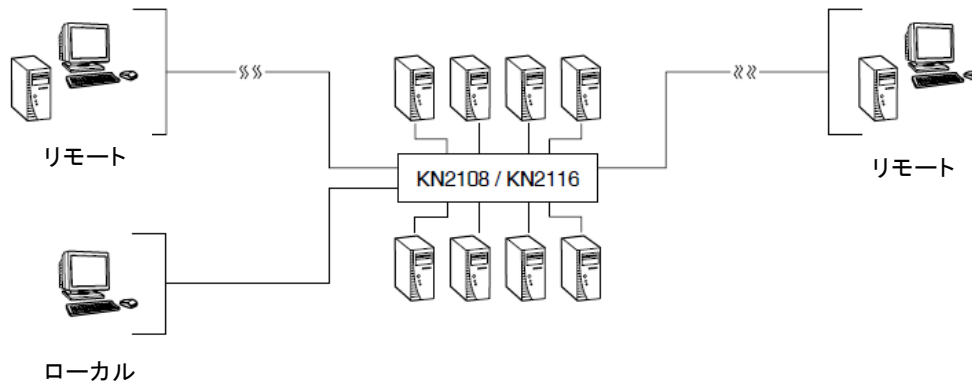
- [] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。
1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
- 矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。
-  重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

製品概要

KN2108/KN2116 は、リモート・ローカル双方のオペレータによって1組のコンソールから複数コンピュータへのアクセスや操作を可能にした IP ベースの KVM スイッチです。例えば、KN2116 は1組のコンソールで最大16台のコンピュータを操作することができ、また、この機種とのカスケード接続に対応した KVM スイッチを16台使用し、2段階のカスケード接続をすることによって、最大256台のコンピュータを操作することができます。

KN2108/KN2116 は通信プロトコルに TCP/IP を使用し、インターネットに接続されたコンピュータならどこからでも一オフィスでも、街角でも、地球の裏側からでも一リモートサーバにアクセスすることができます。



KN2108/KN2116 に接続されたコンピュータへのローカルコンソールからのアクセスは、便利で簡単なホットキー、またはマウス操作に対応した OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューシステムを使用します。便利なオートスキャン機能は、コンソールモニタに接続されたコンピュータ画面を自動的に切替表示し、監視することができます。

リモートのコンピュータからは IP アドレス経由で KN2108/KN2116 に接続します。KN2108/KN2116 の製品キットで提供されるユーティリティソフトウェアはスムーズで効率的なリモートアクセスを可能にします。OSD 機能はシステム管理者が日々直面する膨大なメンテナンス

ス業務—GUI アプリケーションのインストールや運用、BIOS レベルのトラブルシューティング、ルーチンモニタリング、並行メンテナンス、システム管理、再起動等—を簡単にします。

リモートユーザーは、インターネットに接続されたコンピュータならどこからでも、Web ブラウザを使用して KN2108/KN2116 にログインすることができます。ログインしたユーザーは Windows クライアントまたは Java クライアントを使用して、KN2108/KN2116 に接続されたコンピュータの操作を行います。なかでも、Java クライアントはプラットフォームから独立しておりますので、Java 対応のすべての OS 上で実行可能です。

クライアントソフトウェアを使うことで KN2108/KN2116 に接続されたコンピュータのキーボード、マウス、ビデオ信号を、あたかもローカル接続されたコンソールを使用しているかのように入力することができます。KN2108/KN2116 のパネルアレイ機能は分割画面方式で最大 8 台または 16 台までのビデオ出力を同時表示させることができます。

KN2108/KN2116 は RJ-45 コネクタを搭載しておりますので、カテゴリ 5 ケーブルを使って各コンピュータに接続することができます。この画期的な省スペース設計は、わずか 19 インチシステムラック 1U サイズの KVM スイッチに 8 ポート(KN2108)/16 ポート(KN2116)のコンピュータポートを実装することを可能にしました。したがって、KN2108/KN2116 を導入していただければ、最新のオフィスビルに設置された内部ネットワークを十分活用することができます。

セットアップは便利で簡単です。ケーブルを適切なポートに接続するだけで作業完了です。KN2108/KN2116 はキーボード入力をダイレクトに受け付けますので、複雑なインストール作業や互換性の問題に悩まされることもありません。

KN2108/KN2116 のファームウェアはオンライン状態のままアップグレード可能です。弊社 Web サイトにて、更新された最新のファームウェアをダウンロードしていただくだけで、常に最新の状態に保つことができます。

KN2108/KN2116 はその進んだセキュリティ機能によって、分散化した複数のコンピュータに対して最も速く効果的で信頼のおけるリモートアクセスを実現します。

特長

- ◆ リモートアクセス可能な 8 ポート(KN2108)/16 ポート(KN2116) KVM スイッチー最大 8 台(KN2108)/16 台(KN2116)のコンピュータを 1 組のコンソールで操作可能
- ◆ LAN、WAN、インターネット経由のリモートアクセスー接続されたコンピュータをネットワーク経由で操作可能
- ◆ ローカル/リモートマルチユーザー対応ーリモート 2 人/ローカル 1 人の合計 3 人のユーザーが異なるポートに同時アクセスすることが可能
- ◆ Web ブラウザ操作ーWindows クライアントおよび Java クライアントを提供。Java クライアントは対応するすべての OS で実行可能*
- ◆ OSD とツールバーによる便利でユーザーフレンドリーな操作性
- ◆ パネルアレイモードーモニタを分割して同時監視が可能(8/16 分割対応)
- ◆ Windows ベースのログサーバー KN2108/KN2116 に接続されたコンピュータとは別にログサーバを設置できるため、ログの個別管理が可能
- ◆ Power over the NET™ モジュールのリモートブート機能対応
- ◆ 最大 64 名のユーザーアカウント作成可能ー最大 32 ユーザーの同時ログインが可能
- ◆ 3 段階のユーザーレベルによるセキュリティ対策ーアドミニストレーター、ユーザー、ビューワの 3 レベルが設定可能
- ◆ 強力なセキュリティ機能ーパスワード保護および高度な暗号化技術-1024bit RSA、56bit DES、256bit AES、128bit SSL-に対応
- ◆ RADIUS 認証対応
- ◆ ネットワーク経由でのスピーディーなファームウェアアップグレードが可能
- ◆ 主要なサーバープラットフォームや VT100 ベースのシリアルデバイスに対応
- ◆ PS/2、USB および Sun を含むマルチプラットフォームサーバーの環境に対応
- ◆ 10Base-T、100Base-T、TCP/IP、HTTP 対応
- ◆ VGA 解像度ー最大 1,280×1,024@60Hz
- ◆ 用途に応じた自由度の高いラックマウントを実現ーフロントパネルは機器本体から分離できるため、製品のフロントパネルをラックのフロント側に、本体をリア側にそれぞれマウントするといった方法が可能
- ◆ RJ-45 ポート搭載 16 ポート KVM スイッチーカテゴリ 5 ケーブル使用のためラックの後ろもすっきりと配線することが可能

* ブラウザが 128bit SSL 暗号化に対応している必要があります。

必要システム構成

リモートコンピュータ側

- ◆ KN2108/KN2116 へのリモートアクセス時に最適なパフォーマンスを発揮するためには、リモートコンピュータは PentiumⅢプロセッサ 1GHz 以上の性能が必要です。また、VGA 解像度は 1,024×768 に設定してください。
- ◆ KN2108/KN2116 に Windows クライアントを使用してアクセスする場合、コンピュータに DirectX 7.0 以降がインストールされている必要があります。Direct X は Microsoft 社 Web サイトより無料でダウンロードできますので、インストールされていない場合はこちらのサイトからダウンロードし、お使いのコンピュータにセットアップしてください。
<http://www.microsoft.com/downloads>
- ◆ KN2108/KN2116 に Java クライアントを使用してアクセスする場合、コンピュータに Sun Java 2 Runtime Environment 1.4.2 以降がインストールされている必要があります。Java は Sun Web サイトより無料でダウンロードできますので、インストールされていない場合は、こちらのサイトからダウンロードし、お使いのコンピュータにセットアップしてください。
<http://java.sun.com/>
- ◆ ブラウザが 128bit SSL 暗号化に対応している必要があります。
- ◆ KN2108/KN2116 の機能を十分にご利用いただくために、128kbps 以上の転送速度を有するネットワーク環境でお使いいただくことを推奨します。

コンピュータ側

KN2108/KN2116 のコンピュータポートに接続するコンピュータには以下の環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA あるいはマルチシンクポート
- ◆ タイプA USBポートおよびUSBホストコントローラー (USB対応コンピュータモジュール用。詳細はp.38のコンピュータモジュール接続図をご参照ください)
- ◆ ミニDIN6 ピン キーボードおよびマウスポート (PS/2 対応コンピュータモジュール用。詳細はp.38のコンピュータモジュール接続図をご参照ください)

コンピュータモジュール

- ◆ KN2108/KN2116 とコンピュータモジュールとの接続にはカテゴリ 5 以上のケーブルが必要です。(p.37の「接続図(単体使用時)」をご参照ください)
- ◆ KN2108/KN2116 対応コンピュータモジュールは以下のとおりです。

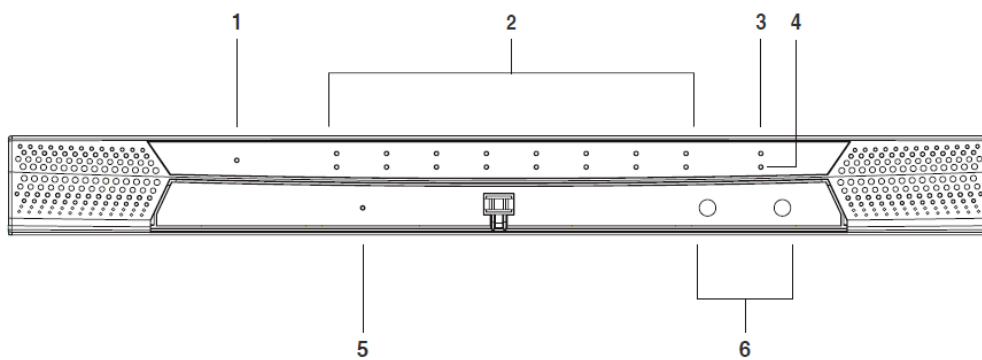
製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	PS/2 タイプコンソールポートを持つコンピュータとの接続	KA9120	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	USB コンソールポートを持つコンピュータとの接続 (Sun USB 対応)	KA9170	USB タイプ A オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	Sun 13W3 コンソールポートを持つコンピュータとの接続	KA9130	ミニ DIN8 ピン オス 13W3 オス
	Sun USB コンソールポートを持つコンピュータの接続 (販売終了製品)	KA9131	USB タイプ A オス モニタ用 D-sub15 ピン オス
	VT100 ターミナル対応	KA9140	D-sub15 ピン メス ミニ DIN6 ピン メス RS-232C DB-9 ピン メス

注意: ダイアログボックスによっては、コンピュータモジュールが「I/O モジュール」といった名称で表記されています。ご了承ください。

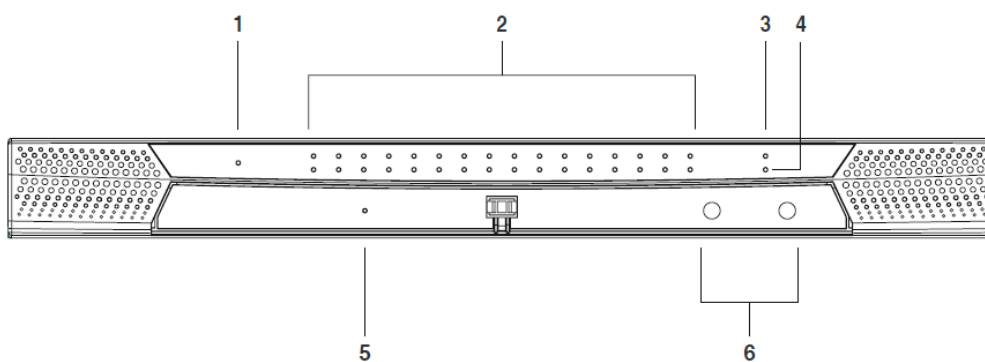
製品各部名称

フロントパネル

KN2108



KN2116



注意: 上図はフロントカバーを開けたときの製品イメージです。フロントカバーはフロントパネルの下部にあり、カバーの中央部を押すことで開くことができます。

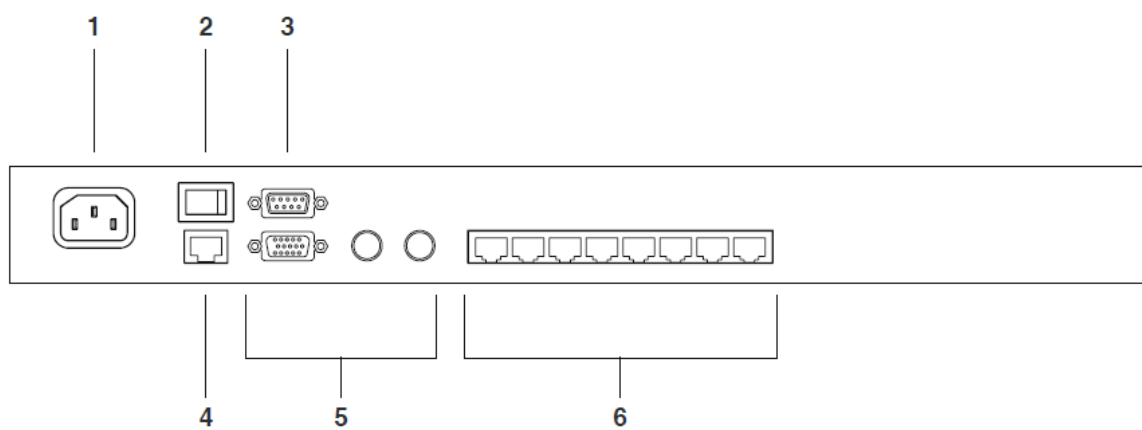
No.	名称	説明
1	電源 LED ランプ	このランプがオンになっている場合、KN2108/KN2116 の電源が入っており、操作可能であることを表します。
2	ポート LED ランプ	<p>ポート LED は 2 個 1 組で各ポートに内蔵されており、対応する CPU ポートのステータスを表します。上の LED はオンライン LED (ONLINE)、下の LED は選択されたポートを表す LED (SELECTED) として使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ONLINE LED は緑色に点灯し、スイッチに接続されている該当ポートのコンピュータが稼働中であることを表します。 ◆ SELECTED LED は赤色に点灯し、スイッチに接続されている該当ポートのコンピュータがKVMスイッチによって選択されていることを表します。機器が正常に動作しているとき、このLEDランプは点灯したままですが、オートスキャンモードでポートにアクセスしているときには点滅します。(詳細はp.85の「オートスキャン」をご参照ください) ◆ KN2108/KN2116 の初期使用時にはセルフチェックテストを行います。このとき、ONLINE LED と SELECTED LED の両ランプが点滅します。
3	リンク LED	このランプが緑色に点滅しているとき、専用クライアントツールが KN2108/KN2116 にアクセスしていることを表します。
4	10/100Mbps データ LED	<ul style="list-style-type: none"> ◆ この LED ランプがオレンジ色に点灯している場合はデータ転送速度が 10Mbps であることを表しています。 ◆ この LED ランプが緑色に点灯している場合はデータ転送速度が 100Mbps であることを表しています。
5	リセットスイッチ	<p>注意:このボタンはピンホール型ボタンになっているので、ペン等の細いもので押してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ このスイッチを長押ししながらスイッチに電源を入れると、現在のファームウェアのバージョンにかかわらず、工場出荷時のファームウェアのバージョンにリセットします。この操作によって、ファームウェアのアップグレードに失敗しても、もう一度アップグレード作業をやり直すことができます。 ◆ このスイッチを 2 秒以上長押しすると、システムのリセットを行います。

(表は次のページに続きます)

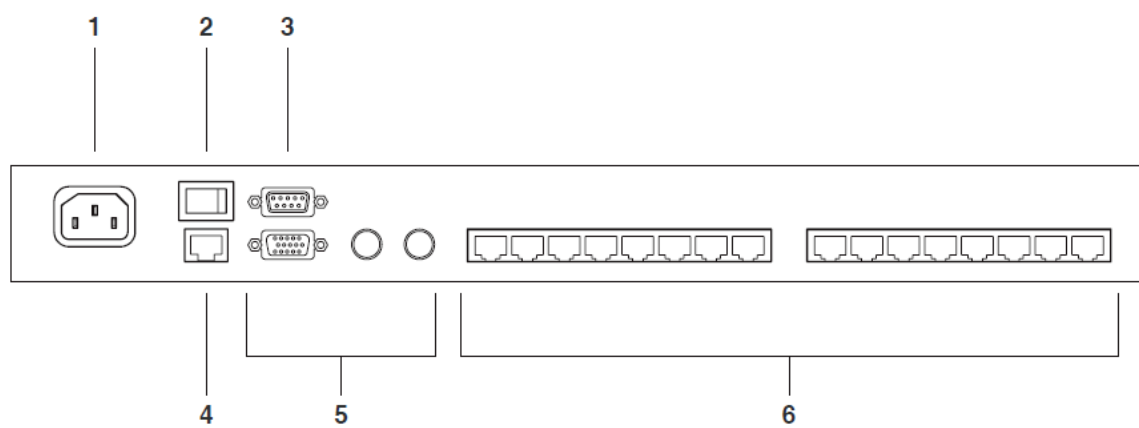
No.	名称	説明
6	ポート選択ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PORT DOWN ボタンで現在のポートから前のポートに切り替えます。 ◆ PORT UP ボタンで現在のポートから次のポートに切り替えます。

リアパネル

KN2108



KN2116



No.	名称	説明
1	電源ソケット	IEC 60320 C14 3 極ソケットです。AC 電源コードを接続してください。
2	電源スイッチ	電源のオン/オフを行うロッカースイッチです。
3	PON ポート	このポートは Power Over the Net™(PON)との接続に使用します。PON デバイスによって、KN2108/KN2116 に接続されているコンピュータはリモートからネットワークを経由して起動することが可能です。製品 Power Over the Net™の詳細は、販売店にお問い合わせください。
4	LAN ポート	KN2108/KN2116 がインターネットにつながっているケーブルをこのポートに接続します。
5	ローカルコンソール セクション	KN2108/KN2116 は IP アドレス経由、またはローカルコンソールからアクセスすることが可能です。各ポートには接続するデバイスのアイコンと PC99 準拠のカラーリングが施されていますので、それを参考にしてローカルコンソール(キーボード、マウス、モニタ)で使用するケーブルをここに接続してください。
6	KVM ポート (CPU ポート)	コンピュータモジュール(コンピュータのキーボード、モニタ、マウスの各ポートと接続)とつながっているカテゴリ 5 ケーブルをこのポートに接続します。

第2章

ハードウェアセットアップ

はじめに

PS/2 またはUSB対応のコンピュータが混在した環境や、マルチプラットフォームを利用した環境でも便利で柔軟にお使いいただけるように、KN2108/KN2116 ではスイッチ・デバイス間にコンピュータモジュール (CPUモジュール) を接続してお使いいただく仕様になっております。(p.38接続図参照)

コンピュータモジュールは、KVMスイッチに接続するコンピュータ毎に必要です。KN2108/KN2116 対応コンピュータモジュールの型番の詳細はp.22の「コンピュータモジュール」の項目をご参照ください。

セットアップの前に



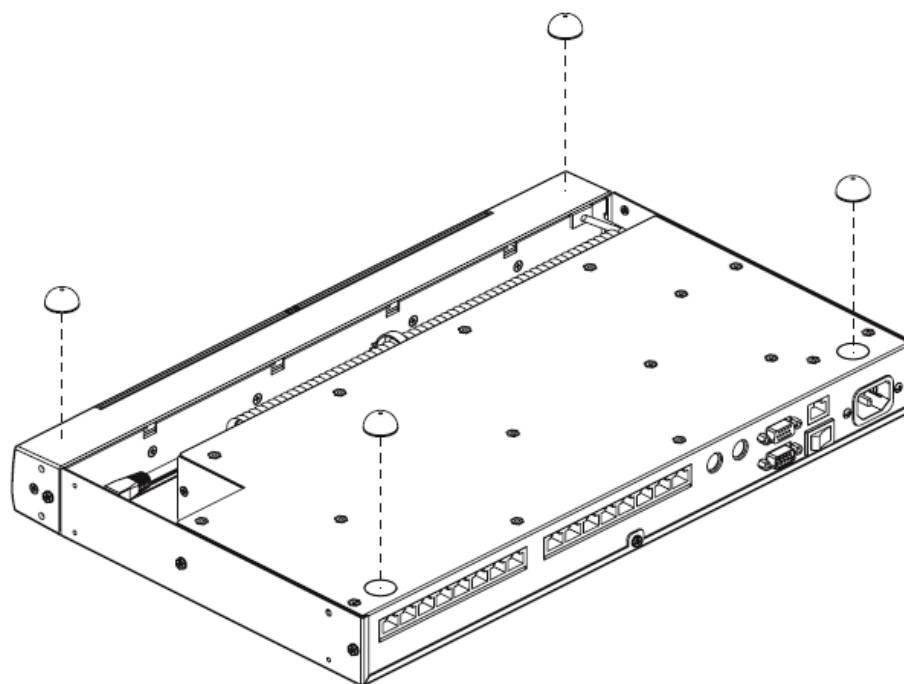
1. 機器の設置に際し重要な情報をp.12に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

デバイスの卓上設置とラックマウント

KN2108/KN2116 は水平な場所に置いたり、ラックのフロント側・リア側にマウントしたりして使用することができます。下記のセクションでは KN2108/KN2116 の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

卓上設置

KN2108/KN2116 は製品本体と同梱ケーブルの重量に耐えられる水平な場所であれば、どんな場所にも設置することが可能です。KN2108/KN2116 本体や、製品にダイジーチェーン接続されたユニットを置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下記の図のように KN2108/KN2116 底面の四隅に貼り付けてください。

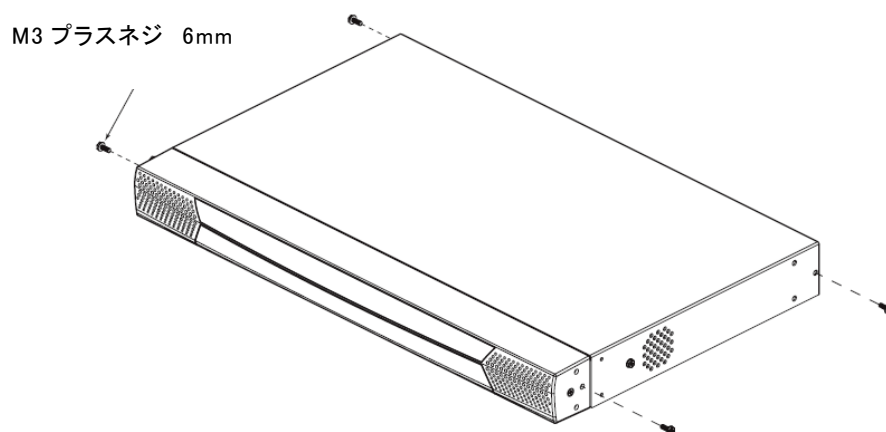


注意: 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5.1cm 以上、背面は 12.7cm 以上の空間をもうけるようにしてください。

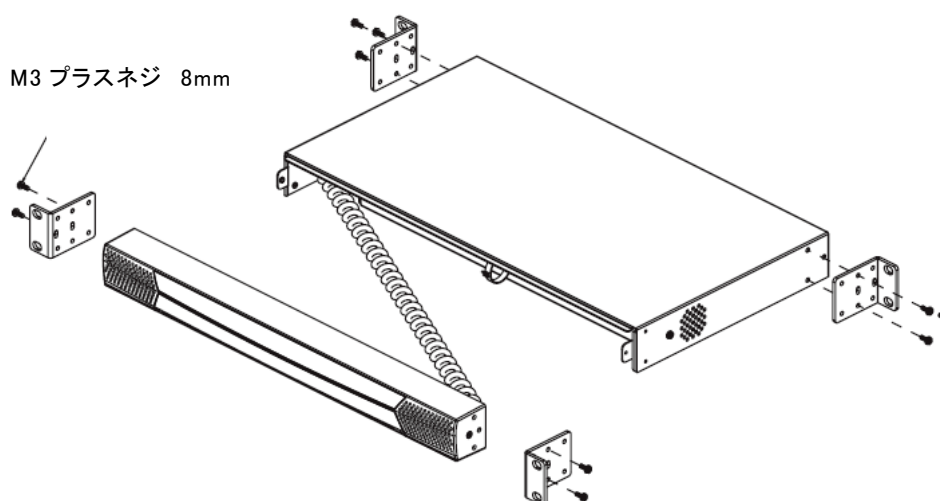
ラックマウント(フロント部分を分離して設置する場合)

KN2108/KN2116 は EIA 規格 19 インチラックの 1U サイズでマウントできる製品です。マウントブラケット用のネジ穴は機器のフロント側とリア側に設けてありますので、KN2108/KN2116 はラックのフロント側への設置、リア側への設置、製品のフロント部分と本体を分離した設置の 3 種類の方法をご用意しておりますが、お使いの環境で不都合がない限り、フロント部分と本体を分離して設置する方法でセットアップすることを推奨します。

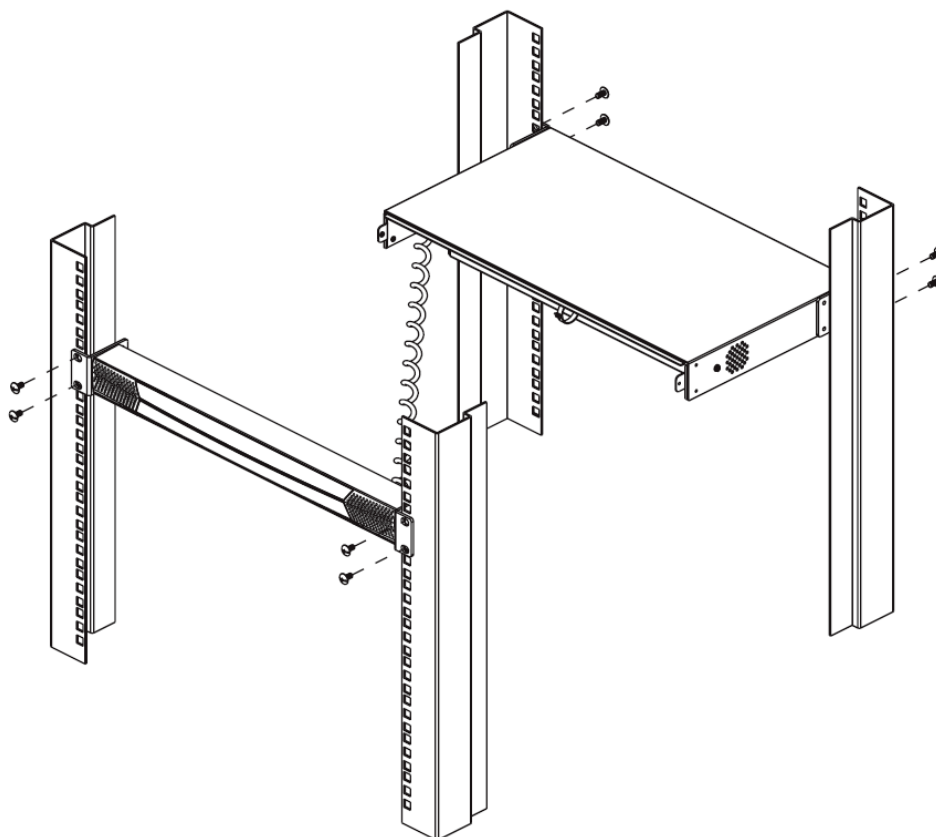
1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。



2. 製品のフロント部分を本体から分離させ、製品に同梱されているプラスネジを使って、マウント用ブラケットを下図のように取り付けます。



3. 製品のラック上での設置場所を決め、ブラケットの穴をラックの穴にあわせませす。
4. ネジでブラケットをラックに固定します。

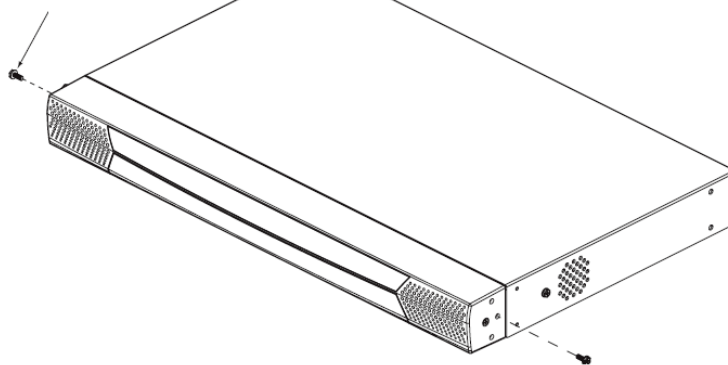


注意: ケージナットは製品に同梱されておりませんので、お手数ですが別途ご用意ください。

ラックマウント(ラックのフロント側に設置する場合)

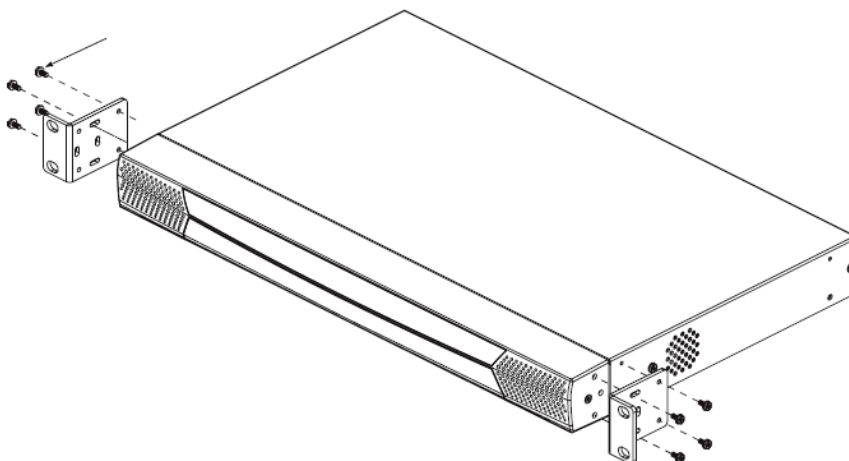
1. 下図のように、本体のフロント側についているネジをはずします。

M3 プラスネジ 6mm

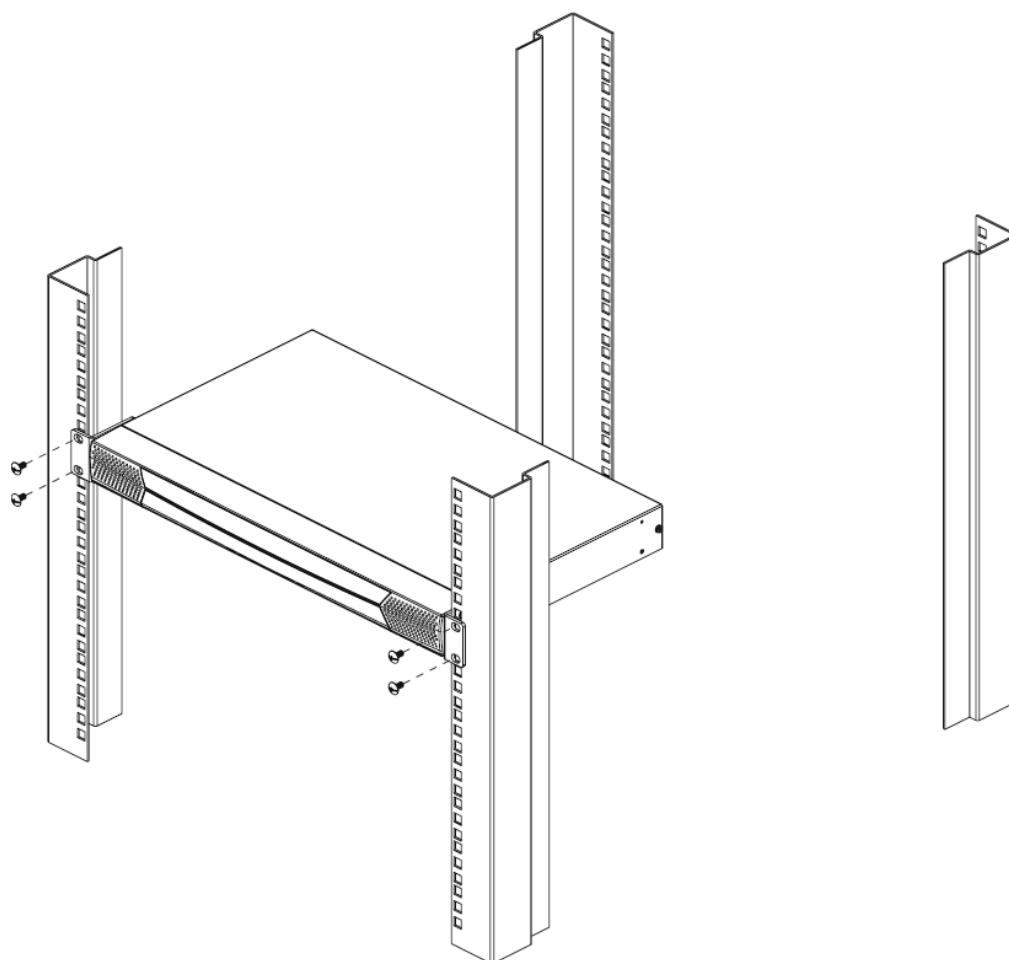


2. 製品に同梱されているプラスネジを使って、マウント用ブラケットを下図のようにフロント側に取り付けます。

M3 プラスネジ 8mm



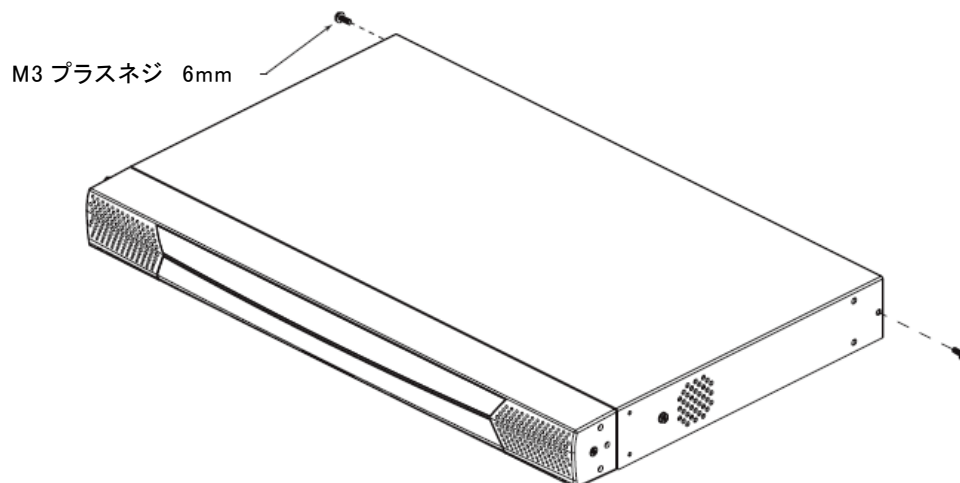
3. 製品のラック上での設置場所を決め、ブラケットの穴をラックの穴にあわせませす。
4. ネジでブラケットをラックのフロント側に固定します。



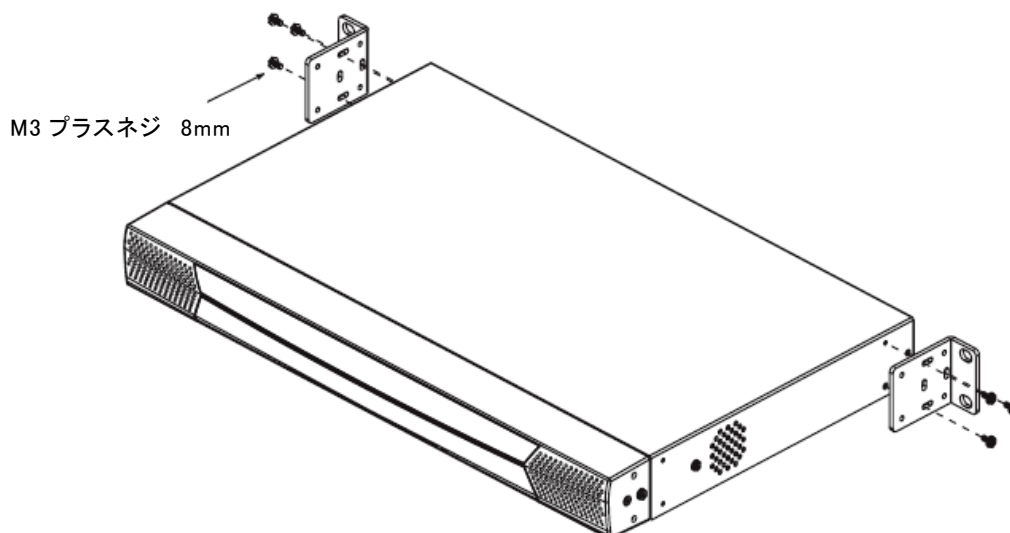
注意: ケージナットは製品に同梱されておりませんので、お手数ですが別途ご用意ください。

ラックマウント(ラックのリア側に設置する場合)

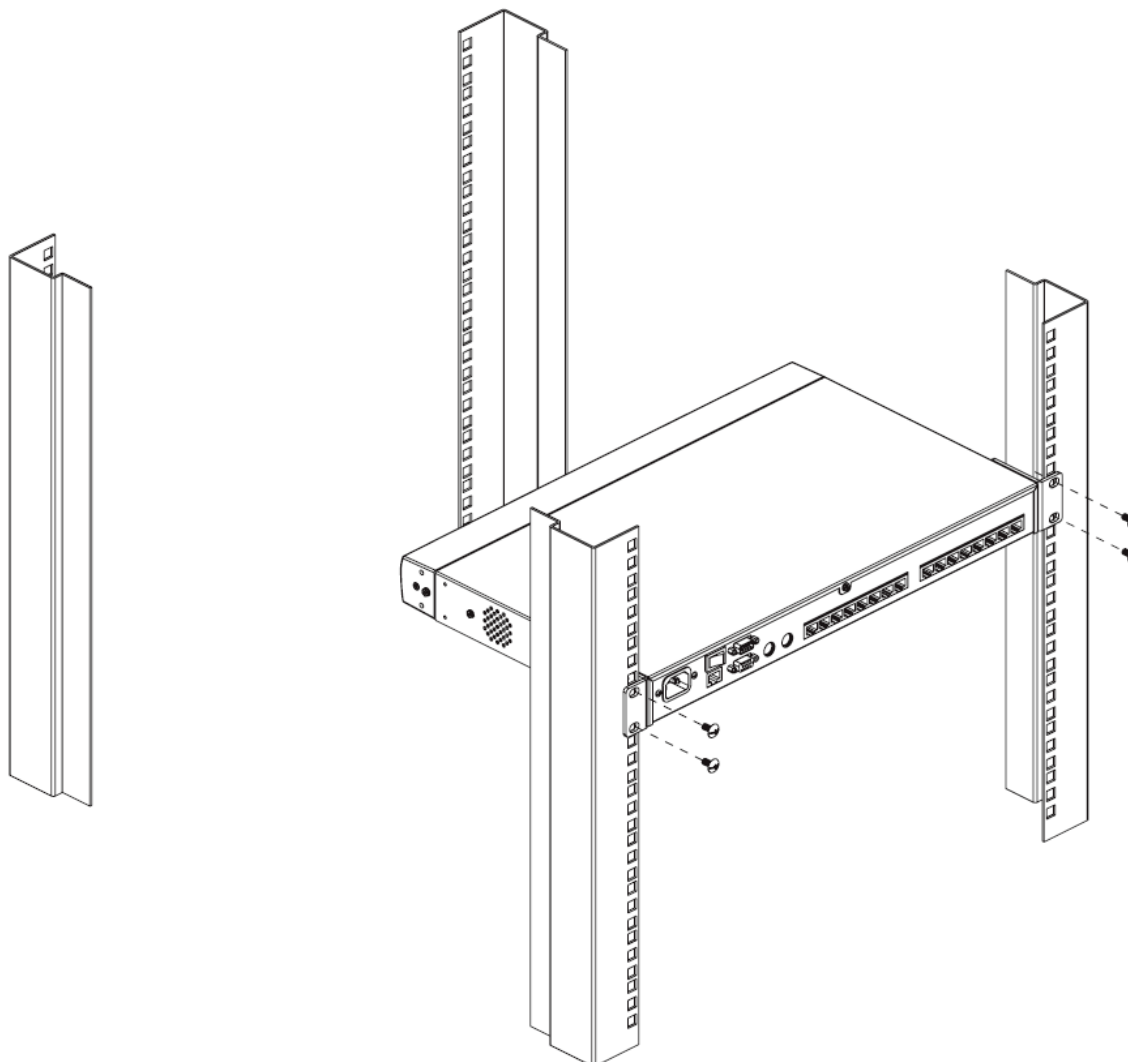
1. 下図のように、本体のリア側についているネジをはずします。



2. 製品に同梱されているプラスネジを使って、マウント用ブラケットを下図のようにリア側に取り付けます。



3. 製品のラック上での設置場所を決め、ブラケットの穴をラックの穴にあわせませす。
4. ネジでブラケットをラックのリア側に固定します。



注意: ケージナットは製品に同梱されておりませんので、お手数ですが別途ご用意ください。

単体使用

KN2108/KN2116 を1台で使用する場合は別の KVM スイッチとカスケード接続する必要はありません。次のページ以降の接続図(図中の番号は手順の番号に対応)を参考にし、セットアップを以下の手順で行ってください。

1. お使いのキーボード、モニタ、マウスの各コネクタを、リアパネルの該当コンソールポートにそれぞれ接続してください。

注意: 弊社が動作保証する KN2108/KN2116 と KVM コンソール(キーボード・モニタ・マウス)間の距離は最大で 20m です。

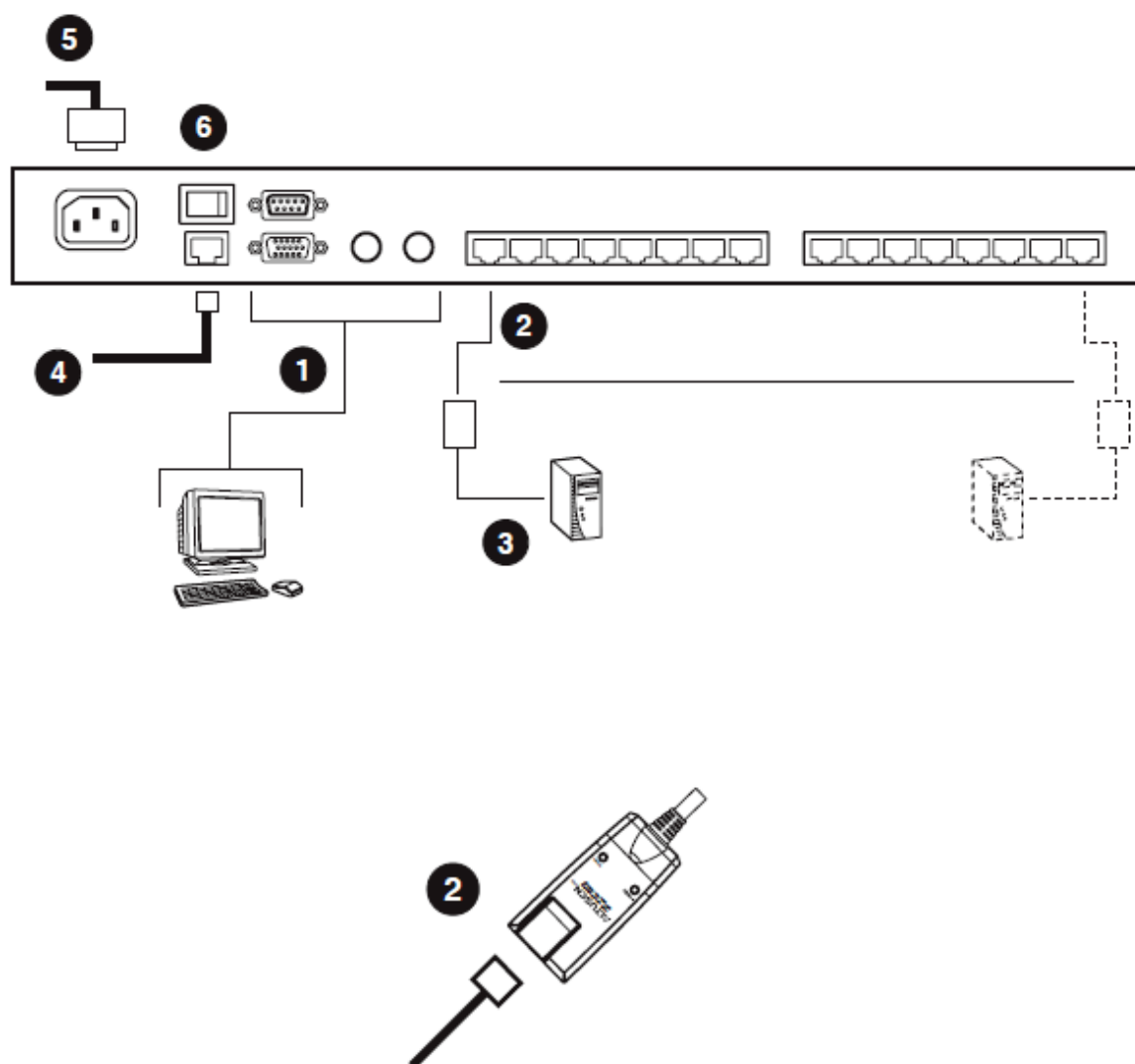
2. コンピュータモジュールとKVMスイッチをカテゴリ 5 ケーブルで接続してください。コンピュータモジュールは接続したいコンピュータに対応するものをお使いください。(コンピュータモジュールの詳細に関してはp.22の表をご参照ください)

注意: 弊社が動作保証する KVM スイッチ・コンピュータモジュール間で使用するケーブルの長さは最大で 40m です。

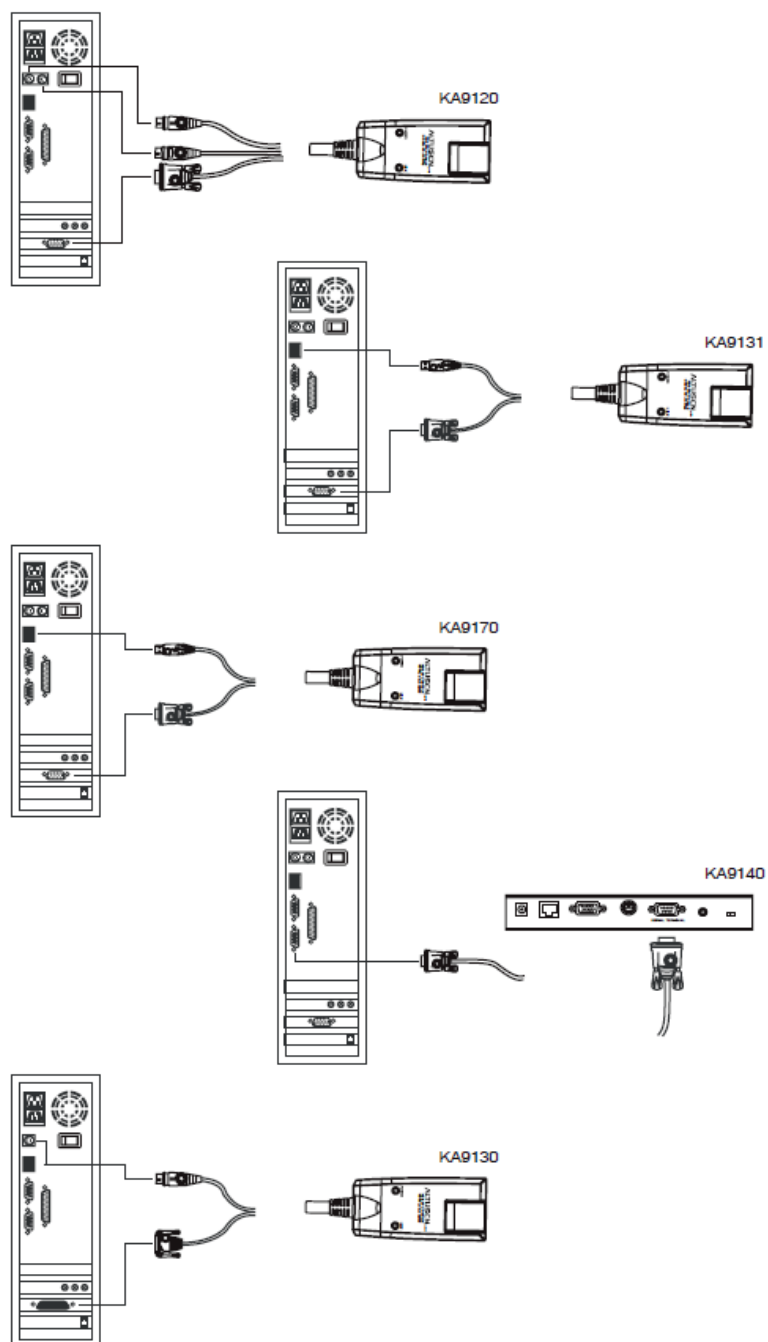
3. p.38のコンピュータモジュール接続図を参考にし、コンピュータモジュールの各コネクタを、お使いのコンピュータの該当ポートにそれぞれ接続します。
4. LAN または WAN に接続するケーブルを KN2108/KN2116 の RJ-45 ポートに接続します。
5. 電源コードを本体に接続し、コンセントに挿してください。
6. リアパネルについているスイッチを使って KN2108/KN2116 に電源を入れてください。

KN2108/KN2116 に電源が入っていることを確認したら、接続されているコンピュータの電源を入れてください。

接続図(単体使用時)



コンピュータモジュール接続図



2 段階カスケード接続

操作したいコンピュータの台数が KN2108/KN2116 のポート数を超える場合でも、製品に対応 KVM スイッチをカスケード接続することで、最大で 128 台 (KN2108)/256 台 (KN2116) のコンピュータを管理することができます。

カスケード接続では、KN2108/KN2116 は 1 段階目の機器と認識され、KN2108/KN2116 に接続された KVM スイッチは 2 段階目の機器と認識されます。

注意: 本マニュアルでは、KN2108/KN2116 へのカスケード接続の例として、KH88 という製品を使用しておりますが、これ以外にも KN2108/KN2116 に対応する KVM スイッチをご用意しております。本製品へのカスケード接続対応機種については p.147 をご参照ください。

カスケード接続を行う場合は、p.40 の接続図を参考にし、以下の作業を行ってください。

1. カスケード接続の対象となる KVM スイッチ、およびそれに接続されているコンピュータの電源がすべて切られていることを確認してください。
2. KN2108/KN2116 上の利用可能な KVM ポートと、PS/2 タイプのコンピュータモジュール (対応機種に関しては p.22 のコンピュータモジュールを参照) をカテゴリ 5 ケーブルで接続してください。この KVM ポートはカスケード接続専用ポートとして使用します。
3. 手順 2 で使用したコンピュータモジュールの各コネクタと、2 段階目に接続した KVM スイッチののコンソールポートにあるキーボード、モニター、マウスの各ポートをそれぞれ接続してください。

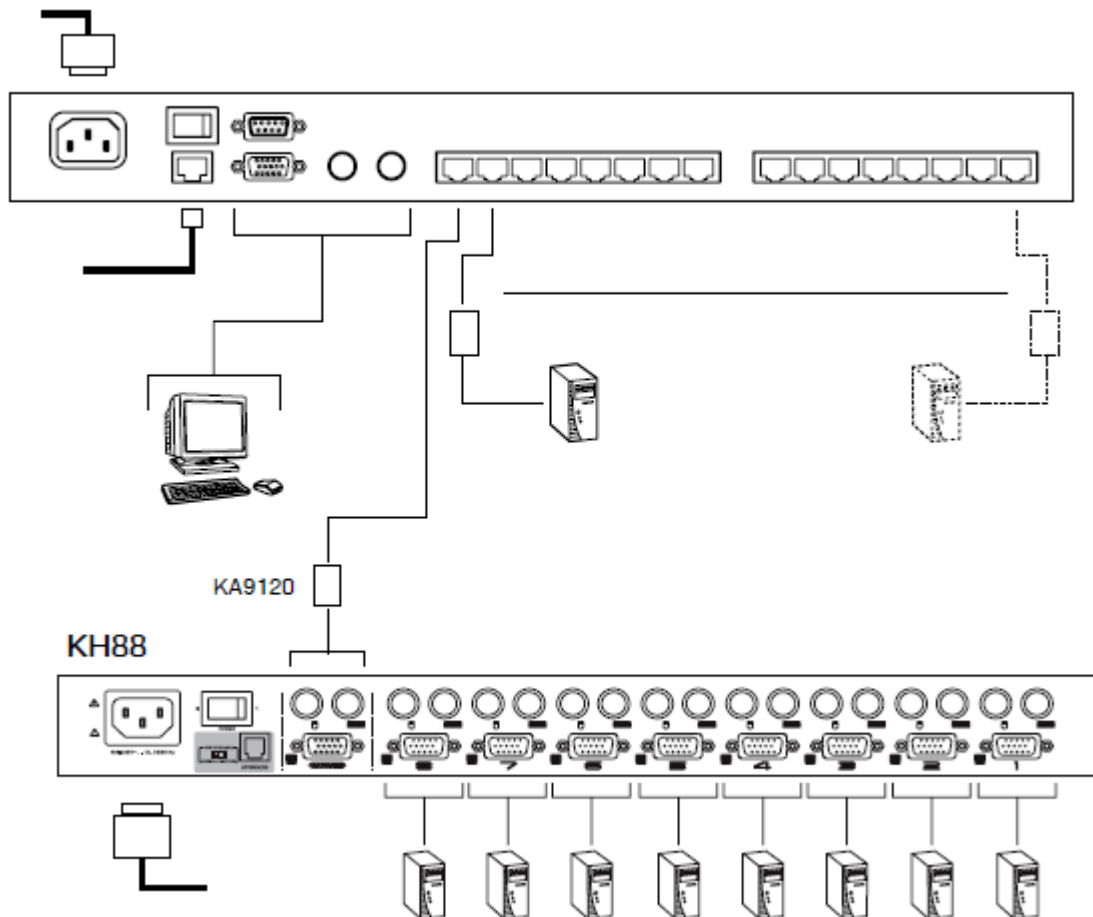
注意: 弊社が動作保証する、2 段階目の KVM スイッチ・KN2108/KN2116 間の距離は最大で 40m です。

4. KVM ケーブル (対応する製品に関しては、2 段階目に接続する KVM スイッチのマニュアルを参照) で、2 段階目に接続する KVM スイッチのキーボード、マウス、モニターの各ポートと、KVM スイッチに接続するコンピュータの該当ポートをそれぞれ接続してください。
5. 同梱されている電源ケーブルをカスケード接続された KVM スイッチの電源ソケットに接続し、コンセントに挿してください。
6. 他にも接続するコンピュータがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. 2 段階目のスイッチ (複数台ある場合はすべて) に電源を入れてから、KN2108/KN2116 に電源を入れてください。

8. KVM スイッチに接続されているすべてのコンピュータに電源を入れてください。

注意: 電源を入れる場合、2 段階目のスイッチから順に電源を入れる必要があります。2 段階目のスイッチにすべて電源が入ったら、KN2108/KN2116 に電源を入れ、KN2108/KN2116 を含めたすべての KVM スイッチに電源が入ったことを確認してから、KVM スイッチに接続されている各コンピュータに電源を入れるようにしてください。

接続図(2 段階カスケード接続時)



ホットプラグ

KN2108/KN2116 はホットプラグ対応製品です。ケーブルをポートにつなぎかえるだけで、KN2108/KN2116 の電源を切ることなくキーボードやマウス等のつけはずしをすることが可能です。

本製品はホットプラグには対応しておりますが、ポートの接続変更内容をOSDメニューに反映させるためには、手動でポートネームを変更しOSDのポート情報を更新する必要があります。ポートネームの詳細に関しましては、p.49をご参照ください。

注意: お使いのコンピュータの OS がホットプラグに対応していない場合、KN2108/KN2116 のホットプラグ機能が正しく動作しない場合がございます。

終了と再起動

KN2108/KN2116 の電源を切る必要がある場合、また、スイッチの電源不足で再起動が必要な場合は、電源を切った後、10 秒たってから KN2108/KN2116 に電源を入れなおすようにしてください。この操作を行っても KVM スイッチに接続されたコンピュータはそのままお使いいただけますが、万が一、KVM スイッチを再起動したことによりコンピュータに影響が及んだ場合は、そのコンピュータを再起動してください。

ポートIDの割り当て

KN2108/KN2116 の KVM ポートにはそれぞれ固有のポート ID が割り振られます。ポート ID は、機器のステージレベルとコンピュータが接続されている KVM スイッチのポート番号から構成される番号です。

ポート ID の前半部分は1段階目のスイッチにおけるポート番号を表し、後半部分は 2 段階目のスイッチにおけるポート番号を表しています。

1段階目のスイッチに接続されたコンピュータは、KN2108/KN2116 に直接接続されておりますので、接続されているポートのポート番号をもってポート ID (1~16)とします。

2段階目のスイッチに接続されたコンピュータのポート ID は 2 つの部分から構成されています。

- ◆ ポート ID の後半部分 (1~8) は、お使いのコンピュータが接続している 2 段階目のスイッチにおけるポート番号を表しています。ポート ID の前半部分 (1~16) は、2 段階目のスイッチによってカスケード接続されている1段階目のスイッチのポート番号を表しています。
- ◆ 例えば、12-3 というポート ID は、2 段階目のスイッチが 1 段階目の KVM スイッチの 12 番目のポートにカスケード接続されており、さらに、2 段階目のスイッチの 3 番目のポートにコンピュータが接続されていることを表しています。

ポート選択

ポート切替は、OSD(オンスクリーンディスプレイ)によって行います。OSD 操作についての詳細は第 5 章と第 6 章をご参照ください。

第3章 管理メニュー

概要

OSD管理画面ではアドミニストレーター（および管理権限を与えられたユーザー。詳細についてはp.54の「User Managementメニュー」参照）のみ、KN2108/KN2116の全般的な設定や操作を行うことが可能です。アドミニストレーター権限のないユーザーがログインすると、そのユーザーに対してアドミニストレーター向け機能のタブは無効になります。

ローカルコンソール

KN2108/KN2116のハードウェアセットアップが終了したら、アドミニストレーターは最初に各ユーザーの設定を行う必要があります。初回ログインのとき最も便利なのはローカルコンソールから行う方法です。

ローカルコンソールを接続してKN2108/KN2116に電源を入れると、コンソールモニタにログインダイアログボックスが表示されます。



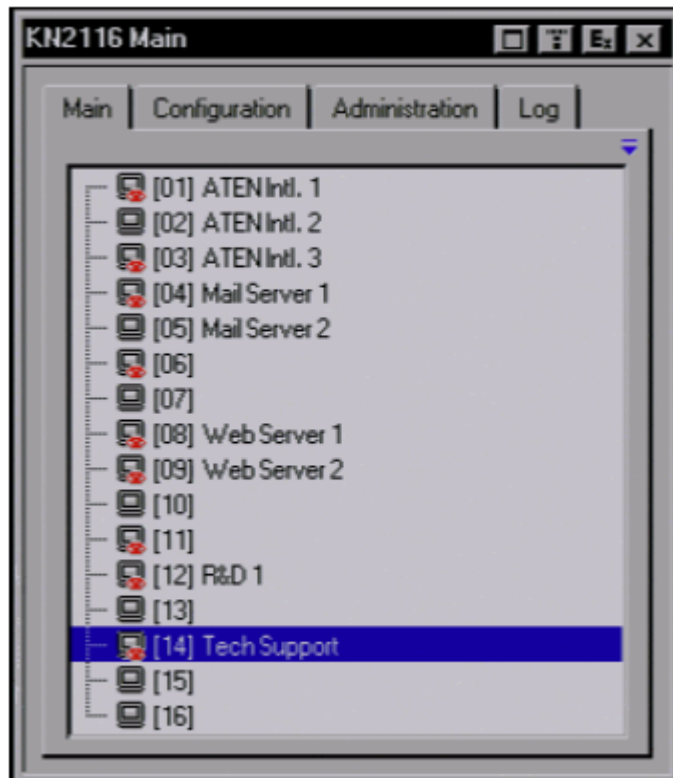
初回ログイン時には、デフォルトユーザーネームとパスワードを使用してください。デフォルトユーザーネーム・パスワードは以下のとおりです。

デフォルトユーザーネーム: administrator

デフォルトパスワード: password





必須ではありませんが、セキュリティ上の観点から、OSDのUser Managementタブ (p.54 参照) でデフォルトのユーザーネームとパスワードを変更し、任意のユーザーネームとパスワードに変更されることを強く推奨します。

ログインに成功すると、ローカルコンソール OSD が表示されます。



OSD メニューは、Main、Configuration、Administration、Log の 4 つのタブから構成されています。各タブメニューの詳細に関しては次のセクションで詳しく説明していきます。

OSD 画面上部のタイトルバーには 4 つのボタンがあります。各ボタンの用途は下記の表のとおりです。(左側から右側に順に記載)これらのボタンに割り当てられている機能は、キーボードのファンクションキーを使っても同じように操作できます。該当のファンクションキーは下記表のボタン名の下にあるカッコ内にそれぞれ記載してありますので、ご参照ください。

ボタン		用途
	スクリーンビュー ([F6])	OSD 表示をフルスクリーンまたは通常のウィンドウサイズに切り替えます。 注意: このボタンを押しても OSD 自体の表示は変わらないように見えますが、フルスクリーンモードでは OSD 起動時に背景がブランク(黒)になり、ウィンドウサイズモードでは背景にデスクトップの画面がそのまま表示されます。
	透明化 ([F7])	このボタンをクリックすると、OSD 画面が半透明になり、その OSD 画面背後にあるコンソールモニタを見ることができます。もう一度このボタンを押すと OSD 画面は通常の状態に戻ります。 注意: 1. この機能をお使いになる際には、お使いのコンピュータのリフレッシュレートを 75Hz 以上に設定されることを推奨します。 2. コンピュータが接続されていないポートに OSD メニューを介してアクセスした場合、この機能はお使いいただけません。
	ログアウト ([F8])	OSD 画面を終了し、KN2108/KN2116 とのセッションからログアウトします。
	OSD 非表示 ([Esc])	OSD画面は終了しますが、KN2108/KN2116 とのセッションは保持されたままです。OSDホットキーを使用することで、このOSD画面を再度呼び出すことができます。(詳細はp.101の「OSD Hotkey」を参照)

Mainタブ

Main タブでは、KN2108/KN2116 のポートの一覧表示、および各ポートに対するアクセス管理を行います。アクセスしたいポートを選択しダブルクリックすることで、該当ポートに接続されたコンピュータに切り替えることができます。

- ◆ モニタの形をした「ポートアイコン」は、ポート番号の前に表示されます。ポートに接続された機器が稼働中である場合、このポートアイコンは緑色に点灯します。
- ◆ クイックビューポートとして選択されているポートは、ポートアイコンのモニタの部分に赤い目のようなマークが表示されます。

アドミニストレーターはこのタブで、ポート切替操作以外にも、選択したポートに対するクイックビューステータスの有効化/無効化、また、各ポートに対する名前の作成、変更、削除を行うこともできます。

クイックビューポート

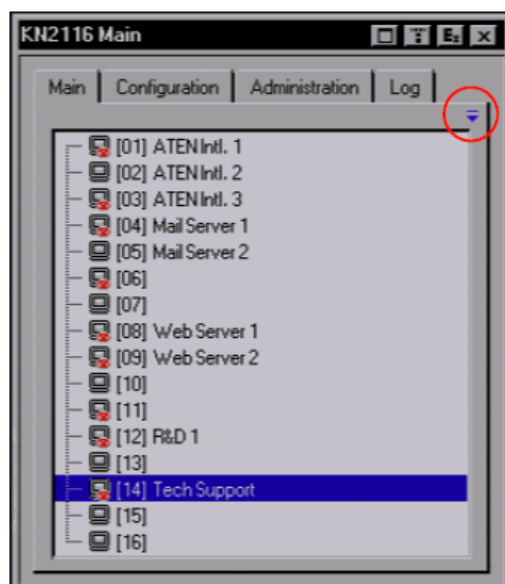
特定のポートをクイックビューポートとして選択することによって、KN2108/KN2116 がオートスキャンモードの際にアクセス対象となるポートを限定することができます。

KN2108/KN2116 がクイックビュー対象のポートのみオートスキャンするように設定されている場合 (p.101の「Scan Select」を参照)、このダイアログボックスでクイックビューポートとして登録しておく、オートスキャンが有効になっているときもその対象としてアクセスされます。

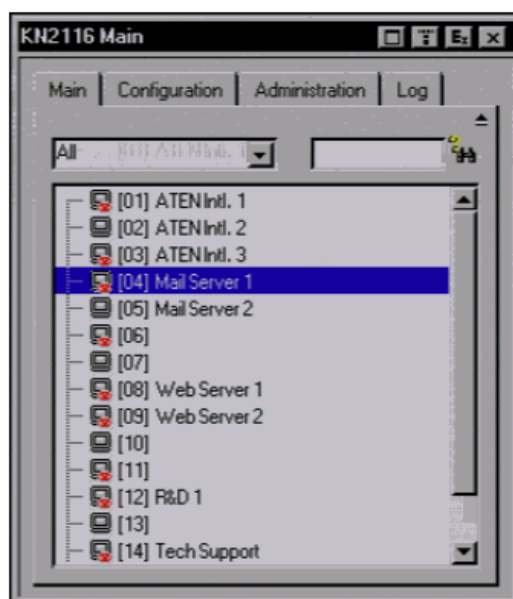
クイックビューポートの対象となるポートを Main タブで選択しスペースキーを押すと、クイックビューポートの設定/設定解除を切り替えて行うことができます。ポートがクイックビューポートとして選択されている場合、ポートアイコンに赤い目のアイコンが表示されます。(ポートがクイックビューとして選択されていない場合は、この目の形をしたアイコンは消えます。)

リスト機能

この機能を用いて、OSD の Main タブで表示するポートの範囲を設定できます。この機能をお使いになる場合は、Main タブ右上にある三角ボタンをクリックするか、[F3]キーを押してください。



三角ボタンを押すと、スクロールバーとドロップダウンリストが表示され、ポートの表示範囲を選択できるようになります。



- ◆ リスト機能で表示されるドロップダウンリストに表示される項目の詳細は下記の表のとおりです。

設定	内容
ALL	KN2108/KN2116 に接続されているポート全てをリストアップします。
Powered On	接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。
Quick View	クイックビューポートとして選択されたポートをリストアップします。
Quick View + Powered On	クイックビューポート(p.46参照)として選択され、かつ接続されているコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。

- ◆ ドロップダウンリストの横にあるテキストボックスにポート名前を入力すると、入力された文字列と一致したポート名前を持つものだけがリストに表示されます。ワイルドカード (?および*)もご使用いただけますので、複数ポートを表示することも可能です。例えば、このテキストボックスに「Web*」と入力した場合、下図のように「Web Server 1」、「Web Server 2」というポート名前を持ったコンピュータがそれぞれ表示されます。



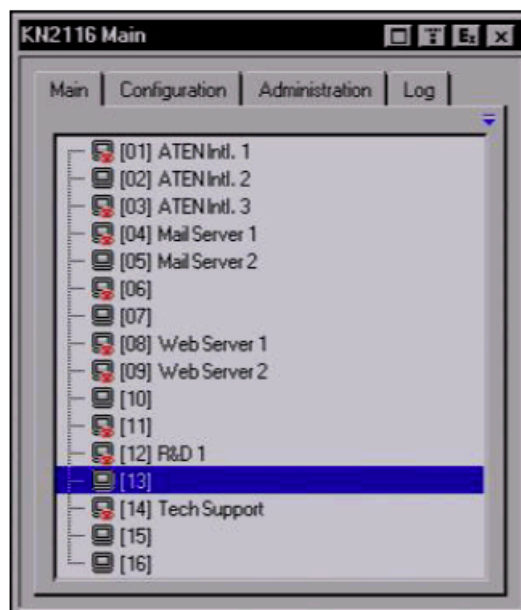
- ◆ テキストボックスに検索したい文字列を入力したら、このテキストボックスの横にある双眼鏡のアイコンをクリックするか、[Enter]キーを押してください。
- ◆ Main タブをデフォルトの表示に戻す際には、テキストボックスに入力した文字列を消去し、テキストボックスの横にある双眼鏡のアイコンをクリックするか、[Enter]キーを押してください。
- ◆ リスト機能を終了する場合は、もう一度画面右上にある三角ボタンを押すか、[F3]キーを押してください。

ポートネーム

どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレーターはポートネームを設定したり、編集したり、削除したりすることができます。

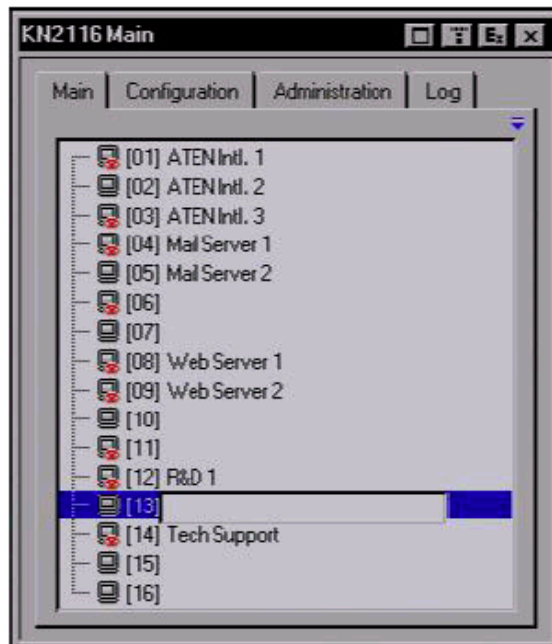
ポートネームを設定する場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. 編集したいポートをクリックし、[F2]キーを押すか、ハイライトバーをもう一度クリックします。

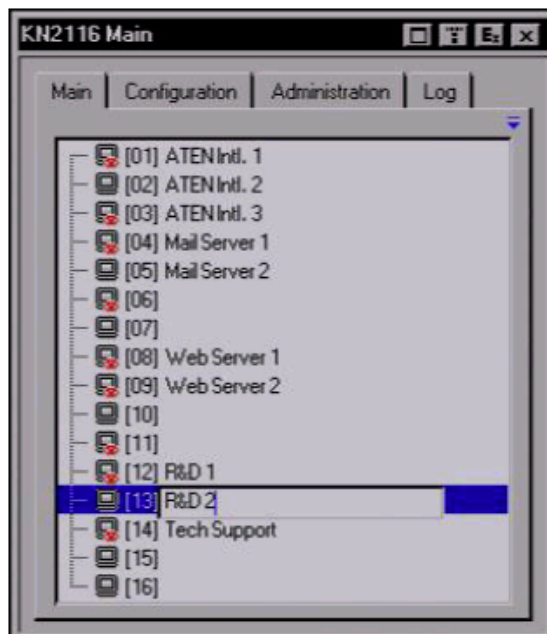


注意: この操作は、最初のクリックが終わって、しばらくしてから2回目のクリックを行いますので、いわゆるダブルクリックとは異なります。選択されたポートをダブルクリックすると、選択されたポートにアクセスします。

1～2 秒すると、ポートネームの表示欄がテキストボックスに変わり、編集が可能になります。



2. このテキストボックスを使って、ポートネームの作成、更新、または削除を行います。
3. ポートネームを編集し終わったら、テキストボックス以外の場所をクリックして、操作を完了してください。



ポート操作

ポート操作は、Windows/Java 各クライアントツールと同じ方法で行いますので、第 5 章、第 6 章で詳しく説明します。

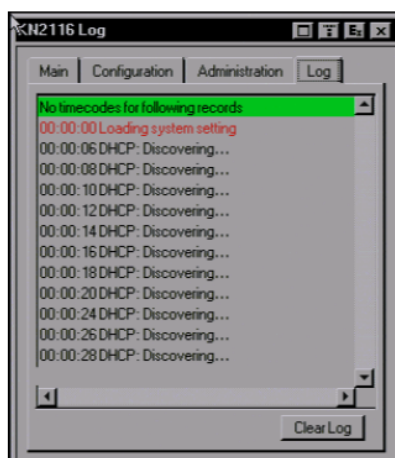
Configurationタブ

Configurationタブでは、各ポート操作に関わる設定値の変更を行います。ここでの操作はWindows/Java各クライアントツールと同じ方法で行いますので、第5章(p.79参照)、第6章(p.103参照)で詳しく説明します。



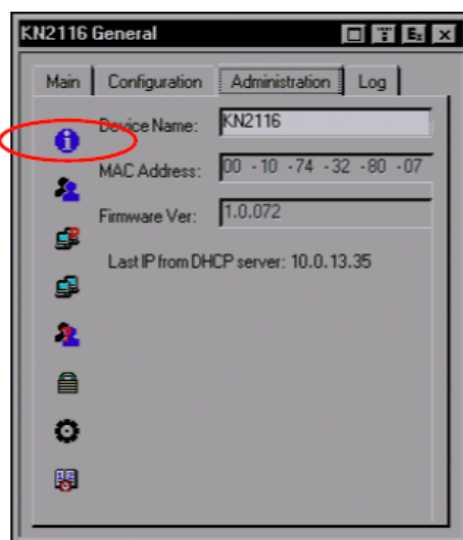
Logタブ

Logタブにはログファイルの内容が表示されます。ログファイルについては第7章で詳しく説明します。



Administrationタブ

管理機能は Administration タブの左側に縦に並んだアイコンから提供されます。アイコンをクリックするとメニューが表示されます。Administration ページを開くと General メニューが表示されます。



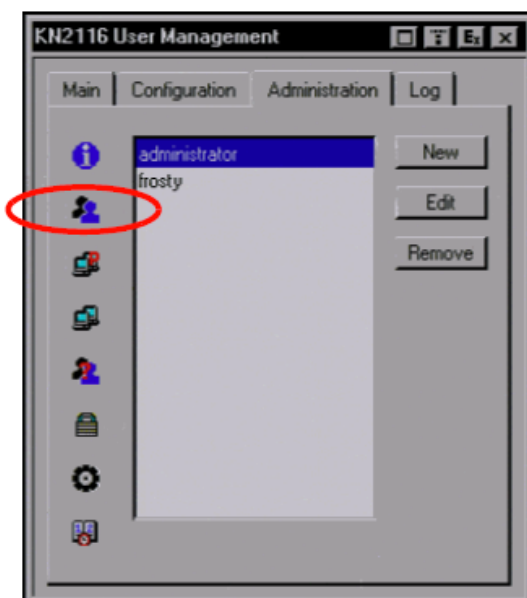
Generalメニュー

General メニューではユニットの情報を表示します。これはブラウザ経由でアクセスしたとき最初に表示されるメニュー、また、ブラウザページの左側最上部にある General アイコンをクリックしたときに表示されるメニューです。各項目の内容に関しては下記の表をご参照ください。

設定	内容
Device Name	複数の KVM スイッチを導入している環境において識別を容易にするために、KN2108/KN2116 には固有のデバイス名をつけることができます。アドミニストレーターが設定したデバイス名はこの欄に表示されます。
MAC Address	KN2108/KN2116 の MAC アドレスが表示されます。
Firmware Ver	現在お使いのファームウェアバージョンが表示されます。最新バージョンのファームウェアは弊社 Web サイトにて入手できます。
Last IP from DHCP Server	ネットワークにおいて KN2108/KN2116 の IP アドレスが DHCP によって割り当てられている場合、このフィールドに IP アドレス情報が表示されます。

User Managementメニュー

User Management メニューでは、ユーザープロファイルの作成および管理を行います。最大 64 人までのユーザープロファイルが作成可能です。



- ◆ ユーザープロファイルの削除を行うときは、削除するユーザー名を選択し、右側の「Remove」ボタンを押します。
- ◆ ユーザープロファイルを編集するときは、編集するユーザー名を選択し、右側の「Edit」を押します。
- ◆ ユーザーを追加するには、右側の「New」を押します。

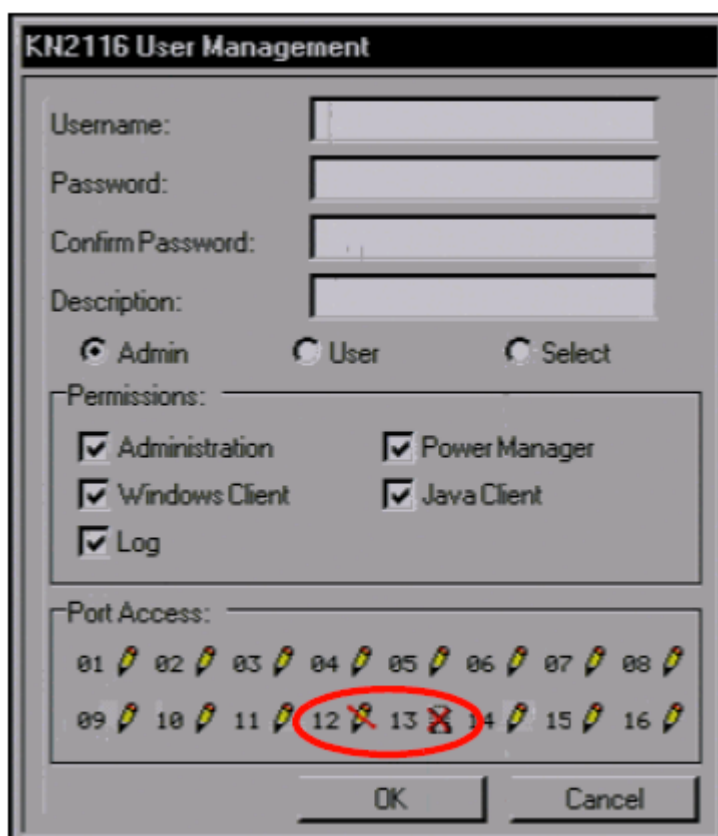
「Edit」もしくは「New」を押すと、下図のような画面が表示されます。

この画面で新規ユーザーもしくは既存のユーザー情報を編集します。各項目の詳細については下記の表をご参照ください。

項目	説明
Username	英数字 6～15 文字で設定できます。
Password	英数字 8～15 文字で設定できます。
Confirm Password	パスワード確認のため再入力します。Password 欄に入力したものと同じになるように、間違えないように入力してください。
Description	ユーザーに関する追加情報をここに入力することができます。
Admin	このラジオボタンを選択すると、アドミニストレーターレベルで KN2108/KN2116 にアクセスできるようになり、すべての操作権限が与えられます。(表内の Permission の項目を参照)
User	このラジオボタンを選択すると、ユーザーレベルで KN2108/KN2116 にアクセスすることができ、Windows/Java 各クライアントツール操作、電源管理操作の権限が与えられます。(表内の Permission の項目を参照)
Select	アドミニストレーターによって選択された Permissions の内容が、Admin または User のデフォルトのアクセスレベルに一致しない場合、このボタンが自動的に有効になります。
Permissions	<ol style="list-style-type: none"> 「Administration」にチェックを入れると、そのユーザーにアドミニストレーター権限が与えられ、KN2108/KN2116 の Administration タブ の設定値を設定・変更できるようになります。 「Windows Client」にチェックを入れると、そのユーザーが Windows クライアントを使って KN2108/KN2116 にアクセスできるようになります。 「Log」にチェックを入れると、そのユーザーがログファイルを参照・照会できるようになります。ブラウザ経由でKN2108/KN2116 にアクセスした際に、画面左部に見られる「Log」ボタンおよび「Log Server」ボタンは、この権限を持ったユーザーにのみ表示されます。(詳細はp.77を参照) 「Java Client」にチェックを入れると、そのユーザーが Java クライアントを使って KN2108/KN2116 にアクセスできるようになります。 「Power Manager」にチェックを入れると、そのユーザーがPower on the Net™ にアクセスできるようになります。ブラウザ経由で KN2108/KN2116 にアクセスした際に、画面左部に見られる「PON」ボタンは、この権限を持ったユーザーにのみ表示されます。(詳細は p.77を参照)

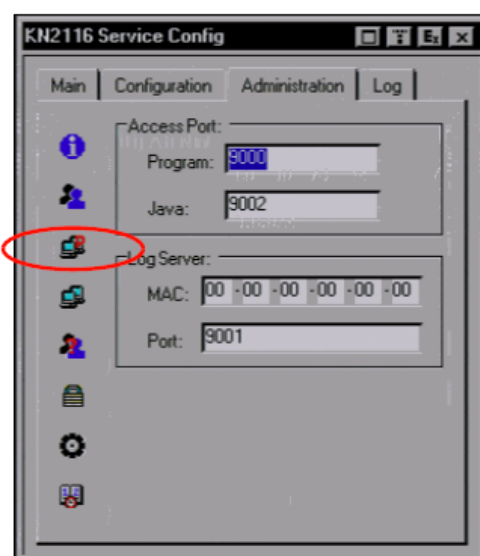
(表は次のページに続きます)

項目	説明
Port Access	<p>この機能はアドミニストレーターあるいはユーザーに対し、ポートレベルでのアクセス権限を設定します。それぞれのユーザープロフィールに対してポート番号のついたボタンをクリックすると、以下のアクセス権限が順に切り替わって表示されます。</p> <p>Full: リモートコンソールからの参照、およびユーザー自身のキーボード・モニタからの操作が可能です。</p> <p>View: ポートアイコンに斜線が表示され、参照のみ可能です。ブラウザ以外の操作は禁止されています。</p> <p>Null: ポートアイコンに×が表示され、このポートに対する操作はすべて禁止されます。この項目に設定されたポートは、Main タブのリストにも表示されなくなります。</p> <p>すべてのポートに対してアクセス権限を設定してください。デフォルトではすべてのユーザーが全ポートに対して Full で設定されています。</p>



Service Configurationメニュー

Service Configuration メニューは、「Access Port」と「Log Server」の 2 つのパネルから構成されています。



Access Port

セキュリティ対策としてファイアウォールをお使いの場合、アドミニストレーターはこのメニューでファイアウォールが許可するポートを定義し、それに応じてファイアウォールを設定することができます。KN2108/KN2116 にログインする際に、ユーザーはどのポートを利用するか決めておく必要があります。指定したポートが無効、ないしは未設定である場合、KN2108/KN2116 にリモートからアクセスできなくなります。

各項目の詳細は以下の表のとおりです。

設定	内容
Program	Windows クライアントからアクセスするポートです。1024～60000 の範囲の値を使用してください。デフォルトは 9000 です。
Java	Java クライアントからアクセスするポートです。0～65535 の範囲の値を使用してください。デフォルトは 9002 です。

-
- 注意:**
1. イン트라ネット等、ファイアウォールをお使いでない環境の場合、どんな値を入れても KN2108/KN2116 には反映されません。
 2. Program、Java の項目に同一ポートを使用することはできません。各項目には異なったポートを指定してください。
-

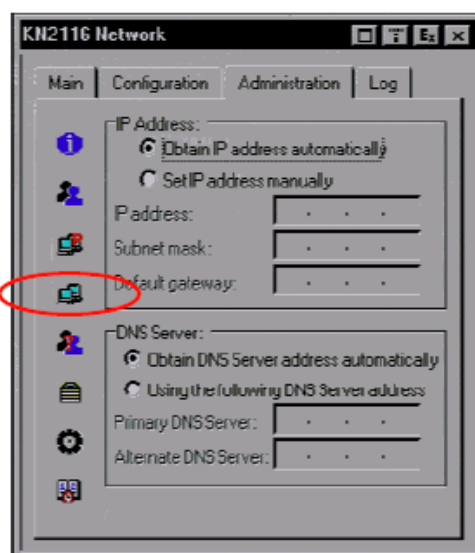
Log Server

ログイン、システムメッセージ等、KN2108/KN2116 で発生する重要なイベントに関するメッセージは、自動生成されたログファイルに記録されます。この項目では、KN2108/KN2116 のログサーバとしてお使いのコンピュータの MAC アドレスとポートの設定を行います。有効なポートの値の範囲は 1024～60000、デフォルトのポートは 9001 です。

ログサーバのセットアップおよび操作方法については第 8 章で、また、ログファイルについては p.113 でそれぞれ詳しく説明します。

Networkメニュー

Networkメニューは「IP Address」と「DNS Server」の2つのパネルから構成されており、KN2108/KN2116のネットワーク環境を設定する際に使用します。



IP Address

KN2108/KN2116はDHCPによって動的に割り当てられるIPアドレス、あるいは静的IPアドレスを使用することができます。

- ◆ 動的IPアドレスを割り当てる場合には「Obtain IP address automatically」を選択してください。
- ◆ 静的IPアドレスを使用する場合には「Set IP address manually」を選択し、IPアドレスを入力してください。

DNS Server

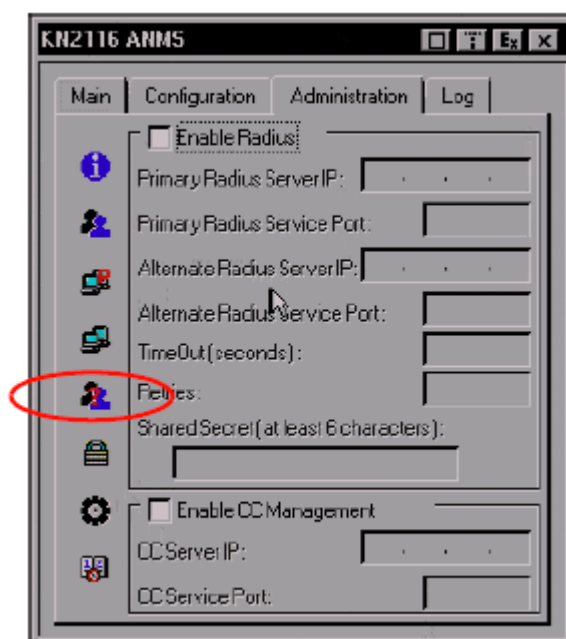
KN2108/KN2116 は DNS サーバーのアドレスを自動で取得することも、指定したアドレスの DNS サーバーを設定することもできます。

- ◆ DNS サーバーの IP アドレスを自動取得する場合は、「Obtain DNS Server address automatically」を選択してください。
- ◆ DNS サーバーの IP アドレスを指定する場合は、「Using the following DNS Server address」を選択し、「Primary DNS Server」と「Alternate DNS Server」の欄に、プライマリ DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

注意: Primary DNS Server の IP アドレスは必ず設定してください。Alternate DNS Server の IP アドレスはオプションで指定できます。

ANMSメニュー

ANMS(ネットワーク認証サービス)メニューでは、外部からのログイン認証管理に関する設定を行うことができます。このダイアログは、下図のように2つのパネルから構成されています。



RADIUS 設定

KN2108/KN2116 へアクセスを RADIUS 認証サーバー経由で行う場合は、下記の手順で作業を行ってください。

1. 「**Enable Radius**」にチェックをしてください。
2. 「Primary Radius Server IP」、「Primary Radius Server Port」、「Alternate Radius Server IP」、「Alternate Radius Server Port」の各欄に、お使いの RADIUS サーバーの IP アドレス・ポート番号を入力してください。
3. 「Timeout」の欄に、KN2108/KN2116 が RADIUS サーバーからの応答を待機する秒数を指定してください。
4. 「Retries」の欄に、RADIUS サーバーの再試行回数を設定してください。

5. 「Shared Secret」の欄に、KN2108/KN2116 と RADIUS サーバー間の共通シークレットとして使用する文字列を入力してください。

注意: RADIUS サーバーにおける各ユーザーのアクセス権限の設定は次ページの表にしたがって行ってください。

RADIUS サーバーアクセス権一覧

文字列	内容
C	ユーザーに対してアドミニストレーターの権限を付与し、そのユーザーがシステムの設定を行うことを許可します。
W	ユーザーが Windows クライアントからシステムにアクセスすることを許可します。
J	ユーザーが Java クライアントからシステムにアクセスすることを許可します。
P	ユーザーが KN2108/KN2116 に接続された Power Over the Net™ にアクセスすることを許可します。
L	ユーザーがブラウザ上でログ情報にアクセスすることを許可します。
PN	ユーザーが OSD のポート一覧で特定のポートにアクセスするのを制限します。 構文例: PN/1/2/3/4
PV	ユーザーが OSD のポート一覧で特定のポートしか参照できないように制限します。 構文例: PV/1/2/3/4
UHK	OSDのホットキーを設定します。(p.101参照) UHK0: Scroll Lock + Scroll Lock UHK1: Ctrl + Ctrl
UOL	OSDリスト機能を定義します。(p.46のMainタブおよびクイックビューポートを参照) UOL0: All UOL1: Powered On UOL2: Quick View UOL3: Quick View + Powered On
UODM	ポートIDの表示方法を選択します。(p.101参照) UODM0: Port Number + Port Name UODM1: Port Number UODM2: Port Name
UODT	ポート変更後にモニタ上にポートIDを表示する時間(秒)を設定します。(p.101参照) 構文: UODT n (n は 0~255 の範囲の値を表します)

(表は次のページに続きます)

文字列	内容
UBUZ	ブープ音のオン/オフを切り替えます。(p.102参照) UBUZ0: ブープ音オフ UBUZ1: ブープ音オン
ULT	ログアウトタイムアウトの時間(分)を設定します。ここで設定した時間、ユーザーからの入力がない場合、ユーザーはシステムによって自動的にログアウトされ、その後に操作する場合は再びログインする必要があります。有効なログアウトタイムアウトの値の範囲は0~180(分)です。 構文: ULT n (n は0~180の範囲の値を表します)
USM	ユーザーがオートスキャンモードでアクセスできるコンピュータを選択します。(p.101「Scan Select」参照) USM0: All USM1: Powered On USM2: Quick View USM3: Quick View + Powered On
UST	オートスキャンモードで各ポートを表示する時間(秒)を設定します。(p.101「Scan Duration」参照) 構文: UST n (n は0~255の範囲の値を表します)

- 注意:**
1. ここで使用される文字列は大文字・小文字を区別しませんので、どちらで入力しても有効な値としてみなされます。
 2. 各文字列はカンマで区切られている必要があります。
 3. 設定に無効な文字列が入力されると、ユーザーがKN2108/KN2116にアクセスできなくなりますので、正しく入力してください。

RADIUS サーバーアクセス権の例

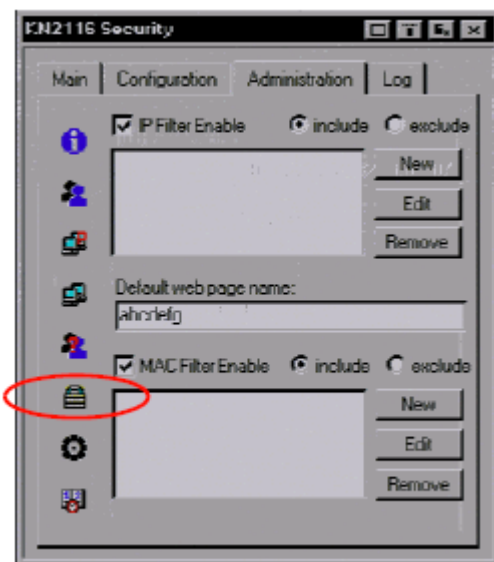
入力例	内容
c,w,p	このユーザーはアドミニストレーター権限を持ち、Windows クライアントツールによるアクセスが可能です。また、関連する Power Over the Net™ を操作することもできます。
w,j,l	このユーザーは Windows クライアント、および Java クライアントによるアクセスが可能です。また、ブラウザでログ情報を閲覧することもできます。

CC管理設定

CC(Control Center)サーバー経由でKN2108/KN2116への認証を行う場合は、「Enable CC Management」の項目にチェックを入れ、CCサーバーのIPアドレスと使用ポートを該当フィールドに入力してください。

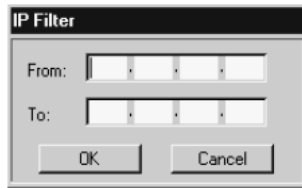
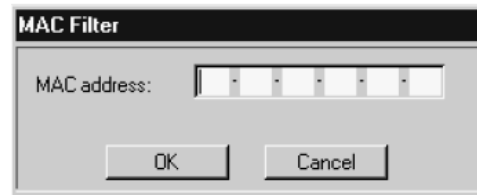
Securityメニュー

Security メニューでは KN2108/KN2116 へのアクセスを管理します。



IPアドレスおよびMACアドレスによるフィルタリング

- ◆ フィルターの設定を行うと、IP フィルタリストボックス、または MAC フィルタリストボックスに設定内容が表示されます。
- ◆ IP/MAC フィルター機能では、アクセスしてきたコンピュータの IP アドレスまたは MAC アドレスに基づいて KN2108/KN2116 へのアクセスを管理します。IP フィルターおよび MAC フィルターは最大で各々 100 項目まで設定できます。IP フィルタリング機能を有効にするには「IP Filter Enable」に、MAC フィルタリング機能を有効にするには「MAC Filter Enable」にそれぞれチェックを入れてください。
 - 「include」ラジオボタンを選択すると、フィルターで指定した範囲のアドレスからのアクセスのみが許可されます(その他のアドレスからのアクセスは拒否されます。)
 - 「exclude」ラジオボタンを選択すると、フィルターで指定した範囲のアドレスからのアクセスのみが拒否されます(その他のアドレスからのアクセスは許可されます。)
- ◆ フィルター設定を追加する場合は、「New」ボタンをクリックしてください。下図のようなダイアログボックスが表示されます。

The IP Filter dialog box has a title bar labeled "IP Filter". It contains two input fields: "From:" and "To:". Each field is a text box with a vertical separator line on the right side, suggesting a multi-part input like an IP address. Below the fields are two buttons: "OK" and "Cancel".The MAC Filter dialog box has a title bar labeled "MAC Filter". It contains one input field labeled "MAC address:". The field is a text box with a vertical separator line on the right side, suggesting a multi-part input like a MAC address. Below the field are two buttons: "OK" and "Cancel".

注意: IP フィルターは固定のアドレスの指定、またアドレス範囲の指定がそれぞれ可能です。固定の IP アドレスをフィルタリングする場合は、From 欄、To 欄に同じ IP アドレスを入力してください。連続した範囲の複数 IP アドレスをフィルタリングする場合は、From 欄に始点となる IP アドレスを、To 欄には終点となる IP アドレスをそれぞれ入力してください。

フィルタリングするアドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

- ◆ 設定を削除する場合は、対象となる IP フィルターまたは MAC フィルターをリストボックスから選択し、「**Remove**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 設定内容を編集する場合は、対象となる IP フィルターまたは MAC フィルターをリストボックスから選択し、「**Edit**」ボタンをクリックしてください。編集ダイアログは新規作成のダイアログボックスと同じような構成になっています。ダイアログが表示されたら、新しい設定内容を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

Default Web Page Name

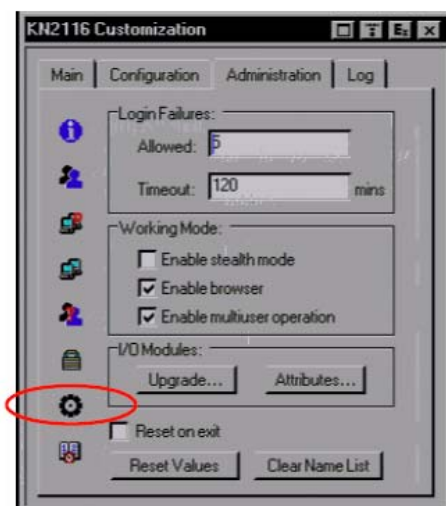
- ◆ 「Default web page name」フィールドでは、アドミニストレーターはユーザーがブラウザを使って KN2108/KN2116 にアクセスするときに URL バーに入力する Web ページ名を設定することができます。設定は下記の例のように行います。

192.168.0.126/abcdefg

- ◆ IP アドレスと Web ページ名の間には必ずスラッシュ(/)を入力する必要があります。セキュリティ対策として、この Web ページ名は定期的に変更されることを推奨します。

注意: このフィールドに何も入力されていないと、IP アドレスをブラウザの URL バーに入力しアクセスするだけで、誰でも KN2108/KN2116 のログイン画面が表示できてしまいます。セキュリティの観点からも、必ず文字列を入力してお願いいたします。

Customizationメニュー



Customization ダイアログは、下記の 4 つの部分から構成されています。

Login Failures

- ◆ **Allowed** : リモートコンピュータからの連続したログイン試行可能回数を設定します。
- ◆ **Timeout** : リモートコンピュータからのログインがこの試行可能回数を超えた場合、該当するリモートコンピュータから再びログイン可能になる時間を設定します。

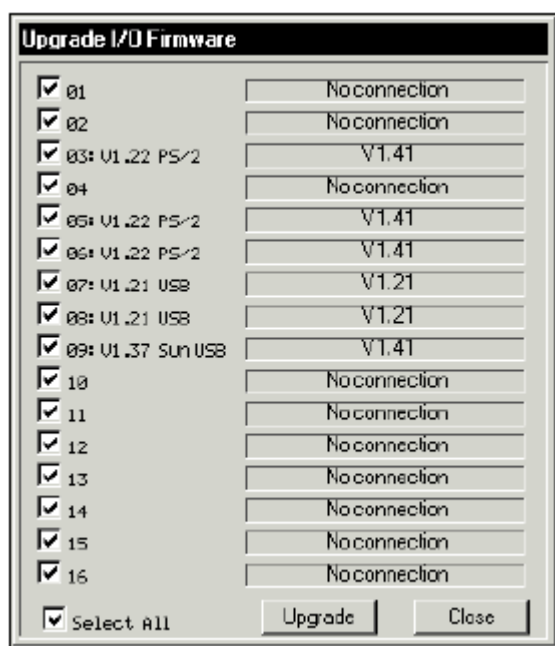
Working Mode

- ◆ 「Enable stealth Mode」にチェックが入っていると、KN2108/KN2116 は外部からの ping コマンドに応答しなくなります。
- ◆ KN2108/KN2116 に対するブラウザからのアクセスを許可する場合は、「Enable browser」にチェックを入れてください。ブラウザからのアクセスが有効になっていないと、ユーザーはブラウザ経由でアクセスできなくなります。
- ◆ 「Enable multiuser operation」にチェックが入っていると、最大で 32 ユーザーからの同時アクセスが可能になります。

I/O Modules

Upgrade

Upgrade ボタンからは、選択されたポートに接続されたコンピュータモジュールのファームウェアのアップグレードを行うことができます。「Upgrade...」ボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



設定方法は下記のとおりです。

1. アップグレードの対象となるポートを選択します。

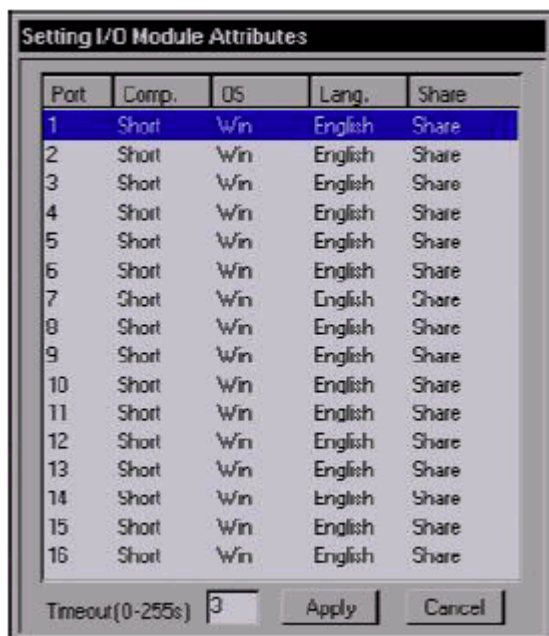
注意: 各ポートの状態は右側の欄に表示されています。

2. 「Upgrade」ボタンをクリックして、アップグレードを実行します。

注意: アップグレードを実行せずにダイアログを閉じる場合は、「Close」ボタンをクリックしてください。

Attributes

Attributes ボタンからは、各ポートに対する属性値を設定することができます。「Attributes...」ボタンをクリックすると下記のようなダイアログが表示されます。



- ◆ 1 列目にはポート番号が、2 列目以降には各ポートの属性値がそれぞれ表示されます。各属性の内容は下記の表のとおりです。

属性	内容
Cable (Comp.)	コンピュータと KN2108/KN2116 を接続しているカテゴリ 5 ケーブルの長さを設定します。Short (20m 以下)、Medium (20~30m)、Long (20m 以上) の中から選択してください。デフォルトは Short です。
OS	該当ポートに接続されているコンピュータの OS を設定します。Windows、MacOS、Sun Solaris の中から選択してください。デフォルトは Windows です。
Lang	該当ポートに接続されているコンピュータの OS が使用している言語を設定します。English、French、Japanese の中から選択してください。デフォルトは English です。
Share	ポートに対する共有モードを選択します。次ページの共有モード属性表にある Exclusive、Occupy、Share の中から選択してください。

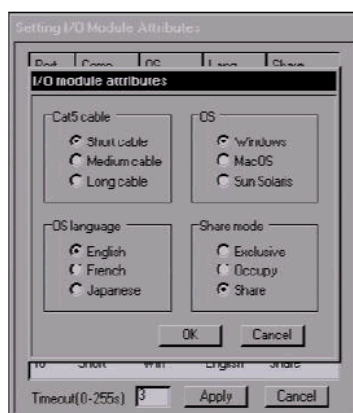
- ◆ 「Timeout」欄には、ポートの共有モードが「Occupy」に設定されている場合、ユーザーが操作できる時間(分)の最大値を設定します。ここで設定されている時間、ポートを専有しているユーザーが、このポートに対して何も操作を行わなかった場合、そのユーザーはタイムアウトになり、このポートは開放されます。ポートの操作権限は、このポートが開放された後、最初にキーボード・マウスでこのポートにアクセスしたユーザーにうつります。この項目には 0～255 秒の範囲の値を設定してください。デフォルトは 3 秒です。0 を設定すると、このポートに対して入力がなくなったと同時にポートが開放されます。

シェアモード属性表

属性	動作
Exclusive	最初にポートを専有したユーザーが、このポートに対して排他的に操作を行うことができます。この場合、ほかのユーザーはこのポートに対する参照やアクセスができなくなります。
Occupy	最初にポートを専有したユーザーが、このポートに対して操作を行うことができますが、最大で 31 ユーザーがこのポートの画面を見ることができます。この場合、ポートに対するタイムアウト設定が有効になります。
Share	最大 32 ユーザーがこのポートを同時に共有できます。ユーザーからの入力はキューに格納され、入力順に処理されます。また、ユーザーは KN2108/KN2116 のメッセージボード機能にアクセスし、Shareに設定されているポートのキーボード・マウス、またはキーボード、ビデオ、マウスが操作できるようになります。メッセージボード機能についてはp.97をご参照ください。

属性の変更

ポートの属性を変更する場合は、そのポートをダブルクリックしてください。ポートをクリックすると、下図のようなダイアログが表示されます。



1. 属性の変更対象となるポートを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。そうすると、前の画面 (Setting I/O Module Attributes) に戻ります。変更を保存せずに終了する場合は、「Cancel」ボタンをクリックしてください。
2. 前の画面に戻ったときに、「Apply」ボタンをクリックして変更を適用してください。変更を保存せずに終了する場合は「Cancel」ボタンをクリックしてください。

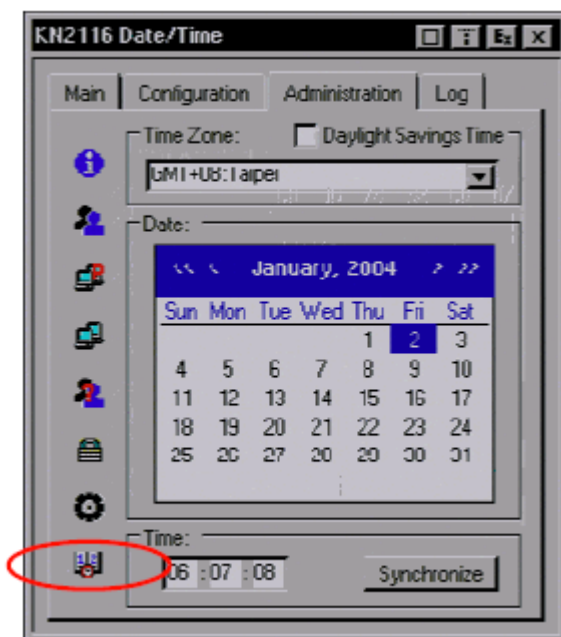
その他の機能

Administration タブの下部にある、その他の機能については下記の表のとおりです。

項目	説明
Reset on exit	ここにチェックを入れてからログアウトすると、KN2108/KN2116 をリセットし、設定に関するすべての変更を有効にします。リセットした後は再びログインするまで 30～60 秒ほどお待ちください。例えば、NetworkメニューでIPアドレスを変更した場合、ログアウトする前にこの項目にチェックを入れる必要があります。チェックをしない限り、変更は反映されません。
Reset Values	このボタンを押すとポート名称の編集を除く、ConfigurationタブおよびAdministrationタブで行ったすべての変更をリセットし、工場出荷時の設定に戻します。ポート名称についてはp.49を、OSDの工場出荷時の設定についてはp.146を、それぞれご参照ください。
Clear Name List	ポート名称設定を削除して、工場出荷時のデフォルト値(全ポート名称無し)にします。

Date/Timeメニュー

Date/Time メニューではアドミニストレーターが KN2108/KN2116 の日付・時刻の設定を行うことができます。



- ◆ タイムゾーンを設定するには、KN2108/KN2116 が設置された場所に最も近い都市を、「Time Zone」のドロップダウンリストから選択してください。
- ◆ 年月日を設定するには「Date」のカレンダー画面を使用します。
 - 「<<」と「>>」で年を変更します。
 - 「<」と「>」で月を変更します。
 - 年と月を設定してから、日を設定してください。
- ◆ 時間の設定は HH:MM:SS (時:分:秒) の形式で入力してください。
- ◆ 「Synchronize」ボタンをクリックして、変更内容を反映させてください。変更内容を破棄する場合は、「Synchronize」ボタンをクリックせずに、このメニューでの操作を終了してください。

ファームウェアアップグレード

新しいバージョンのファームウェアは、弊社Webサイトで提供されておりますので、そこからダウンロードし、ご利用いただけます。(<http://www.aten.com/>)

ファームウェアを最新の状態に保つためにも定期的に弊社 Web サイトを確認してください。

注意: ファームウェアアップグレードは OSD メニューには含まれていませんが、管理者に限定された機能であるため、この章で説明します。

ファームウェアのアップグレードは以下の手順に従ってください。

1. KN2108/KN2116 にローカル接続されているコンピュータ以外の端末に新しいファームウェアのファイルをダウンロードしてください。
2. ファイルをダウンロードしたコンピュータでブラウザを開き、KN2108/KN2116 にログインしてください。
3. Firmwareアイコン (p.74参照) をクリックして、下図のようなファームウェアアップグレードメニューを表示させます。



4. 「Browse」ボタンをクリックします。ファームウェアをダウンロードしたディレクトリを表示し、ファイルを選択します。
5. 「Upload」ボタンをクリックします。
6. アップロードが終了したら、Web ページ右上にある「Logout」アイコンをクリックしてログアウトし、KN2108/KN2116 をリセットしてください。

第4章 ブラウザ操作

概要

KN2108/KN2116 のコンピュータ操作は OSD (オンスクリーンディスプレイ) インターフェースによって行います。OSD には Windows ベースのクライアントツール、Java ベースのクライアントツールからリモートアクセスが可能です。KN2108/KN2116 への接続および OSD の呼び出しを行う場合は、Web ブラウザからログインする必要があります。

ログイン

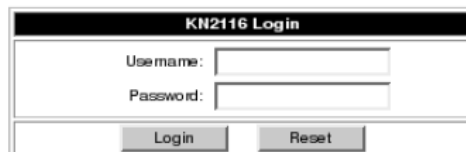
Web ブラウザから KN2108/KN2116 にログインするには、以下の手順で操作してください。

1. ブラウザを開き、アクセスしたい KN2108/KN2116 の IP アドレスをブラウザの URL バーに入力します。

注意: IP アドレスがご不明な場合は、KN2108/KN2116 の管理者にお問い合わせください。

2. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されますので、内容を確認し、この証明書を受け入れてください。(信頼された証明書の詳細はp.138参照)

以下のようなログインページが表示されます。



KN2116 Login	
Username:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/>	<input type="button" value="Reset"/>

ALTUSCN
Connect Without Limits™

3. KN2108/KN2116 の管理者から提供された有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックしてください。

-
- 注意:**
1. 無効なユーザーネームとパスワードを入力した場合、「Invalid Username or Password. Please try again.」という警告メッセージが表示されます。入力エラーが管理者によって設定された回数を超えると「The Page cannot be displayed」というメッセージが表示されます。これは悪意のあるアクセスが複数試行によって有効なユーザーネームとパスワードを発見することを防ぐためです。このメッセージが表示されたら KN2108/KN2116 にログインしなおしてから、注意してユーザーネームとパスワードを入力してください。
 2. アドミニストレーターとして初めてログインする場合には、デフォルトのユーザーネームとパスワードを使用してください。
デフォルトユーザーネーム: administrator
デフォルトパスワード: password
セキュリティの面から、デフォルトのユーザーネームとパスワードを変更してオリジナルのユーザーネームとパスワードを作成することを強く推奨します。(p.54の「User Managementメニュー」参照)
-

ログインに成功すると KN2108/KN2116 Web ページの General メニューが表示されます。



-
- 注意:** この画面は Web ページの左上部の General アイコンをクリックしたときと同じものです。
-

Webページレイアウト

Generalメニュー

メニューの各項目の説明は以下の通りです。

フィールド	説明
Device Name	複数の KVM スイッチを導入されている環境で、スイッチの識別を容易にするために、KN2108/KN2116 には固有の名前をつけることができます。アドミニストレーターによって設定されたデバイス名はここに表示されます。
MAC Address	KN2108/KN2116 の MAC アドレスはこのフィールドに表示されます。
Firmware Version	KN2108/KN2116 の現在のファームウェアバージョンを示します。ファームウェアの最新版は、弊社Webサイトよりダウンロードしてお使いいただけます。(ファームウェアアップグレードについてはp.72参照)
Reset on Exit	KN2108/KN2116 について何らかの設定・管理方法の変更を行った場合、その変更内容を反映させるために、この項目にチェックを入れてログアウトし、KN2108/KN2116 をリセットする必要があります。 注意: このチェックボックスはアドミニストレーター権限を持つユーザーのみが使用できます。



Webページアイコン

Web ページ上部のその他のアイコンの使用方法については以下の表をご覧ください。

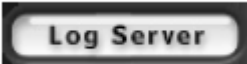


アイコン	機能
Sync	<p>このアイコンをクリックするとリモートコンピュータの時計と KN2108/KN2116 の時計を同期させます。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ リモートコンピュータと KN2108/KN2116 が同一タイムゾーンにある場合、KN2108/KN2116 の時間はリモートコンピュータの時間に設定されます。◆ リモートコンピュータと KN2108/KN2116 が同一タイムゾーンにない場合、タイムゾーンは異なっていますが、KN2108/KN2116 の時間はリモートコンピュータの時間に設定されます。
Firmware	<p>このアイコンをクリックするとKN2108/KN2116 のファームウェアをアップグレードします。詳細に関してはp.72をご参照ください。</p> <p>注意:Firmware アイコンは、アドミニストレーター権限のあるユーザーのみに表示され、権限のないユーザーには表示されません。</p>
Logout	<p>このアイコンをクリックするとログアウトして KN2108/KN2116 とのセッションを終了します。</p>

Webページボタン

Web ページ左側のボタンの使用方法については以下の表をご覧ください。

ボタン	機能
	<p>KN2108/KN2116 に接続されたコンピュータをリモートコントロールするための Windows クライアントソフトウェアをダウンロードします。</p> <p>注意:このツールは、基本的にはディスクに保存せず、直接起動するという前提で設計されておりますが、ブラウザによってはプログラムを一旦ディスクに保存しないと実行できない場合がございます。また、安定した動作でお使いいただくために、ダウンロードしたものを使いまわすのではなく、毎回ダウンロードしてお使いいただくようお願いいたします。</p>
	<p>KN2108/KN2116 に接続されたコンピュータをリモートコントロールするための Java クライアントソフトウェアをダウンロードします。この Java プログラムはプラットフォームから独立しておりますので、Java がインストールされているコンピュータで、かつ KN2108/KN2116 対応 OS であれば、お使いいただくことができます。</p> <p>注意:このツールは、基本的にはディスクに保存せず、直接起動するという前提で設計されておりますが、ブラウザによってはプログラムを一旦ディスクに保存しないと実行できない場合がございます。また、安定した動作でお使いいただくために、ダウンロードしたものを使いまわすのではなく、毎回ダウンロードしてお使いいただくようお願いいたします。</p>
	<p>Web ブラウザ経由での KN2108/KN2116 へのアクセスを制限したいケースでもお使いいただけるよう、このメニューからアプリケーション版の Windows クライアントを提供しております。Windows クライアントをダウンロードする場合は、このボタンをクリックしてください。このツールをユーザーに配布することによって、アドミニストレーターはユーザーによるブラウザ経由でのアクセスを制限することができます。このソフトウェアの操作方法については第 9 章で詳しく説明します。</p>
	<p>Web ブラウザ経由での KN2108/KN2116 へのアクセスを制限する環境でもお使いいただけるよう、このメニューからアプリケーション版の Java クライアントを提供しております。Java クライアントをダウンロードする場合は、このボタンをクリックしてください。このツールをユーザーに配布することによって、アドミニストレーターはユーザーによるブラウザ経由でのアクセスを制限することができます。このソフトウェアの操作方法については第 9 章で詳しく説明します。</p>

(この表は次のページに続きます)

ボタン	機能
	<p>このボタンをクリックするとアドミニストレーターはログサーバアプリケーションをダウンロードし、インストールすることができます。ログサーバの詳細については第 8 章をご参照ください。</p>
	<p>Power over the NET™ (PON) モジュールが KN2108/KN2116 に接続されている場合、このボタンをクリックして PON モジュールのインターフェースを呼び出すことができます。</p>
	<p>KN2108/KN2116 で発生する重要なイベントはすべてログファイルに記録されます。このアイコンをクリックするとログファイルの内容を表示します。</p>

第5章

Windowsクライアント

OSDの起動

ログインに成功したら(p.73参照)、WindowsクライアントOSDを以下の手順で呼び出してください。

1. Web ページ左側の「Windows Client」ボタン(矢印がついていない方)を押してください。

注意:

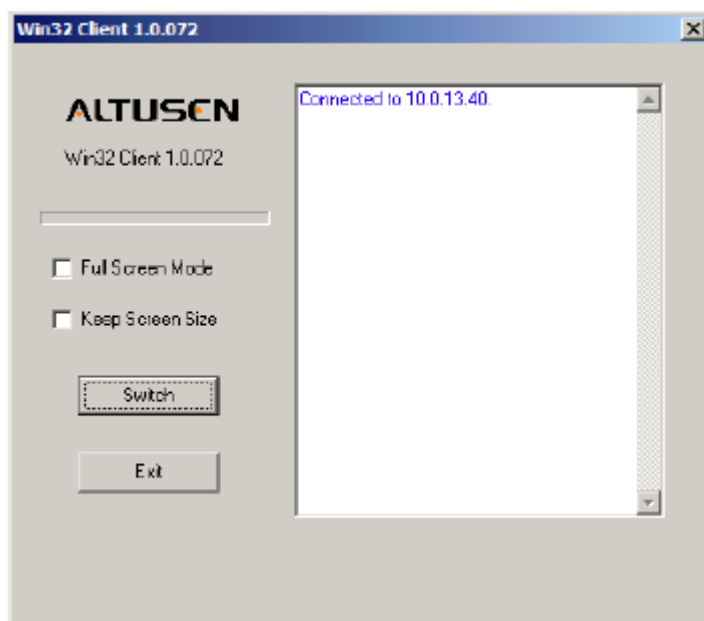
1. お使いのコンピュータにDirectX 7.0 以上がインストールされている必要があります。インストールされていないコンピュータではWindowsクライアントを起動することができません。DirectXはMicrosoft社のサイトから無料でダウンロードできます。
<http://www.microsoft.com/downloads>
2. 矢印がついている方の「Windows Client」ボタンはWindows クライアントツールのアプリケーション版です。(アプリケーションの操作方法についてはp.123をご参照ください)

2. 「セキュリティの警告」ダイアログが表示されますので、「実行」ボタンを押してください。
3. Web ブラウザによっては、再び「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されますが、この場合も「**実行する**」ボタンを押してください。

注意:

1. ブラウザがファイルを直接実行することができない場合は、任意のディレクトリにそのファイルを保存し、ブラウザで KN2108/KN2116 の Web ページを開いた状態のまま、プログラムを実行してください。
2. ローカルディスクに保存してから実行する場合、セキュリティの設定の関係で、以前にダウンロードしたプログラムをそのまま実行することはできません。KN2108/KN2116 にアクセスするときには、毎回有効なユーザーネームとパスワードでログインし、新たにプログラムをダウンロードしてから実行してください。

4. KN2108/KN2116 への接続が確立されると以下のようなウィンドウが表示されます。

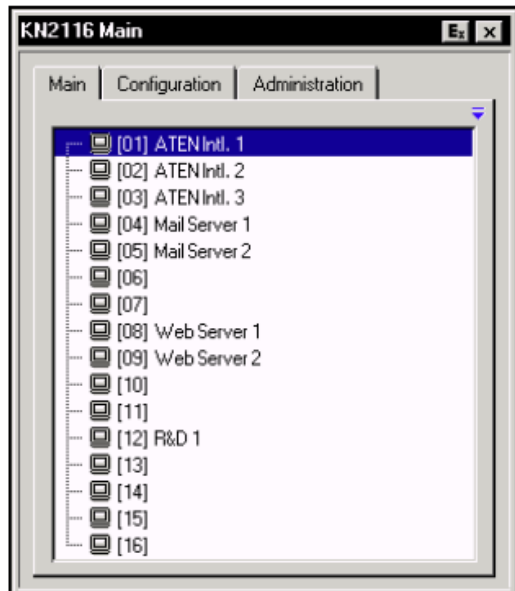


- ◆ 「Full Screen Mode」が有効(チェックボックスにマークが入っている)になっているとリモートディスプレイがローカルモニタで全画面表示されます。
- ◆ 「Full Screen Mode」が無効(チェックボックスが空白)になっていると、リモートディスプレイはローカルモニタにウィンドウ表示されます。もしリモート画面の設定がウィンドウより大きい場合は、ウィンドウ内で表示させたい部分にマウスポインタを近づければ画面がスクロールします。
- ◆ 「Keep Screen Size」が無効(チェックボックスが空白)になっていると、リモートスクリーンはローカルモニタの解像度に合わせてリサイズされて表示されます。
- ◆ 「Keep Screen Size」が有効(チェックボックスにマークが入っている)になっていると、リモートスクリーンはリサイズされません。
 - リモートスクリーンの解像度のほうが小さい場合、ローカルモニタの中央に表示されます。
 - リモートスクリーンの解像度のほうが大きい場合、中央の表示可能な部分のみが表示されます。スクリーン外を表示したい場合は、表示させたい部分にマウスポインタを近づければ画面がスクロールします。

5. 「Switch」ボタンをクリックすると、OSD 画面が表示されます。

Mainタブ

OSD 画面が呼び出されると Main タブが最初に表示されます。



- ◆ Mainタブには、KN2108/KN2116 に接続されたすべてのポートが一覧表示されます。各コンピュータにアクセスする場合は、このタブで該当ポートを選択します。Mainタブの各項目の詳しい操作方法は、p.46に記載されています。
- ◆ ダイアログボックスの右上には2つのボタンが表示されています。
 - 左のボタン (Ex) を押すと、OSD 画面を終了し、KN2108/KN2116 のセッションからログアウトします。
 - 右のボタン (X) を押すとOSD画面は終了しますが、ログアウトはされません。ホットキー操作によりすぐにOSD画面を呼び出すことができます。(p.101「OSD Hotkey」参照)

-
- 注意:**
1. Administration タブは、アドミニストレーター権限を持っていないユーザーがアクセスしているときは表示されません。Administration タブの操作についての詳細は第3章をご参照ください。
 2. OSDを呼び出すと、同時に右下に小さなクライアントコントロールパネルが表示されます。このパネルについての詳細はp.90をご参照ください。
-

ポート操作

OSD 画面でアクセスするポートを選択するには、上下のカーソルキーでハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押すか、マウスで直接コンピュータ名をダブルクリックします。ポートが選択されると、ローカルモニタにはリモートシステムの画面が表示され、ローカルコンソール入力はリモートシステムへ送られます。

OSDツールバー

KN2108/KN2116 操作を簡単にするため、OSD ツールバーが用意されています。ツールバーを呼び出すには、OSD ホットキー操作を行います。(デフォルトは[Scroll Lock]2 度押し)ツールバーは画面の左上部に表示されます。



お使いのKN2108/KN2116 の「ID Display」(p.101参照)の設定に応じて、ポート番号またはポートネームのいずれかがツールバーの右端に表示されます。ツールバーアイコンの内容については、p.84の表をご参照ください。

注意: ツールバーが表示されると、マウス入力はツールバー領域内に取り込まれ、キーボード入力は無効になります。ポートに接続されたコンピュータの操作を継続するには OSD を再び呼び出してポートを選択しなおさなくてはなりません。

OSD画面の再呼び出し

ツールバーを閉じて OSD 画面 (Main、Configuration、Administration 各タブ)に戻るには、OSD ホットキー (デフォルトは[Scroll Lock])を 1 回だけ押します。ツールバーが画面から消えて、OSD の Main ページが表示されます。












OSDホットキー早見表

下記のテーブルはOSDホットキー操作の早見表です。p.101の「OSD Hotkey」の内容を参照し、OSDホットキーを設定してください。

動作	ケース	操作
OSD ツールバーを開く	OSD ツールバーが開いていないとき	OSD ホットキーを 2 回クリックします。
OSD 画面を開く	OSD ツールバーが開いているとき	OSD ホットキーを 1 回クリックします。
OSD 画面を開く	OSD ツールバーが開いていないとき	OSD ホットキーを 3 回クリックします。

ツールバーアイコン

ツールバーの各アイコンの説明は以下の表をご参照ください。

ボタン	機能
	このアイコンをドラッグするとツールバーを移動することができます。
	このアイコンをクリックすると、お使いの KVM スイッチの構成の中で最初のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	このアイコンをクリックすると一つ前のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	このアイコンをクリックするとオートスキャンモードになります。KN2108/KN2116 はScan Select機能 (p.101参照) でオートスキャンに設定されたポートを自動的に切り替えるようになります。この機能により、手動でポートを切り替える操作をしなくてもコンピュータの状態を監視することができます。
	このアイコンをクリックすると次のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	このアイコンをクリックすると、お使いの KVM スイッチの構成の中で最後のアクセス可能なポートに接続されたコンピュータに切り替えます。
	このアイコンをクリックすると OSD 画面を呼び出します。
	このアイコンをクリックするとツールバーを閉じます。
	このアイコンをクリックするとログアウトして Windows クライアントツールを終了します。
	このアイコンをクリックするとパネルアレイモード (p.87参照) を起動します。
	このアイコンをクリックすると、KN2108/KN2116 に接続されているカテゴリ 5 ケーブルの長さに基づいて、コンピュータモジュールの補整モードの選択 (Short、Medium、Long) を行います。ケーブルの長さに応じてアイコンが切り替わります。

注意: アドミニストレーターは、各ユーザーがアクセスできるポートをユーザー管理機能で設定します。(詳細はp.54参照)

ホットキー操作

ホットキー操作によってポートに対する切替操作を直接キーボードから行うことができます。KN2108/KN2116 は以下のホットキー操作を用意しています。

- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモード

-
- 注意:**
1. ホットキーは[A]および[P]がオートスキャン、カーソルキーがスキップモードです。
 2. ホットキー操作を行う場合には、OSDツールバーが画面に表示されている必要があります。(詳細はp.82のポート操作を参照)
 3. OSD ツールバーが表示されている場合、ホットキーをホットキー以外の用途に使うことはできません。ホットキーに割り当てられているキーを通常入力したい場合は、この OSD ツールバーを閉じてください。
-

オートスキャン

オートスキャン機能は現在ログインしているユーザーがアクセス可能なすべてのポートを一定の間隔で自動的に切り替え、監視することができます。アクセス可能なポートについては p.101の「Scan Select」をご参照ください。

スキャンインターバルの設定

オートスキャンモードでポートを表示している時間の長さは、OSDの「Scan Duration」(p.101参照)の項目で設定します。

オートスキャンの呼び出し

オートスキャンを開始するには、OSD ツールバーが表示されている状態で[A]キーを押してください。オートスキャン機能は接続されたポートの最初から順番に表示を切り替えていきます。モニタ上でポートID の前に **S** の文字が表示されているポートは、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを示します。

オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードを実行している間、一時的に特定のポートを表示させておきたい場合は[P]キーを押してください。オートスキャンモードが一時停止されている間、表示しているポートのポート ID の前にある S の文字が点滅します。

特定のポート位置での一時停止機能は、再開した際に停止した位置からスキャンを開始できますので、オートスキャンを一度終了して個別にアクセスするよりも便利です。(オートスキャンを一度終了させてしまうと接続されているポートの最初からスキャンが開始されるため) 一時停止状態からオートスキャンモードに復帰するには、[Esc]キーと[Space]キー以外の任意のキーを押してください。一時停止した位置からスキャンを再開します。

オートスキャンの終了

オートスキャンモードが実行されている間、キーボードの入力は基本的にサスペンド状態となっており、操作を受け付けません。キーボードから再び通常のポート操作を行う場合は、オートスキャンモードを終了させなければなりません。オートスキャンモードを終了するには [Esc]または[Space] キーを押してください。

スキップモード

スキップモードは手動でコンピュータを切り替えて監視する機能です。オートスキャンモードがあらかじめ設定した間隔で自動的に切り替えるのに対し、特定のポートを任意の時間表示させたままにしておくことができます。スキップモードホットキーは 4 つのカーソルキーを使います。各キーの機能については以下をご参照ください。

キー	機能
←	現在のポートから一つ前のアクセス可能なポートに移動します。(アクセス可能なポートについてはp.101の「Scan Select」をご参照ください。)
→	現在のポートから一つ後ろのアクセス可能なポートに移動します。
↑	現在のポートから、お使いの KVM スイッチの構成の中で最初にアクセス可能なポートに移動します。
↓	現在のポートから、お使いの KVM スイッチの構成の中で最後にアクセス可能なポートに移動します。

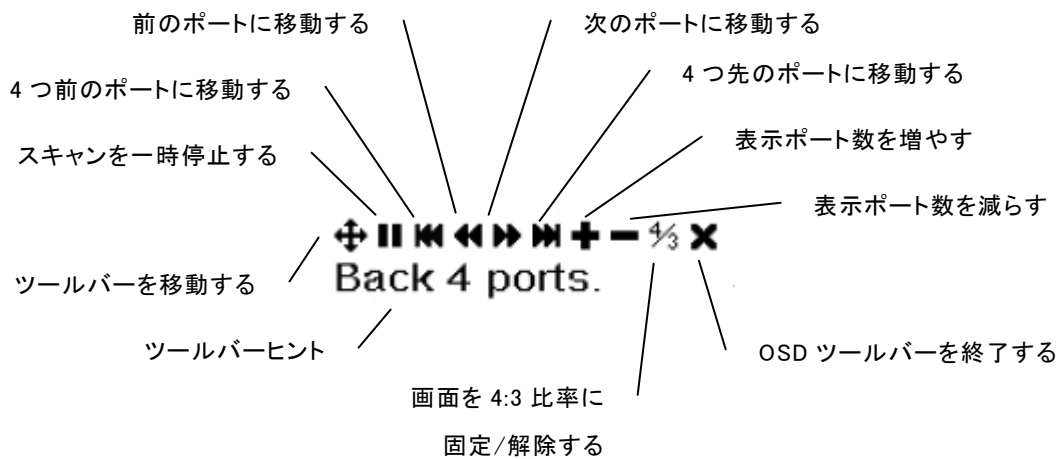
パネルアレイモード

OSD ツールバーのパネルアイコンをクリックするとパネルアレイモードが起動します。このモードでは、モニタが 2 マス×4 マスの 8 分割 (KN2108)、または 4 マス×4 マスの 16 分割 (KN2116) で接続されているコンピュータの画面を表示することができます。



- ◆ それぞれのパネルは KN2108/KN2116 の各ポートに対応しています。一番左上から右に向かってポート 1、ポート 2、上から 2 段目左からポート 5、6…、という順序で並んでいます。KN2108 の場合はポート 8、KN2116 の場合はポート 16 がそれぞれ右下角に配置されます。
- ◆ パネルアレイモード初回起動時、Configuration タブの「Scan Select」(p.101 参照) でオートスキャンポートとして選択されたポートを自動でスキャンし、画面下にポート名前/解像度/オンラインステータス/ポートアクセスステータスの各情報を表示します。
- ◆ パネルアレイモードで表示されるパネル数 (4×4=16、3×3=9、2×2=4、1) は、パネルアレイツールバーの「Show More Ports」、「Show Fewer Ports」をクリックすることで変更できます。(次ページを参照)
- ◆ ポートに接続されたコンピュータに電源が入っている場合は画面がパネルに表示されます。電源が入っていない場合、パネルには何も表示されません (ブランク)。
- ◆ 現在ログインしているユーザーがアクセス可能なポートだけがパネルに表示されます。(p.56 の「Port Access」を参照) アクセス権が無いポートに対応したパネルには何も表示されません。

- ◆ マウスポインタをパネル上に移動させると、そのパネルに対応したポートの情報が画面下に表示されます。
- ◆ マウスポインタをアクセスしたいポートに対応したパネルの上に移動させてクリックすると、そのポートにアクセスできます。
- ◆ 画面右下にあるパネルアレイツールバーの各アイコンの説明は以下の通りです。



マルチユーザーによる操作







KN2108/KN2116 はマルチユーザー対応で、最大 32 ユーザーによる同時ログインが可能です。複数ユーザーが同時にリモートコンソールから KN2108/KN2116 にアクセスした場合に適用される操作の優先順位のルールは以下の表のとおりです。

操作	ルール
全般	あるユーザーが OSD 画面を起動すると、そのユーザーが OSD 画面を閉じるまで、ほかのユーザーは OSD を起動することができません。
オートスキャンモード	あるユーザーがオートスキャンモード (p.85 参照) を起動しているものの OSD が起動していない場合、ほかのユーザーは OSD 画面を起動してオートスキャンモードに割り込むことができます。
パネルアレイモード	<ul style="list-style-type: none"> ◆ あるユーザーがパネルアレイモード (p.87 参照) を起動すると、すべてのユーザーがパネルアレイモードになります。これは、最初に起動したユーザーがパネルアレイモードを終了するまで続きます。(ただし、アドミニストレーターがパネルアレイモードを起動した場合は、そちらが有効になります。) ◆ パネルアレイモードを起動したユーザーのみがスキップモード (p.86 参照) 機能を使用することができます。 ◆ パネルアレイモードを起動したユーザーのみがポートを切り替えることができます。他のユーザーも自動的に最初のユーザーが選択したポートに切り替わります。ただし、切り替わったポートに対してアクセス権限がない場合、ユーザーはそのポートを参照することができません。 ◆ 各ユーザーはパネルアレイモードで表示したいパネルの枚数の増減が可能ですが、パネルの数を減らした場合、表示画質が劣化する場合がございます。

- 注意:**
1. KN2108/KN2116 がサポートするリモートコンソール数は最大 2 つまでです。1 番目、3 番目、5 番目…とログインしたユーザーはリモートコンソール 1 に割り当てられ、2 番目、4 番目、6 番目…とログインしたユーザーはリモートコンソール 2 に割り当てられます。したがって、あるユーザーがポートを切り替えると、同一コンソールに割り当てられているユーザーがモニタリングしているポートも同時に切り替えられます。
 2. 他のユーザーが表示画面の画像をすべて受信するためにも、パネルアレイモードを起動したユーザーは最低 4 パネルの表示に設定することを推奨します。

Windowsクライアントコントロールパネル

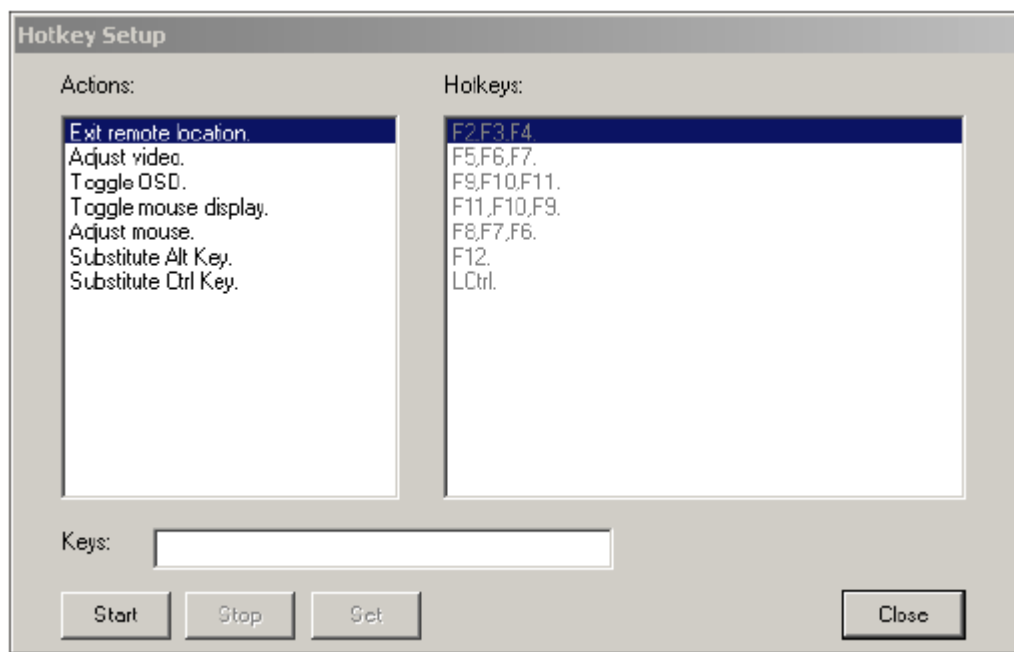
コントロールパネルは上部のアイコンバーとその下にある 2 行のテキストバーから構成されます。(p.81 参照) 初期表示時にはテキストバーはリモートシステムのVGA解像度とIPアドレスを表示していますが、マウスポインタをアイコンバーの領域に移動させると、テキストバーには各アイコン機能の説明が表示されます。アイコンの機能については以下の表をご覧ください。

アイコン	機能
	ポインタをこのアイコンに合わせてドラッグすると OSD ディスプレイを移動させることができます。
	このアイコンをクリックするとホットキーセットアップダイアログボックスを表示させます。(p.91 参照)
	このアイコンをクリックするとVGAユーティリティを表示させます。(p.94 参照) 右クリックすると、クイックAuto Syncを実行します。詳細はp.95をご参照ください。
	このアイコンをクリックするとメッセージボードを表示します。詳細はp.97をご参照ください。
	このアイコンをクリックすると Windows クライアントを終了します。
空白	アイコンバーの空白領域にポインタを合わせるとリモートシステムの VGA 解像度と IP アドレスが表示されます。
	この LED インジケータは、左から順にリモートコンピュータの Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各ステータスを示します。アイコンをクリックすることでステータスを変更します。 注意: 初めて接続するとき、LED の表示はリモートの状態を正しく反映していません。最初に各アイコンをクリックしてステータスを同期させてください。

ホットキーセットアップ、VGA 解像度調整、パネルアレイの各機能については次の章以降で説明しています。

ホットキー

キーボード、マウス、モニタに関する様々な設定はホットキー操作で実現できます。ホットキーセットアップユーティリティはコントロールパネルのキーボードアイコンをクリックすると起動します。ホットキーの機能は左のフィールド「Actions」に、また、ホットキーの内容は右のフィールド「Hotkeys」に表示されています。



ホットキー操作

ホットキー操作の説明は以下の表をご参照ください。

ホットキー操作	説明
Exit remote location	KN2108/KN2116 との接続を終了し、ローカルコンピュータの操作に戻ります。
Adjust Video	VGA解像度調整ユーティリティを呼び出します。(p.94参照)
Toggle OSD	OSD 画面のオン/オフを切り替えます。
Toggle mouse display	ディスプレイ上に 2 つのマウスポインタ(ローカルおよびリモート)が表示されて作業がしにくい場合、この機能を用いてアクティブでないポインタを作業の邪魔にならない程度に縮小することができます。ポインタを縮小しているときにホットキー操作をもう一度行くと、もとの状態に戻ることができます。
Adjust mouse	この機能は、VGA 解像度の変更に合わせてローカルとリモートのマウスポインタを同期します。このホットキー操作を行った後、ローカルとリモートのマウスポインタを重ね合わせてシングルクリックすると同期が完了します。
Substitute Alt key	接続が確立されている場合、基本的にキーボードからの入力はすべてキャプチャされて KN2108/KN2116 へ送られますが、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]の入力だけはローカルシステムで機能します。この 2 つの入力をリモートシステムに対して有効にするには、[Alt]キーの代わりにファンクションキーを割り当てることで解決できます。[Alt]キーのデフォルト代替キーは[F12]キーに設定されており、この場合、[Alt] + [Tab]、[Ctrl] + [Alt] + [Delete]は、それぞれ[F12] + [Tab]、[Ctrl] + [F12] + [Del]のキー入力で行えます。
Substitute Ctrl key	ローカルシステムで[Ctrl]キーの組み合わせをお使いの場合、これらのキー入力のリモートシステムに送られるのを防ぐために、[Ctrl]キーの代わりになるファンクションキーを設定することができます。[Ctrl]キーのデフォルト代替キーは[F11]キーに設定されており、例えば、[F11] + [5]を入力すると、リモートシステムでは[Ctrl] + [5]が入力されたこととなります。

注意: ホットキーの各機能を実行する場合、キーは必ず順番に一つずつ入力し、同時に押さないようにしてください。

ホットキーの設定

デフォルトのホットキーの組み合わせに不都合がある場合、以下の手順で任意のキーに変更することができます。

1. ホットキーセットアップユーティリティで、変更したいホットキーを「Actions」リストで選択し、「Start」を押します。
2. 任意のファンクションキーを順番に入力すると、「Keys」フィールドに押したキーが表示されます。
3. 新しいホットキーを入力し終わったら「Stop」をクリックします。
4. 「Set」をクリックします。

-
- 注意:**
1. 同じ組み合わせのファンクションキーでも、入力するキーの順番を変えることによって複数のアクションを割り当てることもできます。例えば F1,F2,F3 と F2,F1,F3 と F3,F2,F1 は異なるホットキーとみなされます。
 2. フルスクリーンモードで Windows98 から KN2108/KN2116 にアクセスした場合は、[Ctrl] + [Alt] + [Del]のコマンドの扱いに十分注意してください。
-

マウスの同期

KN2108/KN2116 との接続を終了するまで、マウス入力はずべてキャプチャされてリモートシステムに送られますが、ローカルシステムに対しては完全に無効になります。

時折、特に VGA 解像度を変更した場合など、ローカルでのマウス操作とリモートシステムのマウスポインタの挙動が一致しない状況が起こることがあります。このような場合にマウス入力を同期させる方法が 3 つあります。

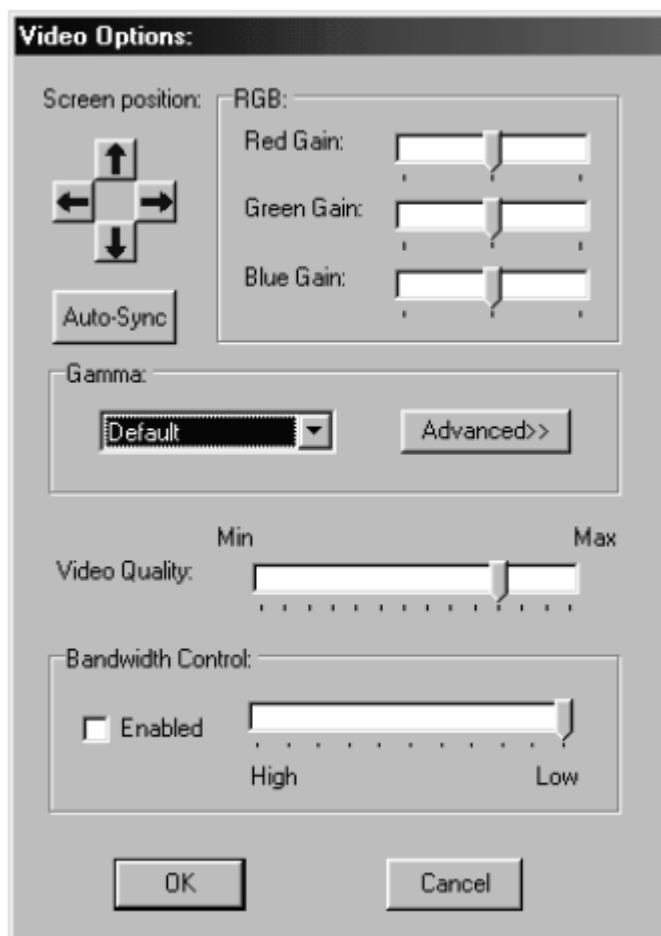
- ◆ マウスポインタをコントロールパネル上に移動させ、それからパネル外へ移動させます。
- ◆ VGAユーティリティのAuto Syncを実行します。(p.94参照)
- ◆ Adjust Mouse機能を実行します(p.92の「Adjust mouse」を参照)

上記のどの方法でも問題が解決しない場合は、ローカルコンピュータのマウス動作に関する設定が原因である可能性があります。その他のマウス同期方法(p.141)をご参照ください。

VGAユーティリティ

一般的な設定

「Video Options」ダイアログでは、モニタに表示されるリモート画面の位置や画質を調節することができます。調節を行うには、コントロールパネルのハンマー型アイコンをクリックするか、Adjust videoホットキー (p.92参照) を使用して、以下の画面を表示させます。



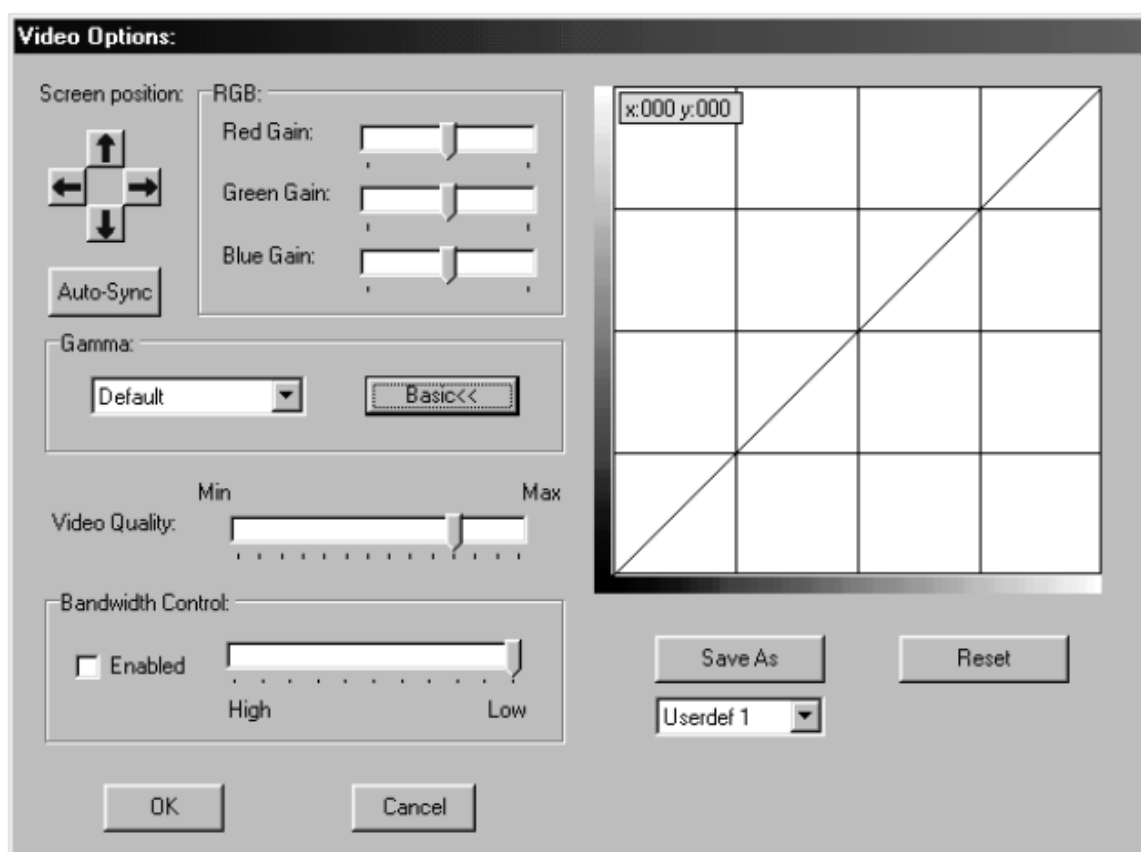
各調整オプションは以下の表のとおりです。

オプション	説明
Screen Position	矢印ボタンを押して、リモートコンピュータウィンドウの水平・垂直位置を調節します。
Auto-Sync	<p>「Auto-Sync」ボタンをクリックするとリモートスクリーンの解像度を特定しローカルスクリーンに合わせ自動的に調節して表示します。リモートとローカルのマウスポインタの同期が失われた場合、この機能を使用して元に戻すことができます。</p> <p>注意:この機能は高輝度の状態で効果を発揮します。</p> <p>自動調節の結果に満足できないときは、Screen Position 機能を使用して手動で調節してください。</p>
RGB	スライダーを移動させて RGB を変更します。RGB 量を変更するとそれに対応して色合いが変更されます。
Gamma	ビデオディスプレイのガンマ値を調節します。この機能の詳細については次ページで説明します。
Video Quality	スライダーを移動させて全体的なビデオクオリティを調節します。値の範囲は 20～100 です。大きい値ほど鮮明な画像が転送されますが、ネットワークの負荷も大きくなり、レスポンスに影響を与える可能性があります。
Bandwidth Control	この設定は画質とネットワーク速度の比率を調節します。低速で接続しているときは、パフォーマンス向上のためスライダーを Low の方へ移動させてデータ転送量を減らしてください。

ガンマ値調節

リモートディスプレイでガンマ値を調整する必要がある場合は、「Video Options」ダイアログの Gamma 機能を使用します。

基本設定では、7つのプリセット値が用意されています。ドロップダウンリストから最も適した設定を使用してください。より高度な設定を行う場合は、「Advanced」ボタンを押してください。以下のようなウィンドウが表示されます。

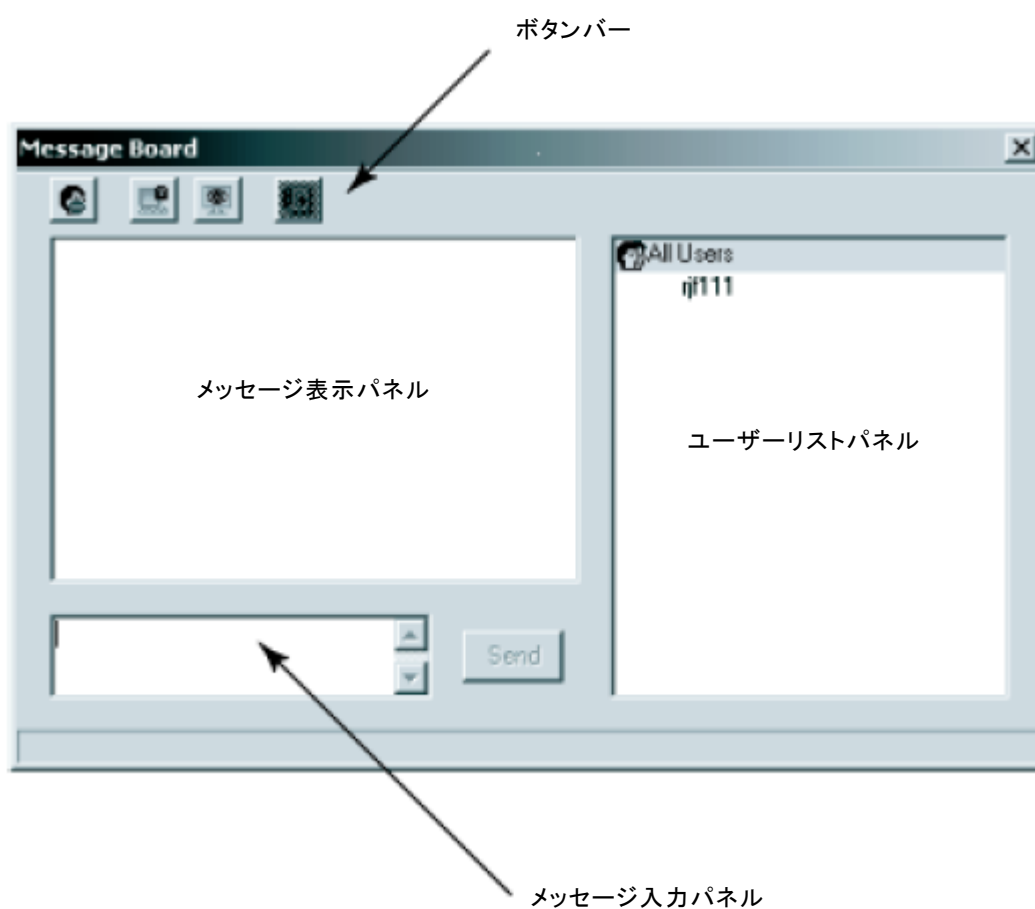


- ◆ 右側のスクリーンに表示されている対角線をドラッグしてディスプレイ出力を調整してください。
- ◆ 「Save As」ボタンを押すと、変更した設定をユーザー定義の値として保存します。保存された設定は以後リストボックスから呼び出すことができます。
- ◆ 「Reset」ボタンを押すとすべての変更をキャンセルし、ガンマラインは本来の位置に戻ります。
- ◆ 「OK」ボタンを押すと、変更した設定を保存し、メニューを閉じます。
- ◆ 「Cancel」ボタンを押すとすべての変更をキャンセルし、メニューを閉じます。

メッセージボード





KN2108/KN2116 はマルチユーザーのログインに対応しておりますので、アクセスの競合を招く可能性があります。こうした問題を軽減するために、ユーザー同士が相互にコミュニケーションをとれるメッセージボード機能をご用意しております。

このメッセージボードは、インターネットのチャットプログラムのような機能を備えております。Windowsクライアントコントロールパネルにあるメッセージボードアイコン (p.90 参照) をクリックすると、下図のような画面が表示されます。



ボタンバー

ボタンバーにある各ボタンはトグル式になっております。各ボタンの機能の詳細は下記の表のとおりです。

ボタン	機能
	チャットを 有効/無効 にします。チャットが無効になっている場合、メッセージボードに送られたメッセージは表示されず、このボタンは網掛けされたように表示されます。また、この場合、左のようなアイコンがユーザーリストパネルのユーザー名の横に表示されます。
	キーボード・ビデオ・マウスを 専有/開放 します。KVM スイッチを専有していると、他のユーザーはコンピュータのモニタリング、キーボード・マウス入力ができなくなり、このボタンが網掛けされたように表示されます。また、この場合、左のようなアイコンがユーザーリストパネルのユーザー名の横に表示されます。
	キーボード・マウスを 専有/開放 します。キーボード・マウスを専有している場合、他のユーザーはモニタリングできますが、キーボードやマウスの入力はできなくなり、このボタンが網掛けされたように表示されます。また、この場合左のようなアイコンがユーザーリストパネルのユーザー名の横に表示されます。
	ユーザーリストを 表示/非表示 にします。ユーザーリストを非表示にしていると、ユーザーリストパネルは終了します。また、ユーザーリストが表示されているとき、このボタンは網掛けされたように表示されます。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに送信するメッセージは、システムメッセージと同様にこのパネルに表示されますが、チャットを無効にしているとメッセージボードに送信されたメッセージは表示されません。

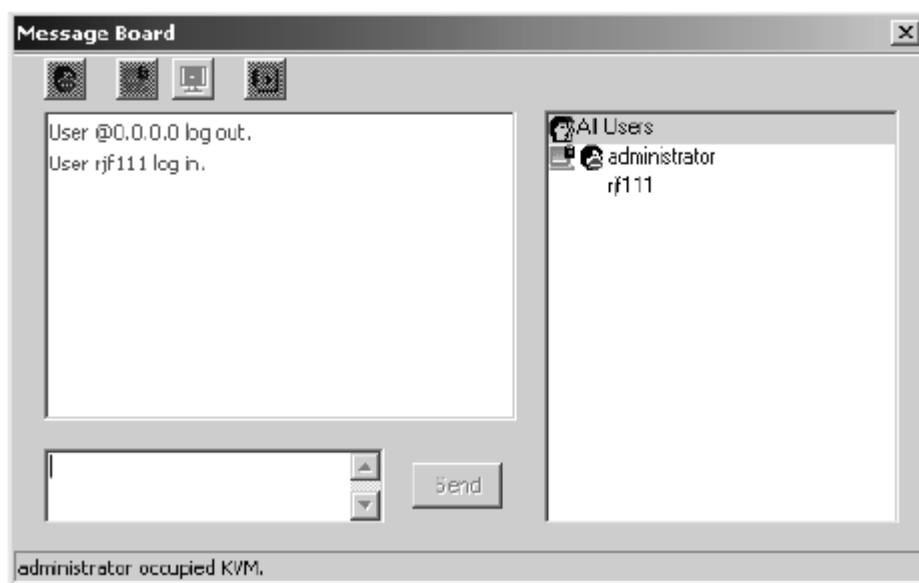
メッセージ入力パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこの部分に入力します。メッセージを編集し、送信する場合は、「Send」ボタンをクリック、または[Enter]キーを押してください。

ユーザーリストパネル

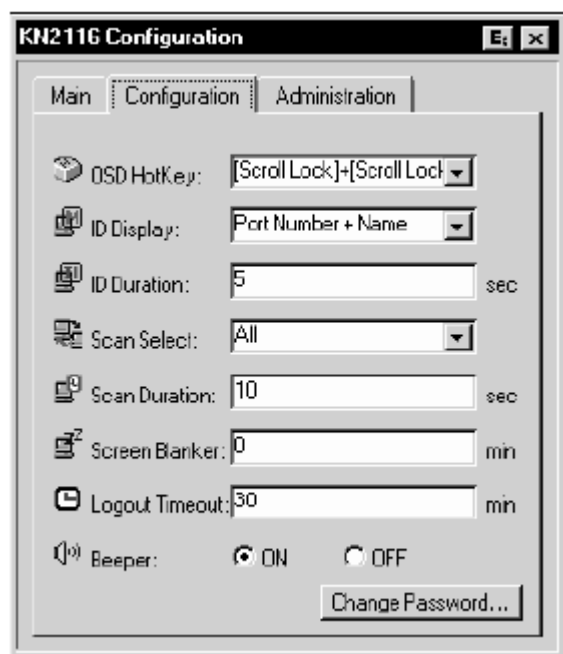
現在 KN2108/KN2116 にログインしているユーザーのユーザーネームがこのパネルに一覧表示されます。

- ◆ 自身の名前はオリーブ色で、自分以外のユーザーネームは緑色で表示されます。
- ◆ デフォルトでは、メッセージはすべてのユーザーに送信されます。ある特定のユーザーにメッセージを送信する場合は、メッセージを送信する前に対象となるユーザーをリストから選択してください。
- ◆ 特定のユーザーをリストで選択した後、すべてのユーザーにメッセージを送信する場合は、メッセージを送信する前に、「All Users」と書かれた部分を選択してください。
- ◆ ユーザーがチャットを無効にしている場合、ユーザーネームの前にチャット無効のアイコン（網掛けされたアイコン）が表示されます。
- ◆ ユーザーが KVM スイッチ、またはキーボード・マウスを専有している場合、KVM スイッチ専有アイコン、またはキーボード・マウス専有アイコンがそれぞれ表示されます。



Configurationタブ

OSD画面の Configuration タブでは、各ユーザーが個別にオリジナルの使用環境を設定することができます。KN2108/KN2116 では、ログインユーザー別に作業環境を管理しており、ユーザーがログインするとそのユーザーの設定内容にしたがって作業環境を構築します。



Configuration タブの設定内容は以下の表のとおりです。

設定項目	機能
OSD Hotkey	OSD 機能呼び出すホットキーを、[Scroll Lock] 2 度押し、または [Ctrl] 2 度押しの中から選択します。[Ctrl] を使うと他のアプリケーション使用の上で不具合が起こる場合があるため、デフォルトでは [Scroll Lock] 2 度押しになっています。
ID Display	<p>ポート ID の表示方法を選択します。</p> <p>ポート番号のみ (PORT NUMBER) ポート名のみ (PORT NAME) ポート番号とポート名 (PORT NUMBER + PORT NAME)</p> <p>の 3 種類が用意されています。デフォルトではポート番号とポート名 (PORT NUMBER + PORT NAME) です。</p>
ID Duration	ポートが変更された後にポート ID がモニタに表示されている時間を設定します。1~255 秒の間で設定できます。デフォルトは 3 秒です。
Scan Select	<p>オートスキャンモード (p.85 参照) でアクセスするコンピュータを選択します。以下の項目から選択し、設定してください。</p> <p>ALL: すべてのポートにアクセス POWERED ON: アクセス可能かつ電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW: アクセス可能かつクイックビューポート (p.46) として選択されたポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON: アクセス可能かつクイックビューポートとして選択されている、電源がオンになっているコンピュータ</p> <p>デフォルトでは ALL になっています。</p>
Scan Duration	オートスキャンモード (p.85) で動作中、各ポートを表示するインターバル時間を決定します。1~255 秒の間で設定してください。デフォルトでは 5 秒になっています。0 秒で設定すると、オートスキャンモードが無効になります。
Screen Blanker	一定時間以上コンソールからの入力がない場合に、スクリーンをブランクにします。1~30 分の間で設定してください。0 分で設定すると、この機能を無効にします。デフォルトでは 0 分になっています。
Logout Timeout	一定時間以上コンソールからの入力がない場合に、ログイン中のオペレータを自動的にログアウトさせます。このタイムアウト機能でログアウトすると、KN2108/KN2116 にアクセスするには再びログインする必要があります。

(表は次のページに続きます)

設定項目	機能
Beeper	ON に設定すると、ポート変更時、オートスキャンモードが有効になった時、OSD メニューで無効なエントリが入力された時に、それぞれビープ音が鳴ります。デフォルトでは ON に設定されています。
Change Password	このボタンをクリックすると、「Change password」ダイアログが表示されます。

第6章

Javaクライアント

OSDの起動

ログインに成功した後 (p.73)、JavaクライアントOSDを起動するには以下の手順に従って操作してください。

1. KN2108/KN2116 の Web ページ左側にある Java Client ボタン (矢印がついていない方のアイコン) を押してください。

注意:

1. Java クライアントを使用する場合、お使いのコンピュータに、Sun Java 2 JRE1.4.2 以降のバージョンのものがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、Sun 社のサイトより無料でダウンロードできます。 <http://java.sun.com>
2. 矢印のついている方のJava Clientボタンからは、Javaクライアントのアプリケーション版を提供しています。(詳細はp.130の「Javaクライアント」を参照)

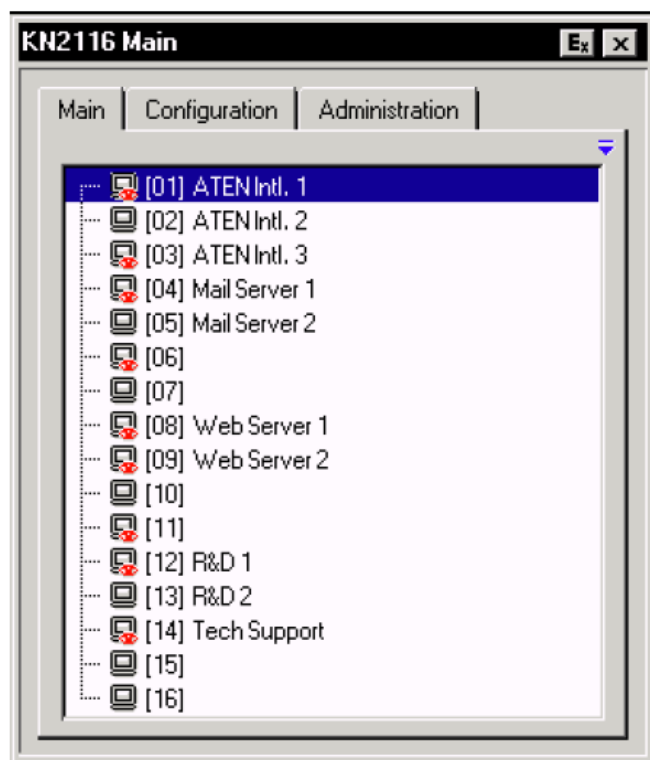
2. 「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」ダイアログが表示されますので、「**実行**」ボタンを押してください。

3. Web ブラウザによっては、再び「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されますが、この場合も「**実行する**」ボタンを押してください。

注意:

1. Web ブラウザから直接ファイルが実行できない場合は、一旦ディスクに保存し、KN2108/KN2116 の Web メニューにブラウザでアクセスしたまま、そのプログラムを実行してください。
2. プログラムを一旦ディスクに保存してから実行した場合、セキュリティのためにも以前ダウンロードし使用したプログラムを使いまわして実行せず、その都度新しいファイルをダウンロードし、そのファイルを実行してログインしてください。

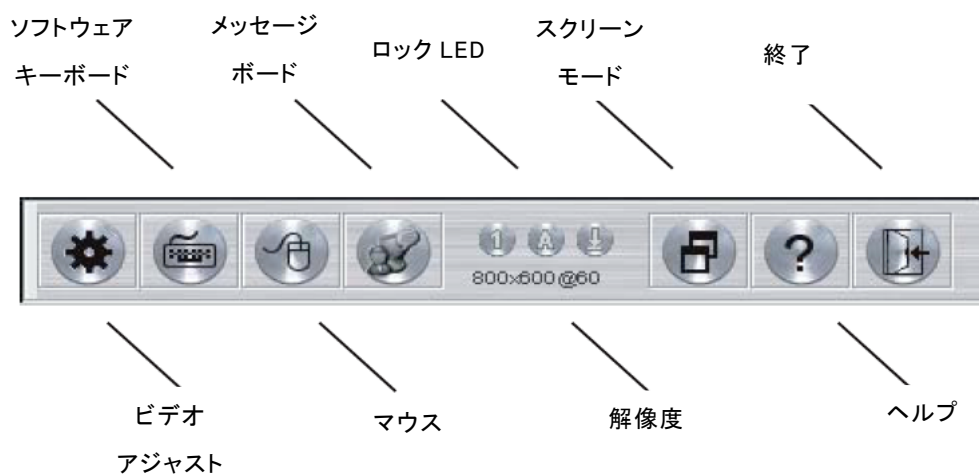
OSD が起動すると、以下のようなメインメニューがお使いのモニタに表示されます。



この画面はWindowsクライアント起動時に表示されるOSDメイン画面と同じものです。このメイン画面の各項目についての詳細はp.46の「Mainタブ」の内容をご参照ください。

Javaクライアント コントロールパネル

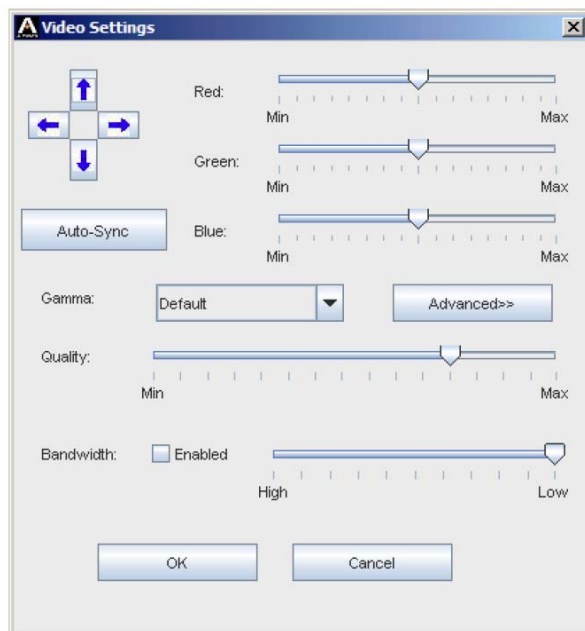
Windows クライアントのコントロールパネルとは違い、通常 Java クライアントのコントロールパネルは画面下部中央に隠れています。マウスポインタをその位置まで移動させると下図のようなコントロールパネルが表示されます。



各ボタンの機能については次ページで詳しく説明します。

ビデオアジャスト (歯車ボタン)

Java クライアントコントロールパネルの左端にある歯車ボタンをクリックすると、「Video Settings」ダイアログが表示されます。



設定方法はWindowsクライアントのVGAユーティリティの説明に準じます。詳細についてはp.94をご参照ください。

キーボード (キーボードボタン)

一部のキーボード入力はキャプチャされず、KN2108/KN2116 へ送られない場合があります。これらのキーをリモートシステムに対して実行したい場合、キーボードボタンをクリックしてください。キーパッドが表示されるので、ボタンを押すことによってそのキーの代わりに使用することができます。



マウス (マウスボタン)

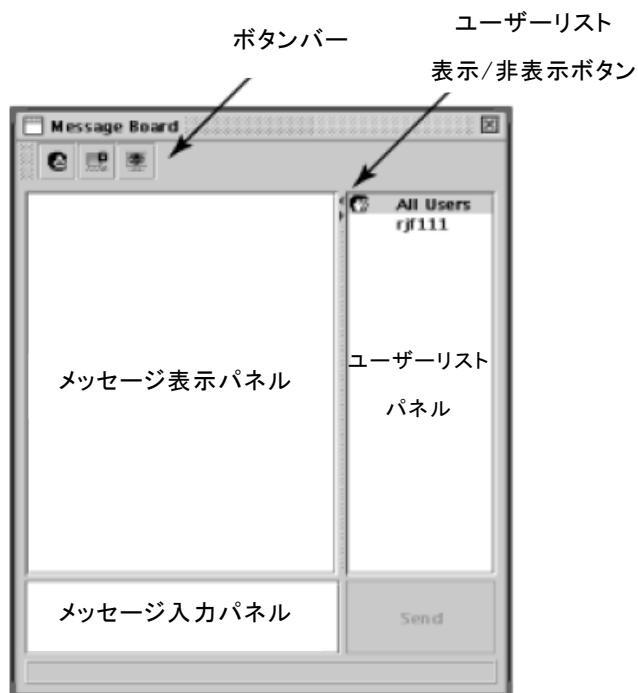
時折、ローカルのマウスポインタとリモートのマウスポインタの挙動が同期を失う場合があります。このようなときにはマウス同期機能で正常に戻します。ポインタの同期には以下の2つの方法があります。

1. マウス同期ボタンをクリックすると、リモートのマウスポインタがスクリーン左上部に移動します。そのあとローカルのマウスポインタを左上に移動したリモートマウスポインタに重ね合わせ、左クリックしてください。ポインタが同期します。
2. ローカルのマウスポインタを Java クライアント コントロールパネルの上に移動させ、左クリックします。

メッセージボード




KN2108/KN2116 はマルチユーザーログインをサポートしています。ログインしているユーザー同士のコミュニケーションを可能にするために、一般的なメッセージタイプインターフェースのメッセージボード機能を提供しております。

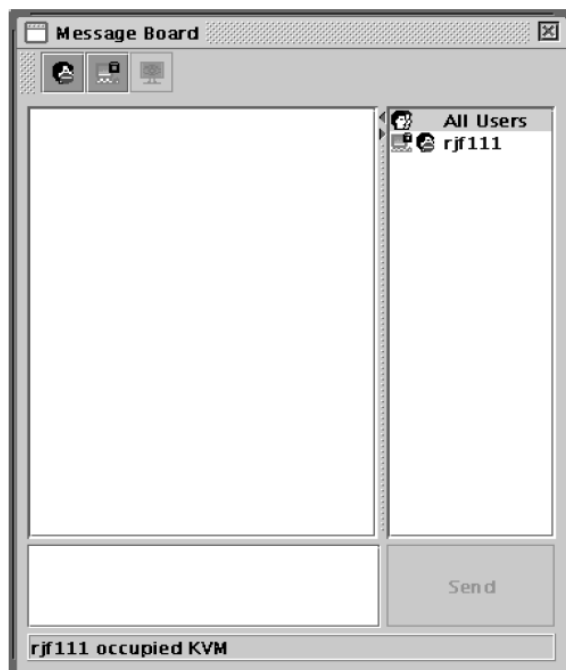
このメッセージボード機能は、一般的なインターネットチャットプログラムと同様の機能を備えております。Javaクライアントツールバーのメッセージボードアイコン (p.105参照) をクリックすると、以下のようなウィンドウが表示されます。



メッセージボードボタンバー

メッセージボード内のボタンバーに配置されている各ボタンはトグルボタンで、操作するたびに内容のオン/オフを切り替えます。各ボタンの機能は以下の表のとおりです。

ボタン	機能
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、このボタンは網がけされた状態になり、メッセージボードにメッセージが送信されても表示されません。ユーザーリストパネルのユーザー名の横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。
	キーボード・モニタ・マウス(KVM)を専有/解放します。KVMがあるユーザーによって専有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングおよびキーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザー名の横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがKVMを専有していることを表しています。
	キーボード・マウスを専有/解放します。キーボード・マウスがあるユーザーによって専有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングは可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザー名の横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを専有していることを表しています。



- ◆ ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージはシステムメッセージと同様、メッセージ表示パネルに出力されますが、チャット機能を無効にしている場合はボードにメッセージが書き込まれても表示されません。
- ◆ メッセージを送信したい場合は、メッセージ入力パネルで内容を編集し、「Send」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 現在、KN2108/KN2116 にログインしているユーザーの一覧は、ユーザーリストパネルに表示されます。
 - デフォルトでは、メッセージは全ユーザーに送信されます。ある特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、ユーザーリストパネルから対象となるユーザーを選択してから、メッセージを送信してください。
 - 特定のユーザーの選択操作を行った後に、全ユーザーにメッセージを送信したい場合は、ユーザーリストパネルから「All Users」を選択し、メッセージを送信してください。
 - ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
 - ユーザーが KVM やキーボード・マウスを専有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
 - ユーザーリストの表示/非表示を行う場合は、メッセージ表示パネルとユーザーリストパネルの間にある三角ボタンをクリックしてください。

Lockキー LED（中央上段）

コントロールパネル中央にはリモートシステムの Lock キーの状態を示す LED が表示されています。左から順にそれぞれ Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の状態を示しています。LED がグリーンの際は Lock が ON です。マウスポインタを LED 上に合わせてクリックするとオン/オフを切り替えます。

注意： まれに初期接続時にインジケータの表示が実際と異なっている場合があります。そのような場合はローカルの状態と同期させるために、インジケータをクリックして正しい内容に設定してください。

VGA解像度（中央下段）

リモートシステムの VGA 解像度が Lock LED の真下に表示されています。

クエスチョンマーク

このボタンをクリックすると、KN2108/KN2116 のオンラインヘルプ画面を表示します。

終了

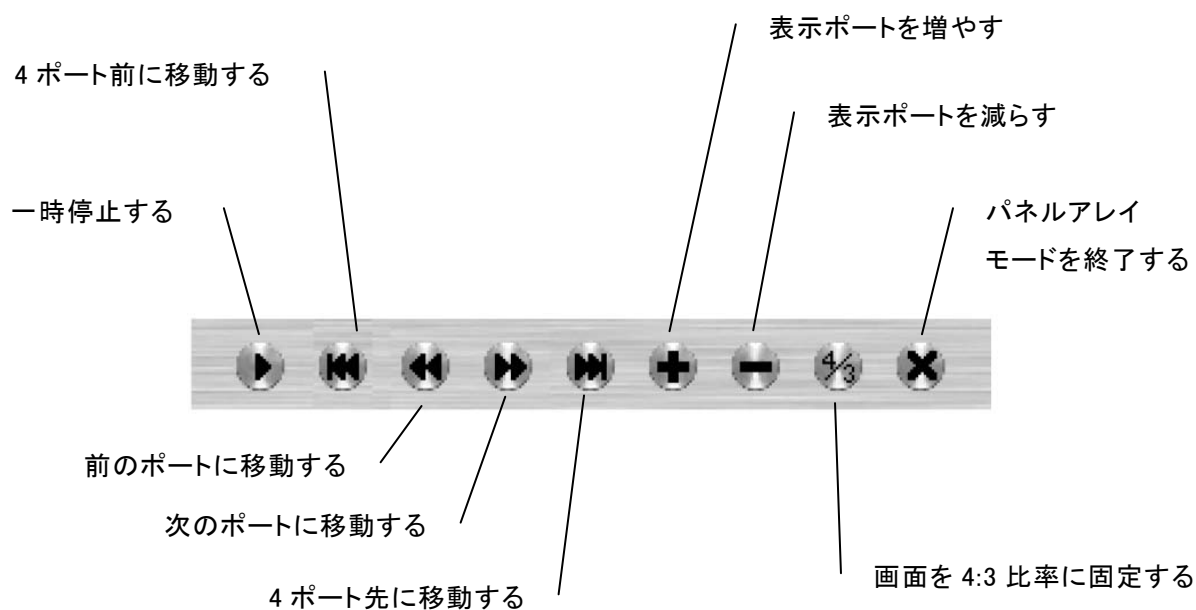
このボタンをクリックすると、Java クライアントのセッションを終了します。

ポート操作

Javaクライアントにおけるポート操作はWindowsクライアントと同様にお使いいただけます。詳細についてはp.82をご参照ください。

パネルアレイモード

Javaクライアントのパネルアレイモードは、Windowsクライアントのパネルアレイモード(p.87参照)と基本的には同じようにお使いいただけますが、ツールバーに若干異なる機能がございます。Javaクライアントのパネルアレイモードツールバーの各項目の機能は以下のとおりです。



注意: 一時停止ボタンをクリックすると、パネルはポートのスキャンを停止しますが、このとき、このボタンの外観(一時停止ボタン)が矢印ボタンに、ツールチップが「Resume」にそれぞれ変わります。スキャンを再開する場合は、この「Resume」ボタンをクリックします。

ホットキー操作

Javaクライアントのホットキー操作はWindowsクライアントに準じます。操作の詳細についてはp.85をご参照ください。

Configurationタブ

Javaクライアント設定ページの内容はWindowsクライアントに準じます。各項目の詳細についてはp.100をご参照ください。

第7章

ログファイル

メイン画面

KN2108/KN2116 は発生するすべてのイベントを記録して、検索可能なデータベースとなるログファイルを作成します。ログファイルの内容を参照するには、Web ページ左側の Log ボタンをクリックします。クリックすると以下のような画面が表示されます。



- ◆ ログファイルに保管されるデータの最大件数は 512 です。この最大件数に達すると、ファイル内の最も古いログを削除し、新しいデータを書き込みます。
- ◆ ログファイルをクリアするには、画面右下の Clear Log アイコンをクリックします。

注意: このログファイルは KN2108/KN2116 の電源が切られたとき、また、電力不足になったときに、自動的に削除される一時ファイルです。ログファイルの内容のバックアップを作成される場合は、ログサーバをインストール・設定することをお勧めします。

第 8 章

ログサーバ

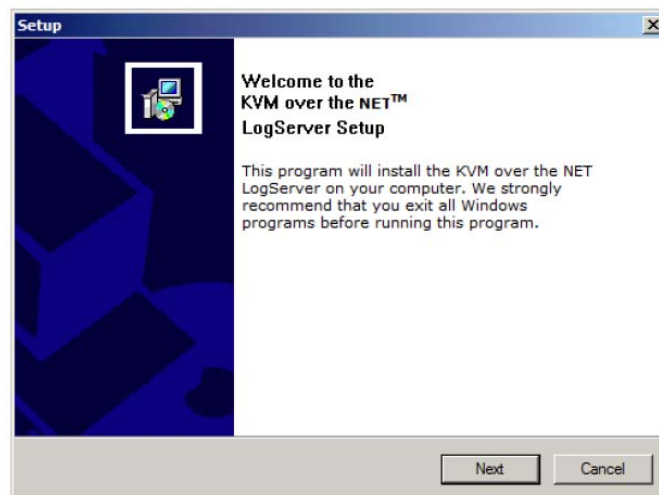
Windows ベースの KN2108/KN2116 のログサーバは、指定された KN2108/KN2116 で発生する全イベントを記録し、そのログをデータベース化してユーザーに提供する、管理者向けのユーティリティです。この章では、ログサーバのインストールおよび設定方法について説明します。

インストール

1. ログサーバとして使用したいコンピュータでブラウザを開き、KN2108/KN2116 にログインします。(p.73 参照)
2. Web ページの左側にある「Log Server」ボタンをクリックして、ログサーバインストールプログラムを実行します。
3. 「セキュリティの警告」ダイアログ等が表示されても、警告を受け入れず、「実行する」または「開く」ボタンをクリックして、インストーラーを起動させます。

注意: ブラウザからインストーラーを起動できない場合は、一旦ディスクに保存してからインストーラーを実行してください。

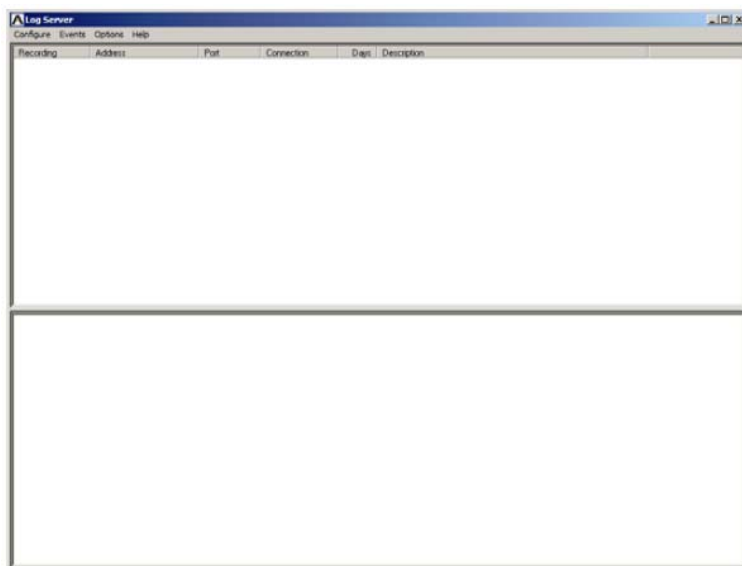
インストーラーを実行すると、以下のようなログサーバセットアップダイアログが表示されます。



4. 「Next」ボタンを押して、インストーラーの画面内の指示にしたがって操作してください。インストールが完了すると、このプログラムのアイコンがデスクトップに作成されます。

はじめに

ログサーバを起動するにはデスクトップに作成されたプログラムアイコンをダブルクリックするか、コマンドプロンプトでプログラムのフルパスを入力します。初回起動時にはこのような画面が表示されます。



注意: ログサーバのイベントデータベースを管理するコンピュータの MAC アドレスは OSD Administration タブの Service Configuration メニューで設定しておく必要があります。(p.57 参照)

画面は以下の 3 つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部メニューバー
- ◆ メニューバー下部のKN2108/KN2116 リストパネル(詳細はp.121参照)
- ◆ 最下部のイベントリストパネル

各コンポーネントの詳細に関しては後述しますので、そちらをご参照ください。

メニューバー

ログサーバのメニューバーは以下の 4 つの項目から構成されています。

- ◆ Configure
- ◆ Events
- ◆ Options
- ◆ Help

各項目の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

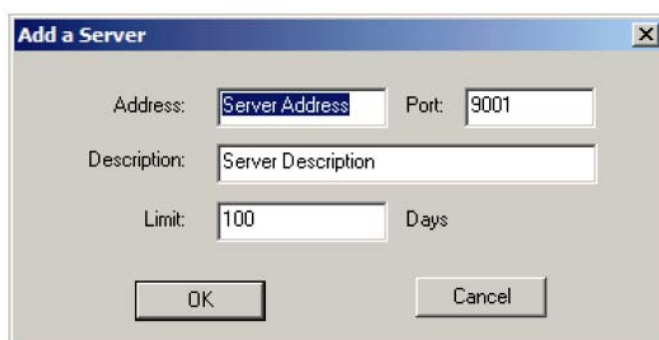
注意: ログサーバのウィンドウが選択されていない等の理由でメニューバーが有効になっていないように見える場合がございますが、このような場合は KN2108/KN2116 一覧表示パネルをクリックし、ウィンドウをアクティブにしてメニューバーをご利用ください。

Configure

Configure メニューには「Add」、「Edit」、「Delete」の 3 つのサブメニューが存在します。Add メニューでは KN2108/KN2116 ユニットの一覧への新規追加を、「Edit」メニューではリストに登録されたユニット情報の編集を、また、「Delete」メニューでは一覧からのユニットの削除をそれぞれ行います。

- ◆ KN2108/KN2116 ユニットを一覧に新たに追加する場合は、「**Add**」メニューをクリックしてください。
- ◆ リストから KN2108/KN2116 のユニットを編集したり削除したりする場合は、リストから対象となる項目を選択し、この「Configure」メニューから「**Edit**」または「**Delete**」メニューをクリックしてください。

「Add」または「Edit」メニューをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



ダイアログボックスの各フィールドの説明は以下の通りです。

フィールド	説明
Address	KN2108/KN2116 の IP アドレスまたは DNS 名 (DNS 名が有効になっている場合) を入力してください。
Port	KN2108/KN2116 に割り当てられたアクセスポートです。(p.57 参照)
Description	このフィールドを使って、ユニットの識別を容易にするために追加情報を入力することができます。
Limit	ログサーバのデータベースにイベントログが保存される日数を設定します。ここで設定された日数が経過したログは Maintenance メニューを利用して削除することができます。(p.119「Maintenance」参照)

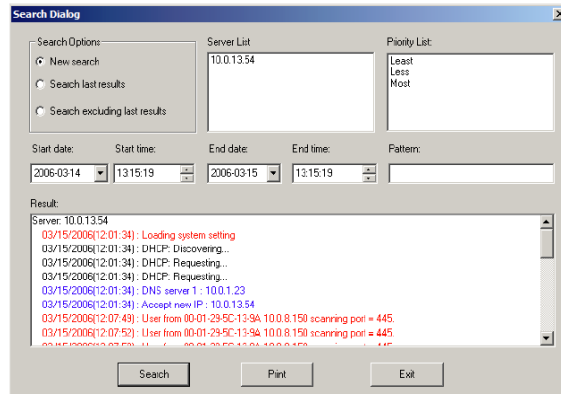
フィールドに必要な事項を入力し、「OK」ボタンを押してください。

Events

Events メニューは「Search」と「Maintenance」の 2 つのサブメニューから構成されています。

Search

Search メニューは、単語や条件を指定してイベントログを検索します。この機能呼び出すと、以下のような画面が表示されます。



各項目の説明は以下の通りです。

項目	説明
Search Options	検索の対象となるデータの種類を以下のラジオボタンから選択します。
New search	このラジオボタンが選択されると、選択された KN2108/KN2116 で発生したすべてのイベントを対象にして検索を行います。
Search last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果を対象に検索を行います。
Search excluding last results	このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果以外を対象にして検索を行います。
Server List	KN2108/KN2116 が IP アドレス順に一覧表示されます。ログの検索を行いたい KN2108/KN2116 をリストから選択してください。(複数選択可)このリストから何も選択されていない場合は、すべての KN2108/KN2116 のログを対象に検索を行います。
Priority List	検索結果の表示レベルを設定します。1 を指定すると全体的な情報が、また、3 を指定すると特定した情報がそれぞれ表示されます。
Start Date	検索対象となるログの起点となる日付をカレンダーコントロールから選択、もしくはリストボックスに「YYYY/MM/DD」の形式で直接入力してください。
Start Time	検索対象となるログの起点となる時刻をリストの上下ボタンで調節、もしくはリストボックス「HH:MM:SS」の形式で直接入力してください。
End Date	検索対象となるログのタイムスタンプの終点となる日付を入力してください。設定方法は表の「Start Date」と同様です。
End Time	検索対象となるログのタイムスタンプの終点となる時刻を入力してください。設定方法は表の「Start Time」と同様です。

(表は次のページに続きます)

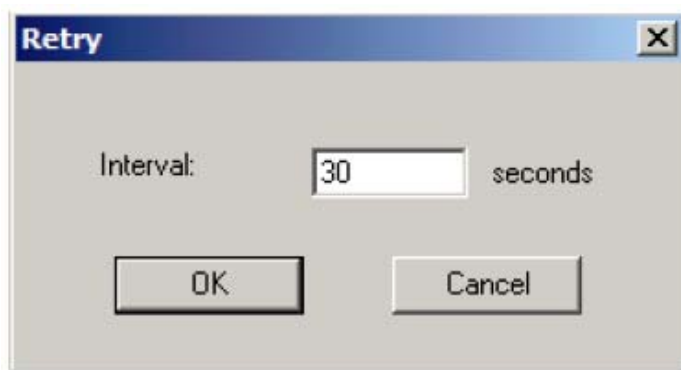
項目	説明
Pattern	パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(%)を使用することも可能です。 例) h%ds という検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。
Result	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
Search	入力された条件で検索を行います。
Print	検索結果を印刷します。
Exit	このダイアログボックスを終了します。

Maintenance

データベースに登録されたログは、「Limit」の項目 (p.117参照) で設定された日数が経過しても自動的に削除されず、ログサーバ内に保存されます。このメニューをクリックすることでデータベースのログを削除することができます。

Options

「Network Retry」で、ネットワーク接続に失敗した際に、接続を再試行するまでの秒数を設定します。この項目をクリックすると、このようなダイアログボックスが表示されます。



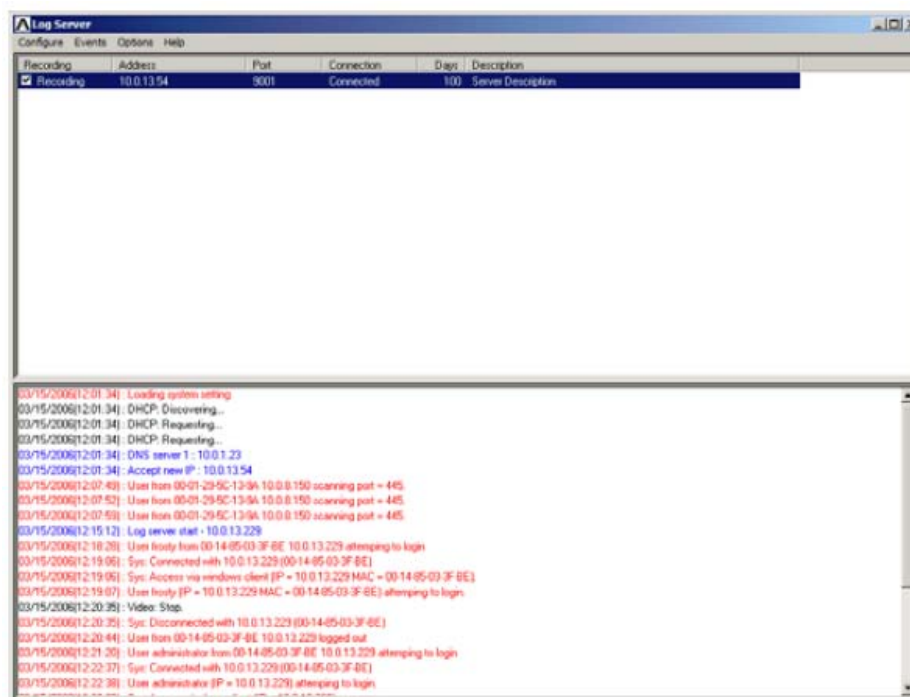
秒数を入力し、「OK」を押してください。

ログサーバ メイン画面

概要

ログサーバのメイン画面は2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、現在、ログ取得の対象となっているKN2108/KN2116の一覧が表示されます。(p.116の「Configure」参照)
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在リストパネルで選択されている KN2108/KN2116のイベントログが表示されます。
- ◆ 別の KN2108/KN2116 のイベントログを参照する場合は、リストパネルから対象となる KN2108/KN2116 を選択します。



リストパネル

KN2108/KN2116 リストパネルの各項目の詳細は以下の表のとおりです。

項目	説明
Recording	ログサーバがこのリストに表示されている KN2108/KN2116 のログを記録するかどうかを設定します。項目にチェックを入れると、この欄に「Recording」と表示され、ログの記録を行います。項目からチェックをはずすと、この欄に「Paused」と表示され、ログの記録は行いません。 注意: このリストに表示されている KN2108/KN2116 は選択状態にかかわらず、チェックがついていればログサーバはそのユニットのログを記録します。
Address	KN2108/KN2116 がログサーバに登録された際に設定されたIPアドレスまたはDNS名です。(p.116「Configure」参照)
Port	KN2108/KN2116 が通信に使用するポート番号です。(p.116「Configure」参照)
Connection	◆ ログサーバが KN2108/KN2116 に接続している場合、このフィールドには「Connected」と表示されます。 ◆ KN2108/KN2116 に接続していない場合には、このフィールドに「Waiting」と表示されます。これはログサーバのMACアドレスが正しく設定されていないことを表していますので、OSD AdministrationタブのNetworkメニューで正しい内容に設定してください。(p.58参照)
Days	KN2108/KN2116 のイベントをログサーバに保管する日数を表します。(p.116「Configure」参照)
Description	ログサーバ登録時に設定されたKN2108/KN2116 に関する追加情報です。(p.116「Configure」参照)

イベントパネル

このパネルには、リストパネルで選択された KN2108/KN2116 のイベントログが表示されます。リストパネルで選択されていない項目のログはイベントリストパネルには表示されませんが、リストパネルでチェックが入っていれば、そのユニットのログはログサーバのデータベースに登録されます。

第9章

ユーティリティソフトウェア

はじめに

ブラウザベースの各種ユーティリティのほかに、KN2108/KN2116 ではブラウザを利用しない環境でもお使いいただけるよう、Windows クライアント、Java クライアントといった GUI ベースのクライアントアプリケーションを提供しております。

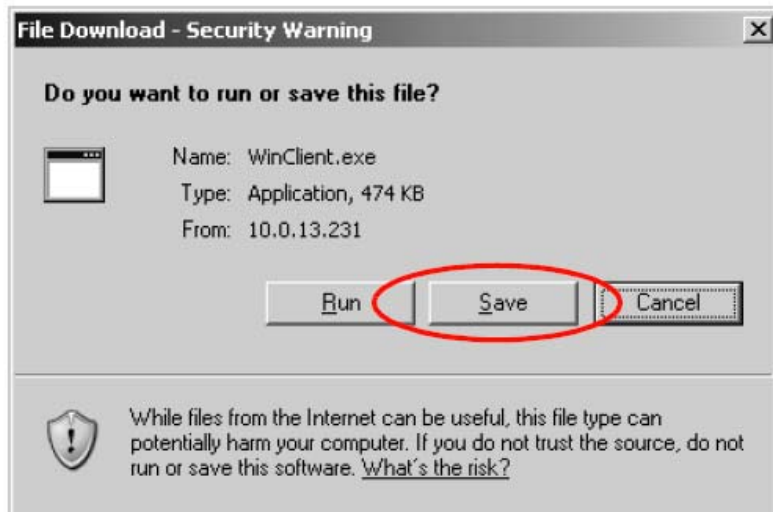
これらのプログラムは、一度Webブラウザからダウンロードしていただければ、何度でも繰り返しお使いいただけますので、管理者はこの機能によってKN2108/KN2116 へのWebブラウザ経由でのアクセスを制限することが可能です。(p.66の「Working Mode」参照)

Windowsクライアント

セットアップ

Windows クライアントをお使いのコンピュータにインストールする場合は、以下の手順で作業してください。

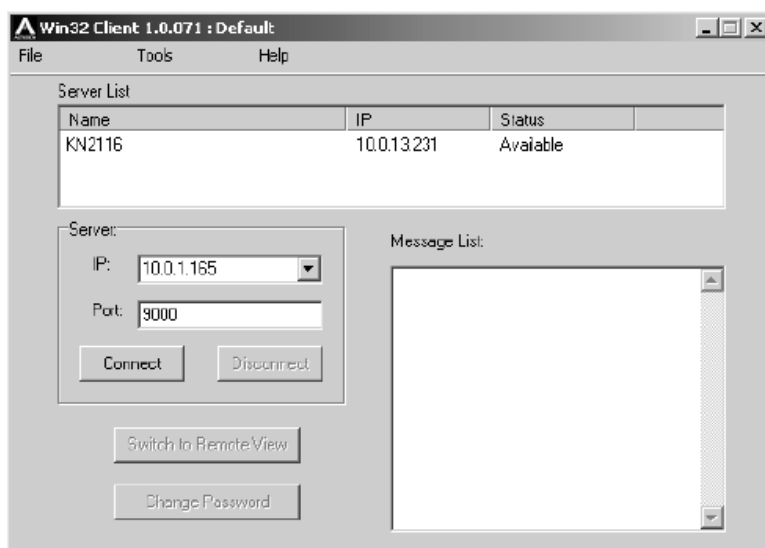
1. Web ブラウザで KN2108/KN2116 にログインし、Web 画面左側にある「Windows Client」アイコン(矢印がついているもの)をクリックしてください。アイコンをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



2. 「Save」ボタンをクリックしてください。
3. 「名前をつけて保存」ダイアログが表示されますので、ファイルをコンピュータの適当な場所に保存してください。

起動方法

KN2108/KN2116 に Windows クライアントを使ってアクセスする場合は、Windows クライアントをダウンロード・保存したフォルダに移動して、「WinClient.exe」のアイコンをダブルクリックしてください。Windows クライアントが起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。



注意: Windows クライアントの動作環境には DirectX 7.0 以降がインストールされている必要があります。インストールされていないとクライアントソフトウェアが起動しませんので、ご注意ください。

接続画面における各項目の詳細は以下の表のとおりです。

項目	説明
メニューバー	<p>メニューバーは「File」、「Tools」、「Help」の 3 つの項目から構成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> Fileメニューでは、作業用ファイルの作成・保存・読み込みを行うことができます。(詳細についてはp.126参照) Toolsメニューには「Keyboard」と「Config」のサブメニューがあります。(詳細についてはp.126参照)
Server List	<p>Windows クライアントの起動時に、ローカル LAN セグメントにある KN2108/KN2116 を検出し、このリストに一覧表示します。特定のユニットに接続する場合は、その項目をリストから選択し、ダブルクリックしてください。</p>
Server	<p>この項目はリモートから KN2108/KN2116 に接続する際に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 接続対象となる IP アドレスをリストボックスから選択することができます。 ◆ 対象となる IP アドレスがリストにない場合、IP アドレスをリストに直接入力し、ポート番号を該当フィールドに入力することで接続することが可能です。(接続に使用するポート番号がご不明な場合は、KN2108/KN2116 の管理者までお問い合わせください。) ◆ IP アドレスおよびポート番号が確定したら、「Connect」ボタンを押して接続します。 ◆ 作業を終了する場合は「Disconnect」を押してコネクションを切断してください。
Message List	<p>KN2108/KN2116 との接続に関するステータスメッセージを一覧表示します。</p>
Switch to Remote View	<p>KN2108/KN2116 との接続が確立すると、このボタンが有効になります。KN2108/KN2116 に接続されたリモートコンソール画面に切り替える場合は、このボタンをクリックしてください。</p> <p>リモートコンソール画面に切り替わると、お使いのモニタにリモートコンソールのデスクトップが表示され、キーボード・マウスからの入力は KN2108/KN2116 に送られ、ローカル接続されたコンピュータで実行されます。</p> <p>KN2108/KN2116 を KVM スイッチと併用している場合は、実際に手元で操作しているかのようにコンピュータの切替を行うことができます。</p>
Change Password	<p>KN2108/KN2116 との接続が確立すると、このボタンが有効になります。このボタンを使うと、KN2108/KN2116 にログインする際のパスワードを変更することが可能です。</p>

Fileメニュー

Fileメニューでは、作業用ファイルの作成・保存・読み込みを行うことができます。KN2108/KN2116の作業用ファイルには、ローカルLANセグメントにあるKN2108/KN2116に関する情報、ホットキーの設定といった、KN2108/KN2116との接続および製品に関する設定情報が書き込まれています。

クライアントプログラムを起動すると、前回の作業終了時に生成された作業用ファイルの設定を読み込みます。

項目	説明
New	設定値を新規ファイルに保存します。この機能によって、接続を一旦終了した後も保存した値を再び読み込んでお使いいただくことができます。
Open	過去に保存した作業用ファイルを読み込みます。
Save	設定値を現在開いているファイルに上書き保存します。

Toolsメニュー

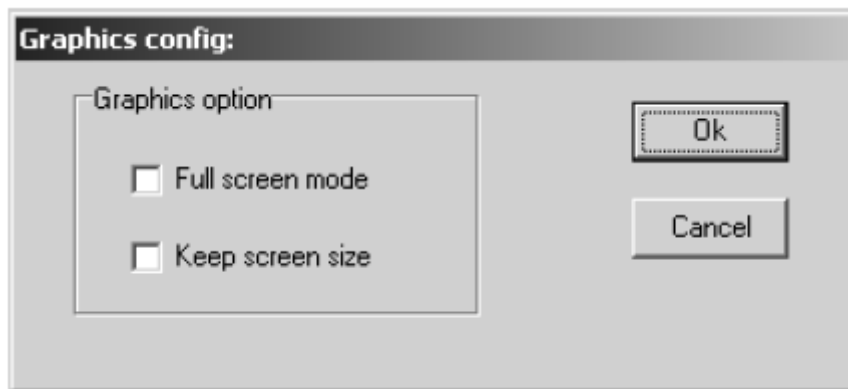
Toolsメニューの操作は、KN2108/KN2116への接続後、かつリモートコンソールへの切替前にご利用いただけます。Toolsメニューには「Keyboard」と「Config」の2つのサブメニューがあります。これらの詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

Keyboard

キーボード・ビデオ・マウスに関する設定操作はホットキーによって実現することができます。ホットキーセットアップユーティリティはこのToolsメニューのKeyboardサブメニューから実行します。Keyboardサブメニューを起動すると、ホットキーセットアップ画面が表示されます。このダイアログは、基本的にWebブラウザベースのWindowsクライアントのホットキーセットアップ画面と同じです。詳細に関してはp.85の「ホットキー操作」をご覧ください。

Config

「Config」サブメニューを起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。

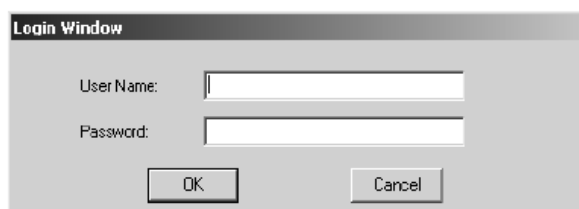


- ◆ 「Full screen mode」が有効になっている(チェックが入っている)と、お使いのリモートディスプレイにはローカルディスプレイの画面が最大化されて表示されます。
- ◆ 「Full screen mode」が無効になっている(チェックが入っていない)と、リモートディスプレイにはローカルディスプレイのデスクトップが通常のウィンドウで表示されます。ローカルディスプレイの解像度がウィンドウサイズよりも大きい場合は、マウスポインタを表示したい方向のウィンドウ端まで移動させれば、その方向にスクロールします。
- ◆ 「Keep screen size」が有効になっている(チェックが入っている)と、ローカルのデスクトップはリサイズされず、そのままの解像度で表示されます。
 - ローカルディスプレイの解像度のほうが小さい場合、ローカルの画面はウィンドウとしてお使いのリモートモニタの中央部に表示されます。
 - ローカルディスプレイの解像度のほうが大きい場合、ローカルの画面の一部がお使いのモニタの中央部に表示されます。モニタ上に表示されていない箇所を操作する場合は、ウィンドウの中でその場所に一番近い隅にマウスポインタを動かすと、画面がスクロールされます。
- ◆ 「Keep screen size」が有効になっていない(チェックが入っていない)と、ローカルコンソールのデスクトップはお使いのリモートモニタの解像度に合わせてリサイズされます。

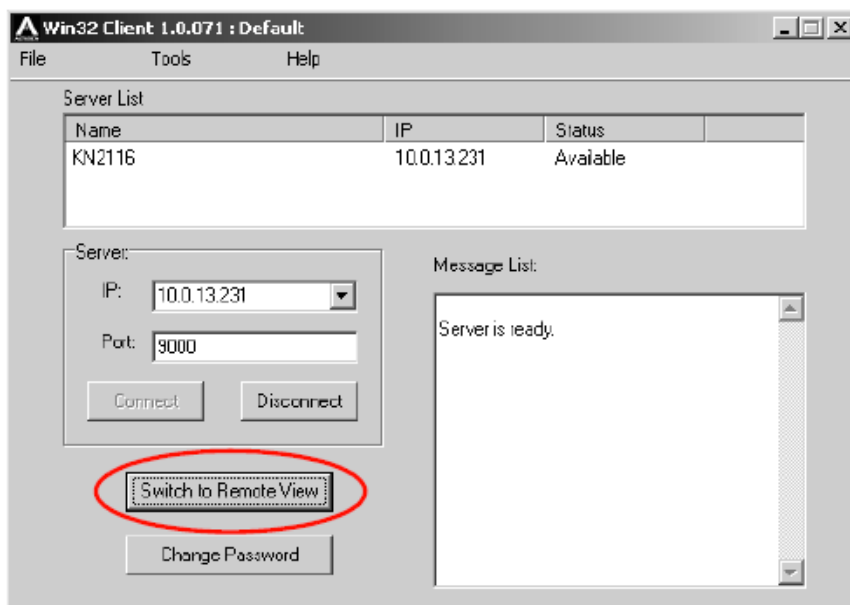
接続方法

KN2108/KN2116 ユニットに接続する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 接続したい KN2108/KN2116 が「Server List」にすでに表示されている場合は、その項目をリストから選択し、**ダブルクリック**してください。また、KN2108/KN2116 の IP アドレスとポート番号を入力して指定する場合は、「Server」の項目にある「IP」のフィールドに KN2108/KN2116 の IP アドレスを、また「Port」のフィールドに通信で使用するポート番号をそれぞれ入力し、「**Connect**」ボタンを押します。この操作を行うと、以下のようなログインダイアログボックスが表示されます。



2. 正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「**OK**」ボタンを押してください。
「OK」ボタンを押すと、プログラムは KN2108/KN2116 との接続処理を開始します。処理内容に関するステータスメッセージは、「Message List」で確認することが可能です。
3. KN2108/KN2116 との接続が確立すると、「Switch to Remote View」ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、KN2108/KN2116 経由でリモートコンソールの画面に切り替えることができます。



操作方法

KN2108/KN2116 との接続が確立されると、ローカルシステムのビデオ出力の内容がお使いのモニタに表示されると同時に、リモートでのキーボード・マウスの入力はローカルシステムに送られます。

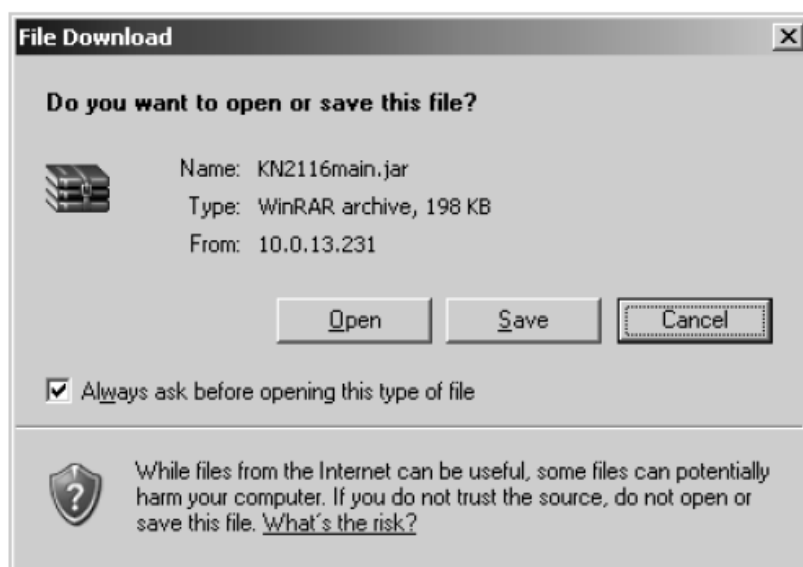
アプリケーション版Windowsクライアントの外観および操作方法はWebブラウザ版のWindowsクライアントと同様ですので、詳細に関してはp.79をご参照ください。

Javaクライアント

セットアップ

Java クライアントをお使いのコンピュータにインストールする場合は、以下の手順で作業してください。

1. Web ブラウザで KN2108/KN2116 にログインし、Web 画面左側にある「Java Client」アイコン(矢印がついているもの)をクリックしてください。アイコンをクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



2. 「**Save**」ボタンをクリックしてください。
3. 「名前をつけて保存」ダイアログが表示されますので、ファイルをコンピュータの適切な場所に保存してください。

起動方法

KN2108/KN2116 に Java クライアントを使ってアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

1. コマンドプロンプトを開き、Java クライアントファイル (KN2108main.jar または KN2116main.jar) をインストール・保存したフォルダに移動します。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

```
java - jar KN2108main.jar
```

または

```
java - jar KN2116main.jar
```

注意: Java クライアントソフトウェアの動作環境には 1.4.2 以降のバージョンの Java がインストールされている必要があります。それ以前のバージョンの Java は動作の保証外ですので、ご注意ください。

Java クライアントを起動すると、以下のような「Address Input」ダイアログが表示されます。



3. 接続したい KN2108/KN2116 の IP アドレスを入力し、IP アドレスの後ろにスラッシュを入力した後で KN2108/KN2116 の Java クライアント Web ページの名前を入力してください。

注意: Java クライアント Web ページの名前は、セキュリティのために必ず IP アドレスの後ろに付け加えてください。この Web ページの文字列は、不正アクセス防止のために KN2108/KN2116 の管理者によって予告なしに変更される場合があります。Java クライアントで接続する際には、この Web ページが正しいものであることを確認してください。

KN2108/KN2116 との接続が確立すると、以下のような Login ダイアログが表示されます。



4. 正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンを押してください。
KN2108/KN2116 への認証処理が完了すると、リモートシステムのデスクトップがお使いのモニタに表示されます。

操作方法

アプリケーション版Javaクライアントの外観および操作方はWebブラウザ版のJavaクライアントと同様ですので、詳細に関してはp.103をご参照ください。

付録

トラブルシューティング

一般的な操作

症状	考えられる原因	対処
KN2108/KN2116の動作が不安定である。	システムのリセットが必要です。	リセットスイッチ (p.24 参照) を 3 秒以上長押ししてください。
マウスあるいはキーボードが反応しない。	マウスまたはキーボードのリセットが正しく行われていない可能性があります。	コンソールポートからマウス/キーボードのケーブルを抜き、挿しなおしてください。
ネットワーク接続が突然失われる。	KN2108/KN2116 のローカルリセットが行われたことが考えられます。	KN2108/KN2116 への接続を切断し、30 秒以上待ってから再ログインしてください。
リモートコンソールにビデオが表示されない。	ローカルコンソールの解像度が 1,600×1,200 に設定されているのに対し、リモートコンソール側では 1,280×1,024 までしかサポートされていません。	ローカルコンソールの解像度を 1,280×1,024 に設定してください。
ブラウザからログインした際に、「404 Object Not Found」というメッセージが表示される。	ブラウザからログインする際に、IP アドレスは指定しているものの、デフォルト Web ページ名が指定されていない可能性があります。	ブラウザの URL バーには KN2108/KN2116 の IP アドレスと、デフォルト Web ページ名を指定してアクセスしてください。(p.65「Default Web Page Name」参照)
ログインした際に、「セキュリティの警告」ダイアログが表示され、「セキュリティ証明書に問題がある」という内容のメッセージが表示される。	認証名が Microsoft の信頼された認証局のリストに登録されていないことが原因です。	このセキュリティ証明書は信頼できるものです。対応方法の詳細については p.138 の「信頼された証明書」をご参照ください。
ローカルコンピュータにアクセスすると、マウスポインタが 2 つ出現する。	これは KN2108/KN2116 の仕様です。1 つはローカルコンソールのマウスポインタ、もう 1 つはローカルコンピュータのマウスポインタです。	「Toggle mouse display」の機能を使って、マウスポインタを縮小することができます。詳細は p.92 をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

症状	考えられる原因	対処
リモートコンソールのディスプレイがゆがんで表示され、Auto sync 機能を使っても解決しない。	Auto sync 機能では適切な解像度を確定することはできません。	<ol style="list-style-type: none"> 異なる解像度のポートに切り替えた後で元に戻してください。 1 の方法で解決しない場合、そのポートの解像度とリフレッシュレートを変更してください。この操作で新しい解像度でご利用になることもできますし、元の解像度に切り替えることもできます。

管理操作

症状	説明	対処
ファームウェアをアップグレードしたにもかかわらず、アップグレードする前のバージョンがKN2108/KN2116のWeb画面に表示される。	お使いのインターネットブラウザが新しいKN2108/KN2116のページに更新されず、キャッシュされた内容を表示している可能性があります。	お使いの Web ブラウザによって以前表示したページがキャッシュされている可能性があります。ブラウザのインターネット一時ファイルや Cookie を削除して、ブラウザを再起動してください。
KN2108/KN2116 の設定を変更し、「Reset on exit」の項目にチェックを入れても、ログアウトした後でシステムがリセットされない。	Windows 2000 Professional、IE 5 を使用した環境でKN2108/KN2116 にログインするとこの現象が見られます。	お使いの Internet Explorer を IE6.0.2800.1106 以降にアップデートしてください。
KN2108/KN2116 の設定を変更し、「Reset on exit」の項目にチェックを入れてログインしなおすと、カレンダーが以前の日付に設定される。	「Reset on exit」を実行した際に KN2108/KN2116 の日付はファームウェアのリリース日に戻ります。	<ol style="list-style-type: none"> 自動的に正しい日付を設定するように、リモートコンソールからログインしてください。 ローカルコンソールからログインした場合は、OSDのAdministrationタブで日付を正しく設定しなおしてください。(p.53 および p.71 参照)

Windowsクライアント

症状	対処
Windows クライアントで KN2108/KN2116 へ接続できない。	DirectX 7.0 以降がお使いのコンピュータにインストールされている必要があります
リモートシステムのマウスポインタが同期していない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. Auto Sync機能 (p.95参照) を使用してローカルとリモートのモニタを同期させてください。 2. Adjust Mouse機能 (p.92参照) を使用してマウスを同期させてください。 3. 上記の 2 つの方法でも問題が解決しない場合は、ローカルのマウス動作に関する設定が原因である可能性があります。p.141をご参照ください。
リモートシステムのウィンドウの一部しか表示されない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「Keep Screen Size」が有効になっていない場合 (p.80参照)、Auto Sync機能 (p.95参照) を使用してローカルとリモートのモニタを同期させてください。 2. 「Keep Screen Size」が有効になっている場合は、スクロールバーを動かすことで画面に表示されていない部分も操作することが可能です。p.80の注意書きをご参照ください。
リモート画面が 90° 回転して表示される。	「Keep Screen Size」(p.80参照) を有効にしてください。
Windows クライアントが起動していると、Net Meeting が起動できない。	「Keep Screen Size」(p.80参照) を有効にしてください。

Javaクライアント

マウス同期の問題については、p.93およびp.141をご参照ください。KN2108/KN2116 への接続と操作についての問題は、以下の表をご覧ください。

症状	対処
Java クライアントで KN2108/KN2116 へ接続できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. Java 2 JRE1.4.2 以降がお使いのコンピュータにインストールされている必要があります。 2. 「Address Input」ダイアログボックスに入力する IP アドレスの後ろにスラッシュを続け、その後にデフォルト Web ページ名が指定されていることを確認してください。 3. 一度 Java クライアントを閉じてから再試行してください。
Windows メニューキーを押しても反応しない。	Java は Windows メニューキーをサポートしていません。
Java クライアントのパフォーマンスが低下した。	プログラムを一度終了させ、再び実行してください。
英語以外の言語の文字が表示されない。	英語以外の文字を入力する際に、ローカルキーボードのレイアウトが英語以外に設定されている場合は、リモートコンピュータのキーボードレイアウトを英語に設定する必要があります。

ログサーバ

症状	解決方法
ログサーバプログラムが実行できない	<p>ログサーバプログラムはデータベースにアクセスするために Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバが必要です。</p> <p>このドライバは Windows ME、2000、XP には標準で搭載されていますが、Windows 98 や NT をご使用になっている場合は、Microsoft 社のサイトからダウンロードしてインストールする必要があります。</p> <p>http://www.microsoft.com/data/download.htm</p> <p>ダウンロードページで以下のファイルを検索し、入手します。</p> <p>MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)</p> <p>このドライバは Windows Office Suite でも使用されているので、Windows Office Suite をインストールしてもログサーバプログラムが実行可能になります。</p>

Sunシステム

症状	解決方法
HDB15 インターフェースでのビデオディスプレイに関する問題がある。 (Sun Blade 1000 サーバー)	VGA 解像度を 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 コマンドモードの環境では、OK Mode で以下のコマンドを実行してください。 <code>setenv output-device screen:r1024x768x60</code> <code>reset-all</code> Xwindow の環境では以下の操作を行ってください。 1. コンソールを開いて以下のコマンドを実行してください。 <code>m64config -res 1024x768x60</code> 2. ログアウトします。 3. ログインします
13W3 インターフェースでのビデオディスプレイに関する問題がある。 (Sun Ultra サーバー)	VGA 解像度を 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 コマンドモードの環境では、OK Mode で以下のコマンドを実行してください。 <code>setenv output-device screen:r1024x768x60</code> <code>reset-all</code> XWindow モードの環境では以下の操作を行ってください。 1. コンソールを開いて以下のコマンドを実行してください。 <code>ffbconfig -res 1024x768x60</code> 2. ログアウトします。 3. ログインします

注意: これらは最も一般的な Sun の VGA カードを使用した場合を想定した解決方法です。上記の方法でも問題が解決しなかった場合は、Sun VGA カードのマニュアルをご確認ください。

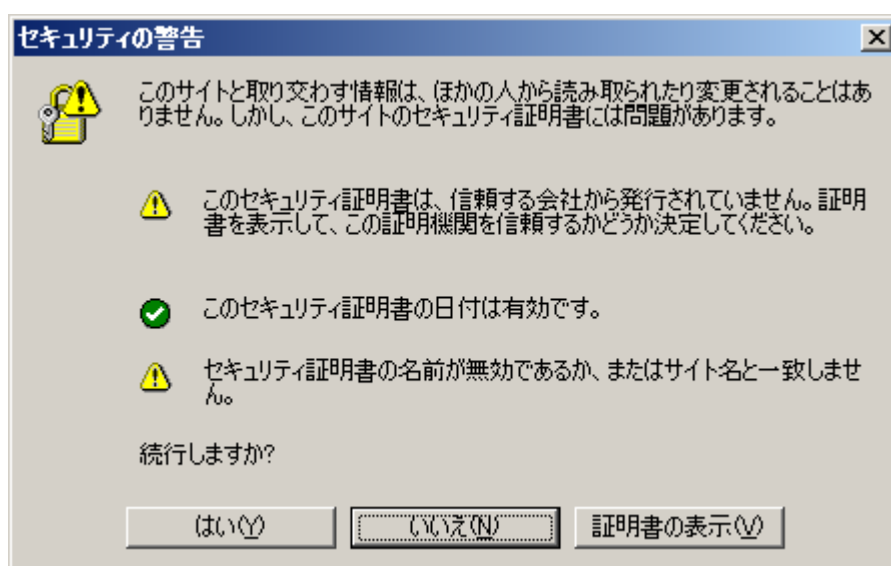
パネルアレイモード

現象	対処法
パネルアレイモードが低解像度で表示される。	画面に表示されるパネル数を増やしてください。
複数のリモートユーザーが同時ログインした場合、一部のユーザーのモニタは画面の一部しか表示されない。	最初にパネルアレイモードを起動したユーザーは、画面表示の設定を 4 分割に変更してください。

信頼された証明書

概要

Web ブラウザ経由で KN2108/KN2116 にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピュータから作業している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピュータから作業している場合は、証明書をお使いのコンピュータにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

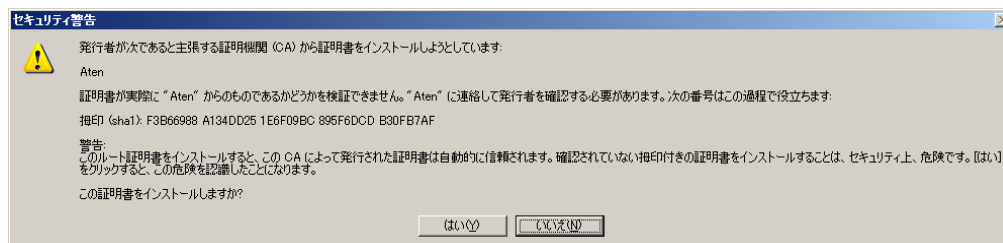
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

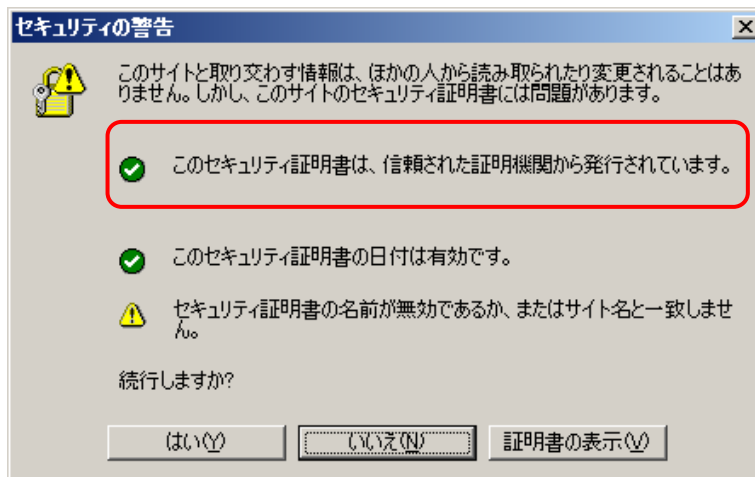
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



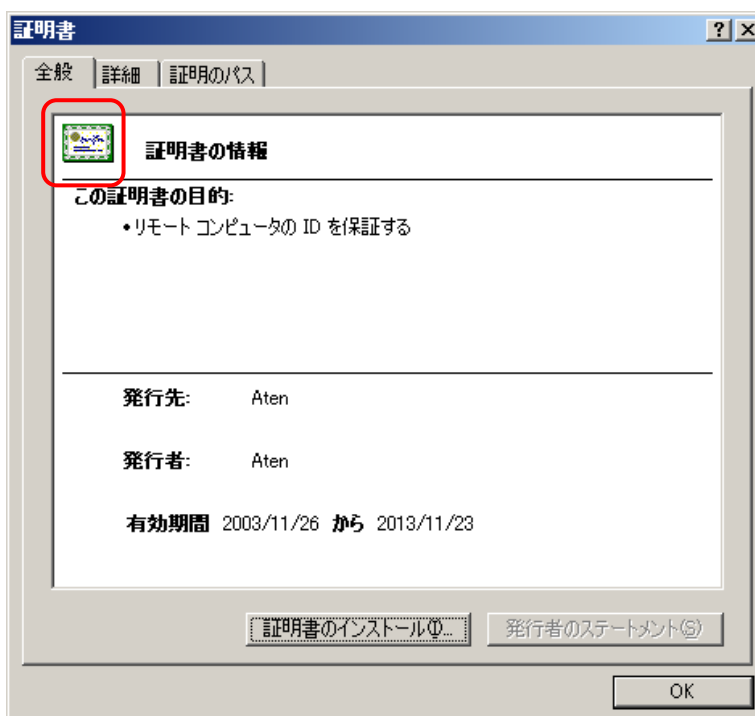
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



その他のマウス同期方法

リモートアクセスの際にマウスポインタが同期できない場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

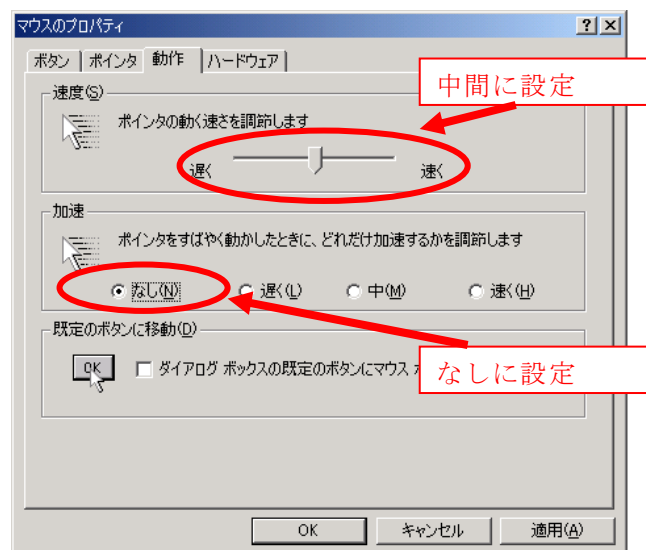
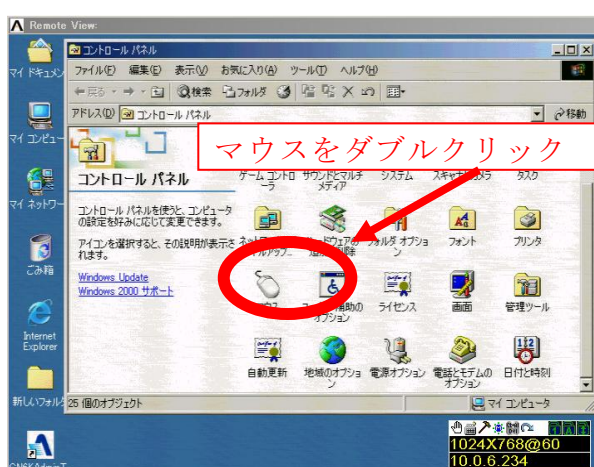
【 Windows 2000 】

[スタートボタン]→[設定]→[コントロールパネル]→マウスのプロパティ を開きます。

“ 動作 ” タブを開きます。

以下のように設定します。

速度	中間に設定します
加速	「なし」チェックします
既定のボタンに移動	チェックをはずします



マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事で、マウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

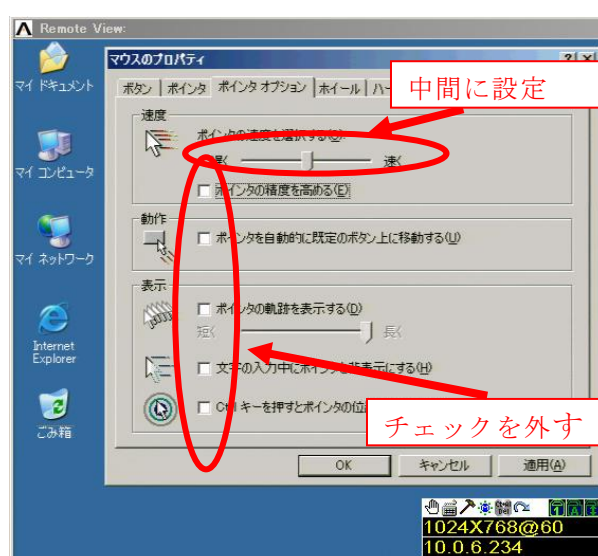
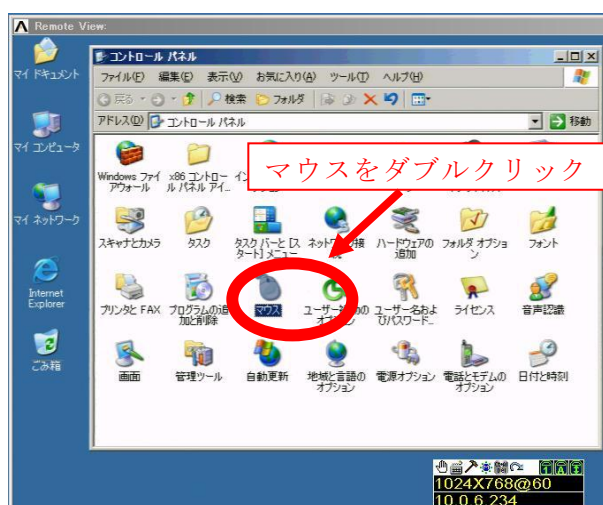
【 Windows XP / Windows Server 2003 】

[スタートボタン] → [設定] → [コントロールパネル] → [マウス] を選択し、マウスのプロパティを開きます。

“ ポインタオプション ” の設定をします。

以下のように設定します。

速度	中間に設定します 「ポインタの精度を高める」のチェックをはずします
動作	チェックをはずします
表示	全てのチェックをはずします



マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事で、マウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

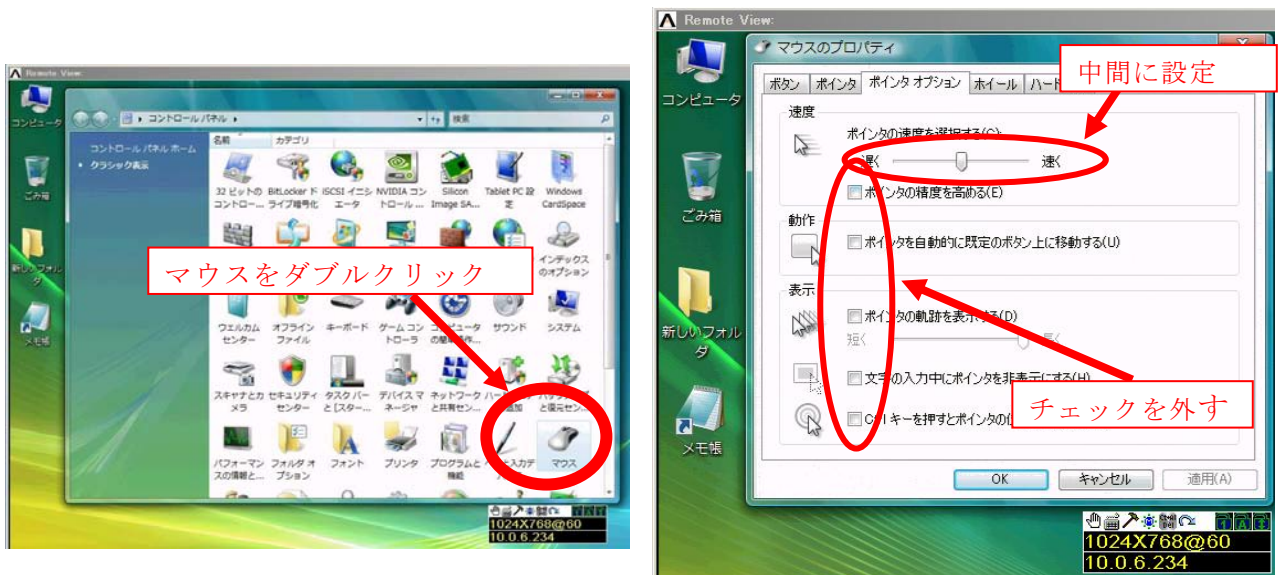
【 Windows Vista 】

[スタート]→[コントロールパネル]→ [マウス]を選択し、マウスのプロパティを開きます。

“ ポインタオプション ” から設定をします。

以下のように設定します。

速度	中間に設定します 「ポインタの精度を高める」のチェックをはずします
動作	チェックをはずします
表示	全てのチェックをはずします



マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事で、マウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

【 Linux Red hat 】

[個人設定]→[マウス設定]→全てのスライドバーを中間に設定します。

マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウに戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

【 SUN Solaris 】

[Terminal]起動後に下記のようにタイプします。

```
xset m 1
```

マウスポインタを一旦リモートウィンドウの外に出し、再度マウスポインタをリモートウィンドウにも戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

フルスクリーン表示の場合には、マウスポインタを右下の OSD ツールバー上まで移動し、再度画面上に戻す事でマウスポインタ位置が自動的に調整されます。

【設定を行ってもマウスカーソルが同期しない場合】

上記の設定でポインタが上手く同期されない場合は、以下の操作を行い、アクティブポインタを最小化(十字型カーソルから点字型カーソルに変更)してご使用ください。

この機能は、フルスクリーンモードのみで使用できます

ファンクションキーを次の順番で押します。

```
[F11]→[F10]→[F9]
```

もう一度、上記操作を行うと、元の設定に戻ります。

製品仕様

機能		KN2108	KN2116
コンピュータ接続数		8	16
コンソール接続数	ローカル	1	
	リモート	2	
コンピュータ側対応 インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
	マウス		
コンソール側対応 インターフェース	キーボード	PS/2	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピュータ側 コネクタ	キーボード	RJ-45×8	RJ-45×16
	マウス		
	モニタ		
コンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1	
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1	
	モニタ	D-sub15 ピンメス×1	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ポート選択 (ポートアップ/ダウン)	プッシュボタン×2	
	電源	ロッカースイッチ×1	
LAN ポート		RJ-45×1	
PON(RS-232)ポート		DB-9 オス×1	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1	
LED	オンライン	グリーン×8	グリーン×16
	ポート選択	オレンジ×8	オレンジ×16
	リンク	グリーン×1	
	10/100Mbps	オレンジ/グリーン×1	
	電源	ブルー×1	
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)	
電源仕様		AC100V～240V 50～60Hz	
VGA 解像度		リモート接続: 1,280×1,024@60Hz ローカル接続: 1,600×1,200@60Hz	
消費電力		12W	
動作環境	動作温度	0～40℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH 結露なきこと	

(表は次のページに続きます)

機能	KN2108	KN2116
ケース材料	メタル	
重量	3.65kg	3.7kg
サイズ(W×D×H)	438×284×44mm	
同梱品	電源コード×1 クイックスタートガイド×1 ユーザーマニュアル×1 ラックマウントキット×1 フットパッド×1	
対応 KVM モジュール	《PS/2 用モジュール》 KA9120 《USB 用モジュール》 KA9170 《シリアルモジュール》 KA9140	
旧 SUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA9130	
新 SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA9170	
MAC 用モジュール	KA9170	

OSD工場出荷時設定

設定	出荷時設定
OSD ホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポート ID 表示	ポート番号+ポートネーム
ポート ID 表示時間	3 秒
スキャン/スキップ モード	すべてのポートが対象
スキャン インターバル時間	5 秒
スクリーン ブランカー	0 分(無効)
ビープ音	オン
アクセス可能ポート	フルアクセス(すべてのユーザーがすべてのポートに対してアクセス可能)

KN2108/KN2116 とのカスケード接続対応製品

KN2108/KN2116 と他の KVM スイッチを併用する場合、ATEN では KH1508/KH1516 をカスケード接続することを推奨しますが、以下の製品も KN2108/KN2116 とのカスケード接続に対応しています。

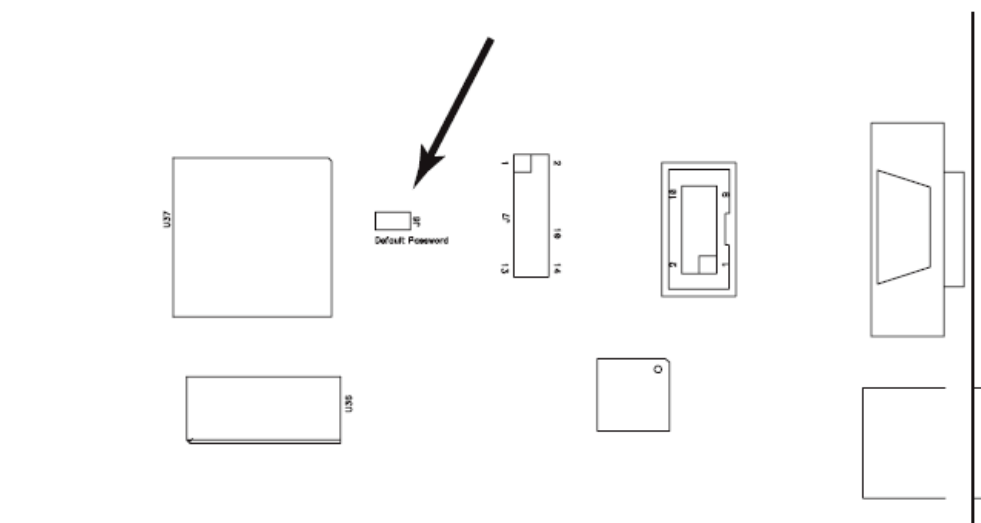
- ◆ CS-88A
- ◆ CS-138A
- ◆ CS-9134
- ◆ CS-9138

-
- 注意:**
1. カスケード方法については、お使いの KVM スイッチのユーザーマニュアルをご参照ください。
 2. 2 段階を超えるカスケード接続はサポートの対象外ですので、ご注意ください。
-

ログイン情報の消去

ユーザー名やパスワードを忘れた等の理由で、万が一アドミニストレーター権限でログインできなくなった場合には、以下の手順でログイン情報をクリアすることができます。

1. KN2108/KN2116 の電源を切り、ケースを取り外します。
2. **J8** のジャンパースイッチをショートさせます。



3. そのまま KN2108/KN2116 の電源を入れます。
4. 10/100Mbps LED が点滅するのを確認してから電源を切ります。
5. J8 からジャンパーキャップを取り外します。
6. ケースを元に戻し、KN2108/KN2116 を再起動します。

再起動後ログイン情報がクリアされていますので、デフォルトのユーザー名とパスワード(p.43参照)を使用してログインしてください。